

令和 4 年度第 1 回浜田市総合教育会議

日 時 令和 4 年 6 月 29 日（水） 10 時から 12 時まで（予定）
場 所 浜田市役所 3 階庁議室
構成員 久保田市長 砂川副市長
岡田教育長 宇津委員 花田委員 杉野本委員 岡山委員
事務局 森脇教育部長 邊教育部社会教育担当部長 草刈教育総務課長
山口学校教育課長 永田学校教育課社会教育担当課長
鳥居学力向上推進室長

1 市長あいさつ

2 協議事項

(1) 教育行政に係る意見交換

ア ICT 等を活用した学力育成の取組について

①ICT 活用教育について …… 資料 1

②学力育成の取組について …… 資料 2

イ 子どもたちの協働のまちづくりへの参画を見据えた学校・家庭・地域社会からのアプローチについて …… 資料 3

①まちづくりセンターを拠点とした協働事業

②社会教育等の手法を活かした人材育成

③学校での取組

ウ その他意見交換

3 その他

抜 粋 版

浜田市 ICT 活用教育 ハンドブック



タブレット端末との出会い(周布小学校)

SINCE 2021. 6

浜田市教育委員会・浜田市校長会

目 次

はじめに	1
1 G I G Aスクール構想と I C T活用教育	3
(1) G I G Aスクール構想	3
① G I G Aスクール構想の目的	3
② 浜田市がG I G Aスクール構想で目指す教育	4
③ クラウドバイディフォルト	5
④ 浜田市G I G Aスクール構想推進プラン	6
(2) I C T活用教育	7
① I C T活用教育の目的	7
② I C T活用教育の目標	7
③ I C T活用教育のポイント	8
④ 小中連携と（9年間の学びの積み重ね）	9
2 I C T環境を整えよう	10
(1) 学校の I C T環境	10
(2) 教室の I C T環境	10
(3) 一人一台のタブレット端末	11
① アカウントの準備とログイン	11
② 使用を想定しているソフト	12
③ Teams を使うための「チーム」と「チャネル」の作成	13
3 一人一台タブレット端末の第一歩	14
(1) タブレット端末との出会い	14
① タブレット端末を使うときの約束	14
② タブレット端末を使うときの健康面への配慮	16
③ 見え方のバリアフリー	17
(2) 出会いの授業例	18
(3) 浜田市G I G Aスクール構想推進プラン3か月チェック表	20
4 I C Tを活用した授業づくり	21
(1) 授業展開のイメージ	21
(2) I C Tを活用することでできること	22
(3) 教育における I C Tの特性・強み	23
(4) 教育における I C Tの役割	23
(5) 「学び」を助ける「 I C T」	24
(6) 認識を高める「情報入力（INPUT）のハイブリッド	25
(7) 「主体的な学び」を助ける「 I C T」	26
(8) 「対話的な学び」を助ける「 I C T」	27
(9) 「 I C Tの効果」は「かけ算」で	28
(10) 「授業のスタンダード：1単位時間の流れ」×「 I C T」	29
(11) タブレット端末活用系統表	30
(12) 「オーダーメイドの支援」を助ける「 I C T」	31
(13) プログラミング教育	34
5 情報活用能力の育成	36
(1) 情報活用能力の育成と各要素	36
(2) G I G Aスクール時代の情報モラル・セキュリティ教育	37
6 校務の情報化	38
7 その他	39
(1) 浜田市スクールガイドライン	39
(2) アカウント内データの引継ぎについて	40

実践記録（指定校の実践及び授業実践例）

令和3年度 ICT 機器を活用した授業改善指定校（周布小学校）の取組
 令和3年度作成 授業実践例

② 浜田市がGIGAスクール構想で目指す教育

浜田市では、「夢を持ち郷土を愛する人を育みます」という基本理念を掲げ、「自ら学び高めあう学習活動を推進し、郷土に誇りを持った次世代を担う人づくり」を目指し、「学校教育の充実」「家庭教育支援の推進」「社会教育の推進」「生涯スポーツの振興」「歴史・文化の伝承と創造」に取り組んでいます。

「学校教育の充実」を図るために、子どもの「生きる力」を育むため、学ぶ意義を深め、学ぶ意欲を高めるとともに、学習の基礎となる国語力の向上に努め、基礎学力の向上に加え、思考力、判断力、表現力などの幅広い学力の向上を目指し、「子どもの声でつくる授業～主体的・対話的で深い学びに向けた質の高い授業の実現」をテーマとして、授業改善の取組を行っています。

【基本方針】

「子どもの声でつくる授業」を推進していくことで、「主体的・対話的で深い学び」に向けた質の高い授業を目指す。

※「子どもの声でつくる授業」とは、「主語が教師ではなく『子ども』の授業」

【重点】

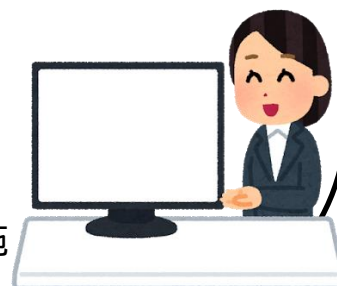
- 学習の見通しを立て振り返る営み
- 考えを深め、広げる営み

【取組】

- 授業のゴールを子どもの姿で具体的に想定し、授業を構想(単元、小単元、1 単位時間)する。
- 子どもの学びの状況を踏まえながら、授業者と子どもが授業像を共有し、授業の質が高まっていくように取り組む。
- 子どもとのやり取りで解決方法(手段)まで見通しを立てる「めあて」を設定する。
- 授業研究は、子どもの学びの状況(子どもが取り組んだ事実)を的確に見取り、その見取りを基に子どもの姿を出し合い共有し、その姿を根拠として授業の進め方について協議する。
- これらの取組を支えるために「授業づくりシート」を活用する。

【取組の具体】①③を重点とする。

- ①学習への見通しを立てる営み
- ②自分の考えをもつ営み
- ③考えを深め広げる営み
- ④まとめと振り返りの営み
- ⑤「授業づくりシート」を活用した授業研究の実施



GIGAスクール構想によって整備された「一人一台のタブレット端末」や「高速大容量ネットワーク」、「大型提示装置」「書画カメラ」などの ICT 機器は、浜田市の進める「授業改善の取組の基盤的なツール」として、毎日の授業の中で効果的に活用されることを目指しています。

③ 浜田市GIGAスクール構想推進プラン

	ステップ1 令和3年度	ステップ2 令和4年度	ステップ3 令和5年度
トピックス	・中学校学習指導要領 全面実施 ・デジタル教科書 実証実験参加 ・県道徳教育研究大会 ・県音楽教育研究大会 ・浜田市ICT活用教育 ハンドブック作成	・中四国小学校家庭科 研究大会 ・県へき地教育研究大会 ・浜田市 ICT 活用教 ハンドブック更新	・県教育研究大会 ・浜田市 ICT 活用教育 ハンドブック完成
基本的活用	ログイン 指導	アプリの 基本操作	アプリの 複合操作
個別最適な学び	タブレットドリルの活用 特別支援教育の充実 個に応じた指導の充実(不登校児童生徒・外国につながる児童生徒等) タブレット端末の家庭への持ち帰り(非常時) タブレット端末の家庭への持ち帰り(平時)		
協働的な学び	大型提示装置にタブレット端末の画面表示	タブレット端末を活用した話し合い活動	考えの比較・検討
ネットワーク	機器整備 さらなる大容量の通信環境整備に向けた検討		
ソフトウェア	検討中	検討中	検討中
教職員 児童生徒の ステップ	自分のアカウントにログインできる 教員が児童生徒にオンラインで資料や課題を出す 児童生徒がオンラインで課題への回答を提出する 教員が児童生徒から受け取った回答にコメントを返す 各学校の指導計画や児童生徒の実態に応じた活用		

4 ICTを活用した授業づくり

(2) ICTを活用することでできること

コンピュータは、基本的に「高速で計算ができる」「大量の情報が保存できる」「検索ができる」「危機を制御できる」機能を持っており、それらがネットワークにつながることで、様々なことに役立っています。学習では、文字・音声・画像・映像等の各種メディアやデータを次のように扱う学習活動で高い効果を発揮します。



収集する活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の学習をするために必要な情報を取得する活動です。従来よりも多くの情報を、広い範囲から収集できます。



繰り返す活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の学習をするために必要な情報を見返したり、聞き返したりすることが可能です。特に、特定の状況、特定の場所でないと見られないものを記録して、何度も再生できることが強みです。



編集する活動

児童生徒が、文字・音声・画像・映像等の情報を編集する活動です。紙に書く行為に比べ、複製ややり直しが簡単なほか、キーボード技能が身に付くと短時間で多くの情報の編集、推敲などが可能になります。



提示する活動

児童生徒や教師が、文字・音声・画像・映像等の情報を提示する活動です。コンピュータネットワークを活用することで、従来よりも広い範囲に対し、時間を問わず提示することが可能になります。



情報の記録

これからの学習活動は、クラウド上に記録することができます。また、小学校入学から中学校卒業まで、いつでも取り出すことができます。



(3) 教育におけるICTの特性・強み

ICTの様々な強み・特性を、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善につなげることが期待されます。



ICTの特性・強み	その強みによりできること
① 多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することなどができ、カスタマイズが容易であること	文書の編集、表・グラフの作成、プレゼンテーション、調べ学習、試行の繰り返し、情報共有等
② 時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超えること	思考の可視化、学習過程の記録、ドリル学習等
③ 距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやり取りができるという、双方向性を有すること	瞬時の共有、遠隔授業、メール送受信等

(4) 教育におけるICTの役割

P.7にも記載しましたが、浜田市が目指すICT活用教育は、情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成することであり、ICT機器を活用できるようにすることではありません。ICTは目的ではなく、あくまで手段であり、道具であるということです。



① ICTを効果的に活用し、**授業の質の向上**を図る

② ICTを効果的に活用し、**特別支援教育の充実**を図る

ICTの役割:授業を支える**道具**

教師が分かりやすく教えるための**道具**

鉛筆やノートのように子供たちが学ぶための**道具**

この子の学びを支えるための**道具**



学校内で、児童生徒がタブレット端末をいつ使うのかということ、児童生徒自身が決めるというのが、浜田市のICT活用教育が目指す理想の姿です。
個別最適化された学びとは、児童生徒個人が、自分に最も適した学び方を自分で選び実行できることです。授業者が「ではタブレット端末を使いましょう。」と指示するのではなく、児童生徒が主体的に、自分の意志でタブレット端末を適切に活用することを目指していきましょう。一つの教室で、主体的に紙を使う児童生徒と主体的にタブレット端末を使う児童生徒が混在しているような授業を期待しています。

(11) タブレット端末活用系統表

ICT 活用の 目的	【興味関心の創出】	【情報の収集】 【情報の共有】 【知識の定着】	【思考の深化】 【表現力の向上】 【思考力・表現力の向上】
段階	見せる ICT	触る ICT	使う ICT、使いこなすICT
形態	一斉学習	個別学習	協働学習
具体例	拡大提示 (写真・動画・番組・文字・ 図・表・音声等) タブレット端末への提示 書き込み	撮る(写真・動画) 録る(記録) 見る(写真・動画・記録) 共有する(写真・動画・記録) 調べる(インターネット等) まとめる(資料・作品等) 繰り返す(反復練習) 身に付ける(定着)	書き込む(自分の気付きや考え) 比べる(記録) 深める(デジタル教材等) つくる(協働制作) 伝える(発表・発信) 話し合う(整理・集約) つながる(遠隔交流)
	▶ A1：教員による教材の提示  画像の拡大提示 や書き込み、音声、 動画などの活用	▶ B1：個に応じる学習  一人一人の習 熟の程度等に 応じた学習	▶ C1：発表や話し合い  グループや学 級全体での発 表・話し合い
		▶ B2：調査活動  インターネッ トを用いた情報 収集、写真や 動画等による 記録	▶ C2：協働での意見整理  複数の意見・ 考えを議論し て整理
		▶ B3：思考を深める学習  シミュレーショ ンなどのデジタル 教材を用いた思 考を深める学習	▶ C3：協働制作  グループでの 分担、協働によ る作品の制作
		▶ B4：表現・制作  マルチメディア を用いた資料、 作品の制作	▶ C4：学校の壁を越えた学習  遠隔地や海外 の学校等との 交流授業
		▶ B5：家庭学習  情報端末の持 ち帰りによる 家庭学習	

令和3年度作成

ICT機器を活用した 授業実践例 抜粋版

○ 教科等の学習

- 1 小学校2年国語:単元名「ニャーゴ」 1
- 2 小学校5年国語:単元名「『和に文化ジャーナリスト』になって
魅力をリーフレットにまとめよう」 2
- 3 中学校1年保健体育:単元名「柔道」 3

○ オンラインによる取組

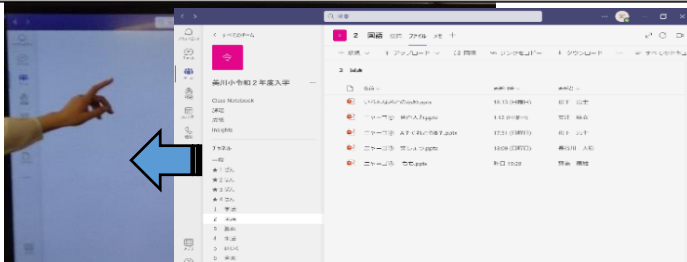
- 4 臨時休業中のオンライン授業 4
- 5 長期欠席者のためのオンライン授業 5

小学校 2 年生 国語 読むこと ～PowerPoint 機能を活用した実践～

- ① 本時の課題について、タブレットを活用し、教師が準備をした PowerPoint データにある教科書の文章や挿絵を丸で囲んだり線を引いたりして、自己の考えをもつ。理由は、配布されたワークシート（紙媒体）に記入する。
- ② Microsoft Teams を活用して、電子黒板で児童の考えを共有する。
- ③ 児童が自己の考えを発表する際に、その児童の考えの根拠となる PowerPoint データを電子黒板で示し、学級全体での話し合い（集団思考）を行う。

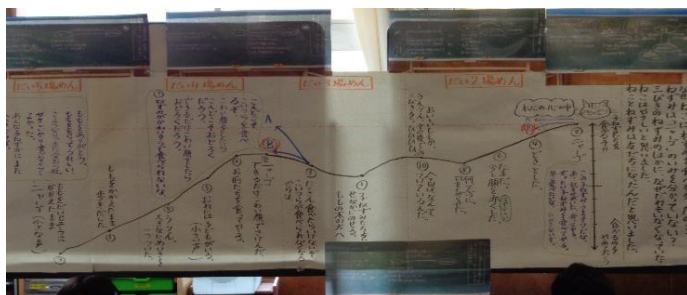
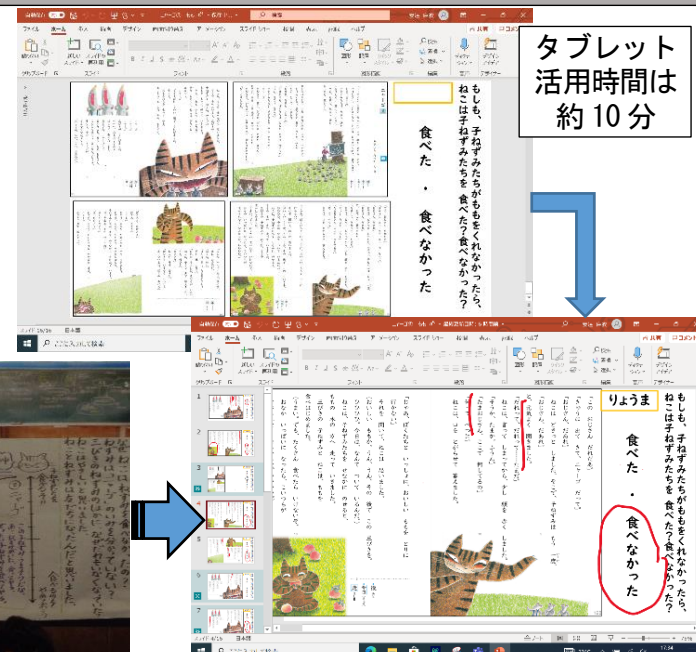
1 Microsoft Teams を開いて PowerPoint データを表示する

- ① 本時のめあて確認終了後、児童はタブレットを取り出しサインイン。
- ② 授業者は、電子黒板で PowerPoint が保存してある場所を伝える。
- ③ 児童は、タブレットを操作し、自己のタブレットへ取り込む。



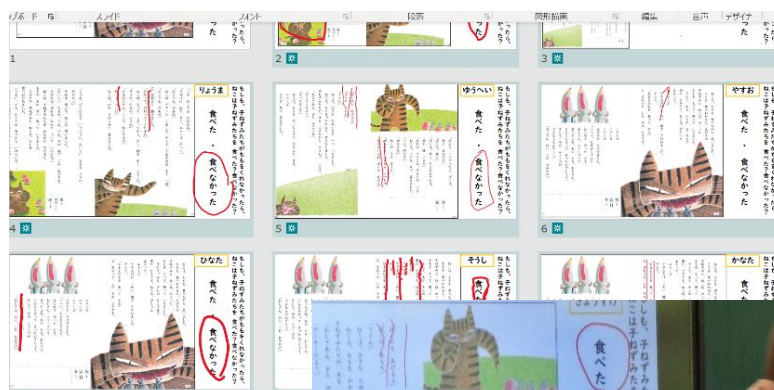
2 タブレットを活用し、自力解決（理由は紙のワークシートへ記入）

- ① PowerPoint には、四つの場面がある。児童は、自分の考えの根拠となる場面を選択し、不要な場面を削除する。
- ② 拡大させた場面の、挿絵を丸で囲んだり、線を引いたりする。理由は紙のシートへ。
児童が場面選択をする際に、よりどころとなったのは、教室に掲示してあるこれまでの学習記録。



3 考えの根拠となる PowerPoint データを電子黒板で示し、学級全体での話し合い（集団思考）

- ① Microsoft Teams を活用し、電子黒板で PowerPoint データを見ながら個々の考えを共有する。
- ② 児童は、紙のワークシートを見ながら、個々の考えを発表。自分の考えの根拠は、PowerPoint データが電子黒板で示されている。学級の児童は、電子黒板も見ながら、発表を聞き、意見をつないでいく。



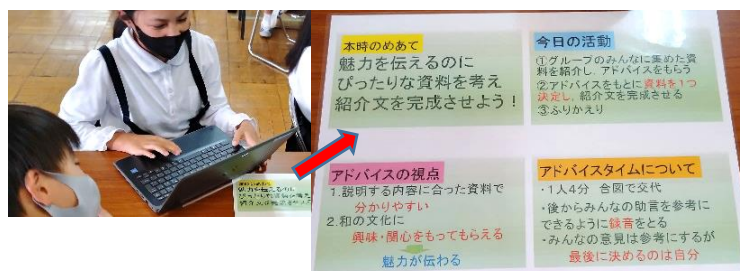
学習課題に対する自己の考えの結論と根拠はタブレットを活用して記録し、話し合いの場でも電子黒板で示しながら、考えの根拠が伝わるようにしています。また、理由については、紙のワークシートに記入して発表に活用するなど、アナログメディアとデジタルメディアを上手に使い分けた実践です。

小学校 5 年生 国語 書くこと ～One Note を活用した実践～

- ① 和の文化の魅力を知ってもらうリーフレットを作るために、事前に One Note を活用して作成した紹介文と、それにふさわしい資料写真を班の仲間に紹介する。その際、「イマーシブリーダー」という読み上げ機能を使う。
- ② 班の仲間からアドバイスをもらうときは、録音機能で録音しておく。
- ③ もらったアドバイスを One Note 上でメモしたり、写真の大きさや位置を変えたりすることで、よりよい写真を選び、写真の位置や大きさなどを調整する。

1 一人ずつ Microsoft One Note を開いて事前に作った紹介文と写真資料を準備する。

- ① 本時のめあて確認終了後、紹介文を紹介する児童はタブレットを取り出しサインイン。
- ② 本時に何をするか示したシートが各班にあるので迷わない。

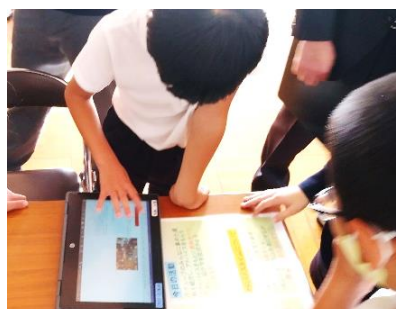


2 紹介文を改善し、ふさわしい資料を選ぶために友達からアドバイスをもらう。(話し合い)

- ① 「イマーシブリーダー」機能で作成した紹介文を読み上げ、班のみんなでその紹介文を聞く。
(「表示」のタブから「イマーシブリーダー」をタップすると、声(男声・女声)やスピードを選ぶことができます。)



- ② 紹介文に最もふさわしい写真はどれか、意見を聞き、その写真の大きさやレイアウトについても意見を聞きながら動かしている。
またアドバイスされたことを、メモ機能を使って直接 One Note に打ち込んでいる。



3 もらったアドバイスをもとに、資料を選び、よりよい紹介文を完成させる。(次時の活動)

- ① 友達からのアドバイスをもとに、紹介文そのものを直したり、色使いや写真のレイアウトを工夫したりして、より魅力が伝わる紹介文が完成。

また、参考文献を記すなど、著作権や情報モラルの指導もしています。

タブレットを使うことで、Web 上の写真を貼り付けるなど資料集めが容易にできます。

また作成途中の文書を見せてアドバイスをもらい、その場で簡単に色使いやレイアウト、言葉を変更できるので、紙よりも簡単に素早く校正できるのが便利です。さらに出来上がった作品も本格的になり、子どもたちは達成感が得られます。



アドバイスをもとに工夫改善して見やすくなった紹介文

中学校 1 年生 保健体育「柔道」～映像で確認！どの抑え方が動きにくい？～

寝技の 1 時間目の授業。示された 3 つの抑え方で「寝技脱出ゲーム」を行い、自己の感覚と録画映像をもとに話し合いを実施。次時以降の袈裟固めへとつなげる授業。

- ① 押さえられている生徒が脱出する様子をゲーム終了まで動画撮影。
- ② 個々に 3 つの抑え方で、どの抑え方が動きにくかったかを映像を見ながら確認し、その理由も含めてワークシートに記入。
- ③ グループで意見を交流し、最も動きにくかった抑え方を決定。決定した抑え方について説明する際に説得力がある映像も決め、全体での発表準備。
- ④ 「まなボード」とスクリーンへ投影した映像を活用し、各グループが発表を実施。

1 3 つの抑え方による「寝技脱出ゲーム」で、抑えられている生徒の様子を動画撮影

- ① 示された抑え方は、「うつ伏せの人に抱きついて」、「仰向きの人の下半身に抱きついて」、「仰向きの人の上半身に抱きついて」抑えた場合の 3 つ。それぞれの抑え方で脱出ゲーム。
- ② 4 人グループを編成し、ペアで相手の脱出の様子を録画できるように役割分担。
- ③ 1 つの抑え方について、グループ全員の脱出の様子を録画。これを 3 回繰り返す。



2 自己の感覚と動画を基にして、動きにくい抑え方を理由も含めてワークシートに記入

- ① 録画された自己の脱出ゲームの様子を確認し、最も動きにくかった抑えられ方を決定し、理由を含めてワークシートに記入。
 - ② 考える手がかりは、脱出ゲーム中の自己の動きにくさの感覚と録画された映像。
- ※ ゲーム化がなされていたので、どの生徒の映像にも抑えから必死になって脱出しようとする映像が録画されていた。



3 グループで意見を交流し最も動きにくい抑え方を決定し、全体発表の準備

- ① 個々に動きにくかった抑え方について、録画された映像を見せながら理由も添えて説明。
- ② グループで映像も確認しながら、動きにくい抑え方について決定。
- ③ 理由も添えて「まなボード」へ記入し、自分たちの考えが説得力をもって伝わる映像も選んで発表準備。



4 「まなボード」とスクリーンへ投影した映像を活用し、グループの考えを発表

「まなボード」には、グループで決定した動きにくい抑え方とその抑え方を選んだ理由が記されている。映像と共に各グループの考えを発表。

生徒は、動きにくさについて脱出ゲームの体験を通して感覚的につかんでいます。このことを裏付けるのは、録画をされた自己の映像です。映像を見ることにより、自己の感覚が考えとして明確になり、その根拠も発見することができます。映像を効果的に活用し、次時以降の学習へ生かすことのできる実践です。



臨時休業中のオンライン授業（小学校）

※ 臨時休業をした学年でオンライン授業を実施したとの情報提供が学力向上推進室にあった。以下に、その実践について情報提供をする。

- 当该校においては、オンライン授業を視野に入れ、子ども達にオンライン授業へのアクセスの仕方について指導をしていた。
 - 同時に、保護者へ学年通信等でオンライン授業へのアクセスの仕方について写真付きの手順を示し、周知をしていた。
- などの事前の取組により実践が可能となった。

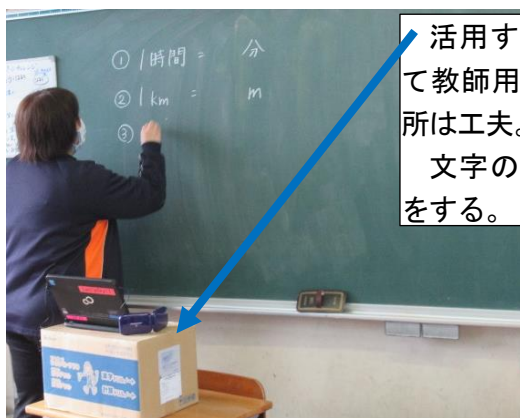
オンライン朝の会

- 健康観察、通信状況の確認、近況報告等を実施。
- インターネット回線のトラブルはほとんどなかったが、何件かつながらないとの保護者の電話連絡があり、対応して解決した。
- インターネット環境がない家庭の子どもへは、オンライン学習をすることと実施状況について個別に連絡をした。

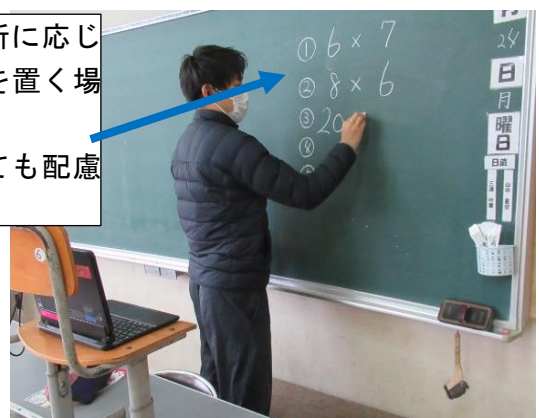


子ども達が1日の見通しをもつことができるように、本日のオンライン授業時間割及び学習内容の概略を板書しておく。

黒板を活用しながら、双方向で学習



活用する黒板の場所に応じて教師用タブレットを置く場所は工夫。
文字の多さについても配慮をする。



教科書のページを示しながら、教師が指導内容についてコメント



- 板書をしながら指導を行う
 - 教師の顔が子ども達に見えるようにし、教科書に記載されている内容を示しながら、説明を行う
- など、指導内容に応じて写す場所を使い分けています



- オンライン授業に参加できない子どもへの配慮は、必要なことです。
- 実践をしてみて、兄弟がいる家庭で、兄弟が同時にオンライン授業に参加した際、通信が安定しない場合があることが分かったそうです。このことから、この学校では学年ごとにオンライン授業の時間帯を分けて実施することにしたそうです。
- とにかくやってみる。そして、生じた課題について改善をしていくことを大切にしてください。

長期欠席者の学習保障 中学校 オンライン授業

※長期欠席者に学習の機会を設けるために、常に該当学級の授業をオンライン会議でライブ配信する。

- ①長期欠席の生徒の家庭へタブレットを持って行く。(持って帰るように指導する。) Teams でのオンライン授業への参加の仕方をまとめたもの(手引き)を用意し、できれば一緒に一度参加してみる。
- ②生徒の実情に合わせて、生徒側の端末のカメラ・音声の on・off を自由に設定できることを伝える。
- ③1 台の端末から該当学級の授業を配信し続ける。

※経緯・背景

1 学期途中から学級へ入りにくい生徒がいたが、授業のプリントや様子を伝えるだけになりがちだった。また、担任や連絡をした教員がすべての授業について説明することは不可能で、生徒から授業の進捗や様子を聞かれても答えることができない状況もあった。

保護者の要望もあって、学力補充に山びこ学級へ通う生徒もいた。しかし、保護者も本人も学級の様子や授業の進捗・学力補充に関心があり、オンライン授業を要望していた。

1 長期欠席者へのタブレット持ち帰りが可能になったため

冬休みにタブレット持ち帰りが可能になったため、長期欠席者へもタブレットドリルの活用を勧め、オンライン授業の配信などを試験的に行うことを提案した。

- ① 2 学期末に終業式をオンライン配信したところ、長期欠席者が自宅でライブに参加し視聴している様子が見られた。

また、3 学期始めの始業式でも同様に配信を行ったところ、家族(母と子)で視聴し、学校の様子や友達の様子について会話ができたようだった。

- ② コロナ関係で欠席した生徒へも同様に配信への参加を促した。各授業へ参加し、授業の内容への理解を深めた。「板書などもきちんと見えて、よかった」と言っていた。

2 実践

- ① 各授業へ Web カメラと教育用タブレットを持って移動する。(学校代表タブレットを利用)

タブレットのカメラでも可能だが、黒板を写すためにはリモコンで角度が操作できるカメラが使いやすい。

- ② オンライン会議を常開催している状態にし、生徒が会議へ参加する。

生徒の状況に応じて、カメラや音声は Off にしてよいことを伝えておく。



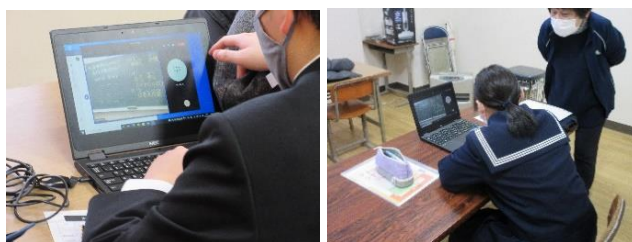
3 生徒の様子と変容

2 学期は登校が少なかった生徒だが、3 学期は登校が少しずつ増えている。

登校したら、タブレットを開き、授業に参加する様子が見られ、少しずつ定着している。

また、午後早退した時にはタブレットを持ち帰り、家庭で授業へ参加する様子も見られる。

授業に参加しているという意識が高まり、板書をノートに書いている様子も見られた。



※今後も継続していきたいと考える。

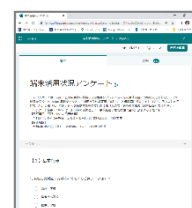
教育用端末活用アンケート調査の結果について

文部科学省が進める「GIGA スクール構想」の実現に伴い、浜田市では令和 2 年度に市内小中学校に在席する全ての児童生徒及び教職員 1 人 1 台へタブレット端末の整備を行った。

令和 3 年度に各校へ配備し授業や校内活動での活用が始まり、冬季休業中には全校で家庭等への持ち帰りを実施し家庭学習でも利用されている。

整備から 1 年が経過し、教員向けに端末活用アンケートを実施した。

調査期間	令和 4 年 3 月 9 日（水）～3 月 28 日（月）
調査対象	指導者用タブレットを利用する全ての教職員 444 人
調査方法	インターネットを利用した Web アンケート調査（全 31 項目）
回答数	347 回答（回答率：78.2%）



◆指導者用タブレット端末を校務や授業で利用している割合

全回答		勤務年数別内訳			
項目	全体	10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上
ほぼ毎日	35%	45%	35%	37%	26%
週 3 回以上	16%	16%	15%	10%	19%
週 1 回程度	18%	16%	20%	21%	18%
月に数回程度	24%	17%	30%	27%	26%
全く活用していない	7%	6%	0%	5%	11%
計	100%	100%	100%	100%	100%

週 3 回以上の使用が全体の 5 割を超え活用が進んでいる。

勤続年数別にみると、年数が若いほどが普段から活用していることが分かる。

◆児童生徒用タブレット端末を授業や校内活動で利用している割合

全回答		勤務年数別内訳			
項目	全体	10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上
ほぼ毎日	9%	8%	9%	12%	7%
週 3 回以上	12%	19%	11%	7%	10%
週 1 回程度	14%	16%	18%	10%	12%
月に数回程度	32%	29%	45%	41%	22%
全く活用していない （授業を担当していない等）	33%	28%	17%	30%	49%
計	100%	100%	100%	100%	100%

週 3 回以上の使用が全体の 2 割程度にとどまっている。

勤続年数別にみると、さほど大きなバラつきは見られない。

夢を持ち郷土を愛する人を育む

学力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

学びに向かう力・人間性等

向上

メディア接触時間
適正化

- 小中連携教育での重点取組
- 時間管理能力の育成

園児・児童生徒支援

～特別支援教育～

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

子どもの声でつくる授業

- ② 協調学習による授業改善・研修
(知識構成型ジグソー法による主体的・対話的で深い学びの実現)
- ③ 指定校：第三中・三隅中・雲城小
- ④ ICT活用による授業改善・研修
指定校：美川小
- ⑤ 算数科授業改善
指定校：周布小・長浜小
アドバイザー：前田教授
- ⑥ 国語教育（読解力）推進
指定校：原井小
- ⑦ 図書館活用教育の推進・研修
- ⑧ 指定校：松原小・岡見小
- ⑨ 調べる学習研修・調べる学習コンクール
- ⑩ 読書ノート配付：小一・二年
- ⑪ 中学生英語検定無料化（受検者）
- ⑫ 学力向上推進室学校訪問

授業力向上＋学級経営力

家庭学習
の充実

- ① マブシットリルの活用
- 自ら計画し実践する家庭学習
- 家庭学習時間増

家庭学習
自ら計画し実践

園児・児童生徒支援

～生徒指導～

授業改善：子どもの声でつくる授業による実践 + 学習集団づくり

年度初めの各学校との授業改善方策協議

各学校年2回の授業改善学校訪問

年度末の各学校との授業改善実践成果・課題協議

令和4年度 学力育成総合対策事業

課題等		具体的な対応策
1家庭学習の充実 【2,587千円】	①学習プリント配信システム 〈2,587千円〉 タブレットドリルデータベース使用料	・学習プリント配信システム（タブレットドリル版）の有効活用により、学校及び家庭での学習の充実を図る。習熟度別学習や発展的学習の対応に期待。 ・学習プリント配信システム（小学校：国、算。中学校：国、数、英）を実施。
2教員の授業力向上 【1,170千円】	②協調学習の研修 〈70千円〉	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のための取組として継続推進。協調学習の研修会を8月2日（火）、3日（水）（水）を実施。授業体験や授業デザイン、授業研究の在り方等の研修を通じて、手法普及を図り、言語活動の充実と思考力・判断力・表現力等の育成を推進する。指定校の実践報告も行う。 （講師：CoREF特任助教 飯窪・齋藤先生を予定） ・新しい学びプロジェクト研究推進員は、年2回の中央協議会等に参加し研修を深める。ただし、旅費については1人のみ。 ・他市町小中学校で行われる研究大会に参加（市内教員にも参加を募る）。
	③協調学習研究指定校 〈300千円〉	・市内小中学校から3校（第三中、三隅中、雲城小）を研究指定校とし、各校から研究推進委員1名ずつ選出。協調学習の実践と公開授業等により市内各小中学校の実践推進を図る。
	④ICTを活用した授業改善指定校 〈100千円〉	・市内小中学校から1校（美川小）を研究指定校とし、一人一台端末をはじめとしたICT機器を活用した授業改善の取組を推進し、その成果を年2回の公開授業や授業実践例作成等により市内各小中学校へ広げていく。
	⑤算数・数学アドバイザー 〈400千円〉	・算数指定校2校（周布小、長浜小）への授業公開助言及び研究内容への助言 ※前田一誠氏（環太平洋大）をアドバイザーとし、年間10万円×4回。
	⑥算数科授業改善指定校 〈200千円〉	・市内小学校から2校（周布小、長浜小）を研究指定校とし、算数・数学アドバイザーの指導を受けながら、算数の実践と年2回の公開授業等により市内小中学校の算数・数学の授業推進を図る。校内研究についても年1回のアドバイザーの指導を受ける。
	⑦国語教育推進指定校 〈100千円〉	・市内小中学校から1校（原井小）を研究指定校とし、読解力の育成に同かった取組を推進し、国語を核とした実践と公開授業等により、その成果を市内各小中学校へ広げていく。

課題等	具体的な対応策
3図書館活用教育の充実 【376千円】	⑧図書館活用教育の研修 〈0円〉 ⑨図書館活用教育推進指定校 〈200千円〉 ⑩調べる学習研修会、コンクール 〈31千円〉 ⑪読書ノート購入費 〈145千円〉
4外国語教育の充実 【1,720千円】	⑫中学校英語検定料（3級）無料化事業 〈1,720千円〉
5学力向上推進室 学校訪問指導等	⑬市教委指導主事等による学校訪問指導での学校支援

- ・図書館活用教育の目的や進め方等、基本に立ち返った研修会〈夏季休業中、講師：担当指導主事又は県教委指導主事〉を開催する。
- ・市独自の図書館活用教育指導主事と学校図書館支援センターを配置し、図書館を活用した授業の指導及び学校訪問等による図書館活用教育と読書活動の推進・支援を強化する。
- ・市内小中学校から2校（松原小、岡見小）を研究指定校とし、図書館活用教育の実践と公開授業等により市内各小中学校の実践推進を図る。
- ・児童生徒が図書館を活用して自ら課題を解決していく力を身に付けさせるため、各学校で調べる学習コンクールを行う。そして、市教委主催の「調べる学習コンクール」を行い、優秀作品は全国大会に出品し評価を受ける。また、市立図書館や各学校で優秀作品の巡回展を行う。
- ・調べる学習研修会〈6月中、講師：担当指導主事〉の開催及び夏休み中に小学生・保護者対象に「調べる学習応援講座」〈夏季休業中の早い段階〉を実施し、学校・家庭と連携した課題解決能力の育成を図る。
- ・市内小学生1・2年生に無料配付し、活用することで、低学年の段階で意欲を持たせながら読書と書く活動の充実を図る。
- ・3級受験した中学生に対し、準会場検定料の全額（1回分）を市が負担することで、生徒が自身の英語力確認の機会とするとともに、英語をはじめとする学習意欲の向上を図る。
- 3級合格者の中3生徒数に対する割合
R3：34.7%、R2：29.9%、R1：23.3%、H30：20.4%
- ・学校や授業者と共に、校内研究や授業づくりに関わり、「子どもの声でつくる授業」を目指した授業改善の支援を行う。授業者は授業構想の段階から指導主事等に相談できる。市教委は、校内公開授業及び研究協議会に参加する。各校2回以上の訪問指導（そのうち1回は算数・数学）を実施する。

令和4年度

はまだっ子共育推進事業

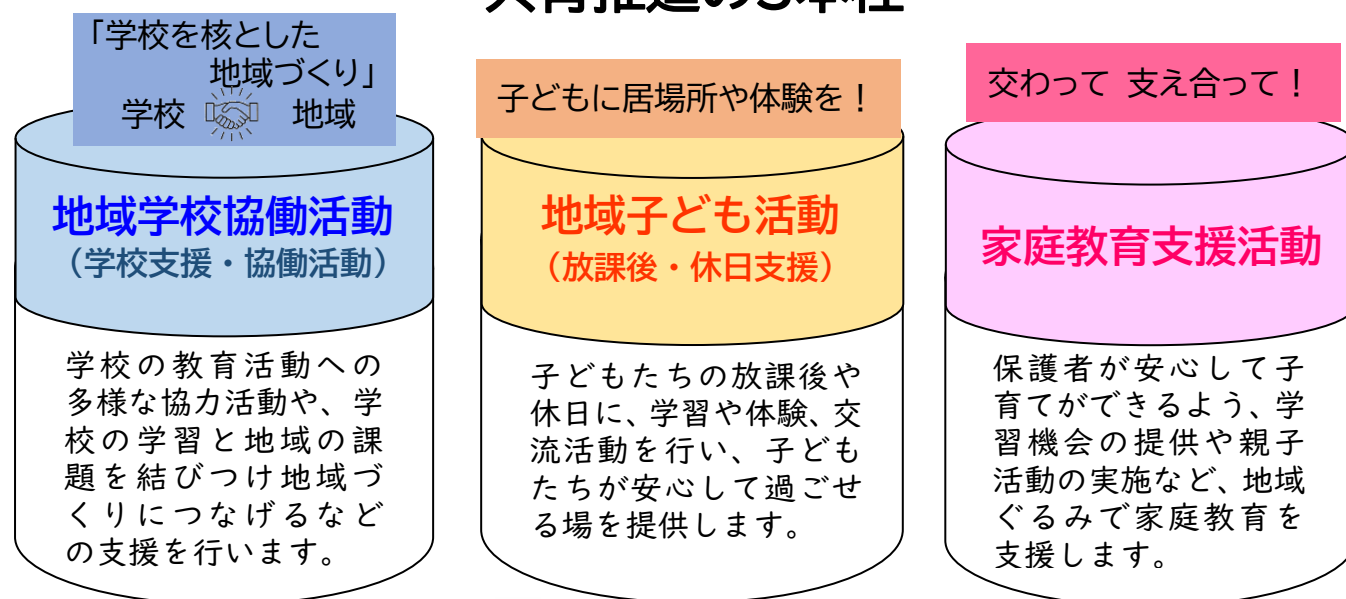


◆はまだっ子共育推進事業(通称:共育「ともいく」)とは

地域のさまざまな方の参画により、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、地域ぐるみで子どもの成長を支えつつ、かかわる大人も共に高まる（育つ）ことで、魅力ある人づくり・地域づくりを目指します。
浜田市では、まちづくりセンターを拠点に、事業を推進しています。

◆理念 “地域ぐるみで子どもを育み 子どもも大人も そして 地域も高まり合おう!”

共育推進の3本柱



地域と学校の協働活動



放課後子ども教室



子ども企画の事業



通学合宿



地域と学校の協働学習



地域の資源を活用して(ふるさと郷育)



HOOP!(浜田親子共育応援プログラム)

子どもの1日

家庭

学校

放課後・休日

家庭

◆共育で目指す

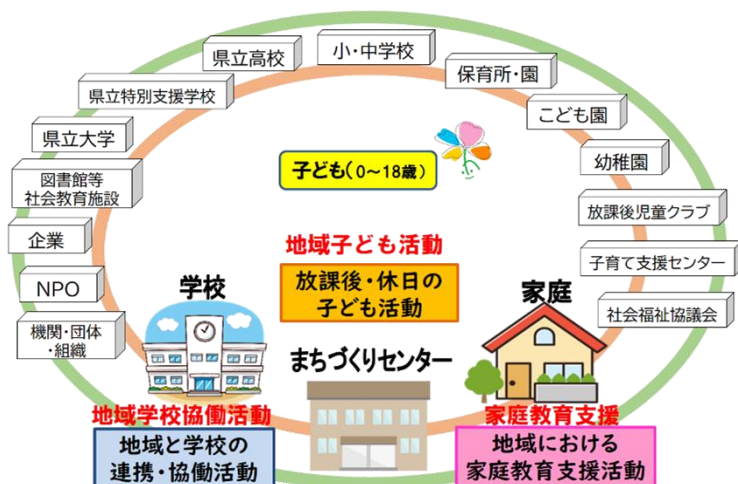
子どもたちに身に付けさせたい力

ふるさとを愛し、自分を高め、周りとながら、自分に自信を持つ

共育で目指す子ども像や身に付けさせたい力を、学校・家庭・地域が共有することで、子どもも大人も共に学び合っていくことを目的としています。

ふるさとを愛し	郷土愛	・ふるさとの良さを味わい、豊かな感性を身に付ける。	ふるさと愛 地域貢献
		・ふるさとを愛し、誇りに思う。	
		・地域の良さを知り、他者に伝える。	
		・地域にとけこみ、大人と活動を共にする。	
		・地域に貢献できることを考え、行動しようとする。	
自分を高め	向上心	・自分で考える。自分で決める。	思考力・判断力
		・他者の話をよく聞き、自分の考えと比べる。	
		・自分の考えを積極的に伝える。	表現力・発信力・行動力
		・集中する。粘り強く続ける。しなやかに対応する。	集中力・持続力・適応力
		・主体的に課題を見つける。前向きに目標を設定する。	主体性・探求心・情熱
周りとながら	連帯感	・他者を共感的に深く思う。	共感性・思いやり
		・他者と協力し、良好な人間関係を築く。	協調性・コミュニケーション力
		・周りの人に、自分から声掛けやあいさつをする。	地域力・あいさつ
		・お互いを尊重する。感謝の気持ちを伝える。	人権尊重・感謝・敬意
		・命を大切にする。人や動植物に優しくする。	大切な命・豊かな愛情
自分に自信を持つ	自尊心	・自分の良さを受け止め、自分を大切にする。	自尊感情
		・自分のことを認め肯定する。	自己肯定感
		・自分が周りの人に役立っていると感じる。	自己有用感
		・自分を客観的に見る。	自己理解・メタ認知
		・自らの考えで行動し、自分をコントロールする。	自主性・自己抑制

◆共育の推進体制



【主な推進者】

- ・まちづくりセンター職員
 - ・地域学校協働活動推進員
(共育コーディネーター)
 - ・放課後支援員、放課後サポーター
 - ・HOOP!ファシリテーター
 - ・地域ボランティア
 - ・学校教職員
- など

【担当・問合せ先】

浜田市教育委員会（まちづくり社会教育課内）
Tel: 0855-25-9204 Fax: 0855-23-1866
Mail: manabi@city.hamada.lg.jp

	地域学校協働活動（学校支援）	地域子ども活動（放課後・休日支援）	家庭教育支援活動
一中 校区	○小学校 ・ミシン（裁縫）、町探検、昔遊び、川遊びや川の学習等の見守りボランティアの確保。 ・地域学校協働プログラム（防災学習：みはしネットワークが支援） ○中学校 ・職場体験事業所紹介等 ・進路講演会	○放課後子ども教室 ・陶芸教室 ・浜田のまちの縁側との連携 春・夏のいわみっこまつり 放課後あそび隊 ○子ども対象事業 ・勉強場所づくり ・防災デイキャンプ	○親子が地域とつながる活動 ・夏休み親子防災デイキャンプ ○親同士が学び合う活動 ・HOPP！（石見小）
二中 校区	○小学校 ・ミシン（裁縫）、野菜作り、町探検、社会科「昔の道具」等の見守りボランティア、講師、道具の確保。 ○中学校 ・職場体験事業所紹介等	○放課後子ども教室 ・にここ広場 ○子ども対象事業 〈同じエリアの小学生同士の交流活動〉 マリン体験・にここアトリエ・いとあそび・パン作り	○親同士がつながる活動 ・子育てサークル「ママクラブ・プチ」の活動支援 ・食育事業（パン作り） ○親同士が学び合う活動 ・HOPP！（ひかり保育所、あおい保育園、聖バルナバ保育園）
三中 校区	○幼稚園 ・海遊び、昔遊び ボランティア確保等 ○小学校 ・ミシン（裁縫）、稲作、野菜作り、昔の道具、花祭り・花作り等のボランティアや道具の確保 ○中学校 ・地域の食材を用いた調理実習 アジ餃子作り	○放課後子ども教室 ・うみねっこ広場 ・子ども囲碁教室 ○地域学習支援事業 ・みなとスタデイ ○子ども対象事業 ・食育（元気もりもりプロジェクトパート2）	○親子が地域とつながる活動（多世代交流） ・組子細工体験 ・海に関する知識、体験 ・自動車模擬衝突体験 ・石見神楽勉強会 ・防災訓練 ・つり大会 ・書き初め会 ・ランタンまつり ・花作り教室 ・納涼のタベ ○親同士がつながる活動 ・子育てサークル「te to tel」 ・小学校親子活動支援 3年生（ランタン作り・郷土かるた・タイ釣りリレー） 6年生（サマーキャンプ・ランタンまつり） ○親同士が学び合う活動 ・HOPP！（長浜幼稚園）

四中 校区	○幼・小・小・中合同 ・稲作、しめ縄作り ○小学校 ・野菜作り ・周布川生き物観察 ・セクター探検会 ・水鳥の観察会 ・鮭の稚魚放流 ・ふるさと再発見事業 ○中学校 ・ふるさと再発見事業	○放課後子ども教室 ・美川子ども教室 ・美川子ども囲碁クラブ ○地域学習支援事業 ・美川子ども英会話教室	○親子が地域とつながる活動（多世代交流） ・しめ縄作り 交流会 ○親同士がつながる活動 ・子育て会
浜田東 中学校区	○小学校 ・町探検、上府ウォークラリー、ミシン（裁縫）、生き物調査等の見守りボランティアの確保。 ○中学校 ・職場体験事業所紹介等 ・浜田ろう学校、養護学校 ・読み聞かせ、自然体験活動等のボランティア確保。	○放課後子ども教室 ・お箏、尺八教室 ・フリースペース ・スマイルこくふっ子会	○親子が地域とつながる活動 ・唐鐘自治公民館の活動協力 ○親同士がつながる活動 ・ロードレース大会(浜田東中) ※学校とPTA共催事業の後方支援 ○親同士が学び合う活動 ・HOOP！（国府小）
金城 中学校区	○小学校 ・ハッチョウトンボ観察会、町探検、ミシン（裁縫）等、稲作、生き物観察等の見守りボランティアの確保等。 ○中学校 ・ミシン（裁縫）ボランティア確保等、6セクター連携ふるさと教育（2年、3年）	○放課後子ども教室 ・子どもまちあいしつ ○子ども対象事業 ・今福小区×3まちづくりセンター ・雲城小区×雲城まちづくりセンター ・今福小区 遊びの楽校 ・雲城小区 宿題部屋 ・波佐小区 体験学習 ○6まちづくりセンター連携子ども対象事業 ・学校支援の稲作体験につながる活動 今福小学校区…よもぎ摘み 波佐小学校区…しめ縄作り ・竹灯籠作り 美又地区…地域×まちづくりセンター	○親子が地域とつながる活動 ・案内づくり 久佐地区親子×セクター×地域課題 ・ハッチョウトンボ観察会・環境保全 ・雲城小区親子×まちづくり×小学校×高校×大学×他地域団体等 ・波佐魅力発見ウォーキング セクター×小学校×PTA×地域 ・おぐにふるさと学校 雲城小区親子×小国地域（まちづくり運営推進委員会）×小学校×講師・団体等 ○親同士が学ぶ活動 ・わかすけ（今福小区父親団体）、ゆるり（今福小区母親団体）×まちづくり×地域課題 ・はらっぱ（雲城小区未就学児） ○親同士が学び合う活動 ・HOOP！（今福小）
旭中 校区	○小学校 ・川の学習 ・旭の特産学習（椎茸、梨） ・地域探検（市木、都川、木田、和田） ・さつまいも作り ・平和学習 講師確保 ○中学校 ・あさひのいいところ再発見 ・スケッチ会見守り	○放課後子ども教室 ・囲碁教室 ・プロダクティング教室 ・スポーツクラブ ○5まちづくりセンター連携子ども対象事業 ・わんぱく道場 1dayキャンプ(アユ釣り、町探検)	○親子が地域とつながる活動 〈5セクター連携事業〉 ・わんぱく道場 わんぱく芋ほり 〈ふるさと旭の魅力再発見事業〉 ・多世代交流事業 ・地域の事業所巡り ・遺構や歴史を巡るウォーキング 他 ○親同士が学び合う活動 ・HOOP！（あさひ子ども園なないろクラブ）

弥栄中 校区	○小学校 ・春をみつけよう ・秋を見つけよう ・大豆作り ○中学校 ・総合的な学習の時間 学習支援 1年：内容・日程・講師等の話し合い。 2年：修学旅行 弥栄の魅力発信の支援	○放課後子ども教室 ・子ども習字教室（毎月 枠束1回・安城1回） ・マジスクール（毎週月曜日）	○親子が地域とつながる活動 〈親子や多世代での体験活動〉 ・通学合宿（1泊2日） ・川遊び交流会 ・カヌー体験教室 ○親同士が学び合う活動 ・HOPP！（枠束まちづくりセンター）
三隅中 校区	○小学校 ・持久走大会 ・1年生：昔あそび、夏みつけ、秋みつけ ・2年生：町探検 ・おかみカルタ ・稲作 ・大豆、さつまいも苗植え ○中学校 ・スケッチ会 ・ロードレース大会 ・1年：三隅氏学習会 2年：防災学習（マイタイムライン） 3年：職場体験 ・生徒会活動支援 ・美術部作品展示 ○三隅地域の教育資源巡り ・ぐるっと三隅（町内小・中学校教職員対象）	○放課後子ども教室 ・中学校勉強会 ・いのつ子クラブ ○地域学習支援事業 ・マナビイみすみ ○子ども対象事業 〈春休み・夏休み子ども体験教室〉 ・カヌー教室、スポンジテニス体験教室 〈夏休み子ども体験教室〉 ・ラジオ体操&読み語り ・カヌー教室&海遊び ・平和の行燈作り&人権ビデオ鑑賞 ・冬休み子ども体験教室 おかみかるた会 ・さつまいもの苗植え体験会 ・防災デイクャンプ 〈きらめき！子ども体験教室〉 ・木工にチャレンジ！ ・草木染にチャレンジ！ ・石州和紙で作品をつくろう！ ・科学工作&うどん作り ・しめ縄作り ・みすみっ子チャレンジ教室 ・防災フェスタ ・子ども陶芸教室 ・子どもボードゲーム ・子ども英会話教室 ・新春書初め会 ・のろしりレー ・干し柿作り、干し柿品評会&ポッチャ ・読書感想文講座 ・キラキラ☆白砂の海 ・黒沢サイエンス	○親子が地域とつながる活動 ・さつまいもオーナー（苗植え～収穫まで） ・グラウンドゴルフ大会 ・たきび（スウェーデン・トーチ） ・フラワーアレンジメント ○親同士がつながる活動 ・子育て広場「ひよこクラブ」毎週木曜日 ○親同士が学び合う活動 ・HOPP！（白砂まちづくりセンター） ・家読（読書普及活動）

令和3年度 まちづくりセンター活動報告書



浜田市まちづくりセンター合同連絡会
浜田市地域政策部まちづくり社会教育課

目 次

【浜田地域】 P1～14

浜田まちづくりセンター	・・・P1～2
石見まちづくりセンター	・・・P3～4
長浜まちづくりセンター	・・・P5～6
周布まちづくりセンター	・・・P7～8
大麻まちづくりセンター	・・・P9～10
美川まちづくりセンター	・・・P11～12
国府まちづくりセンター	・・・P13～14



【金城地域】 P15～26

久佐まちづくりセンター	・・・P15～16
今福まちづくりセンター	・・・P17～18
美又まちづくりセンター	・・・P19～20
雲城まちづくりセンター	・・・P21～22
波佐まちづくりセンター	・・・P23～24
小国まちづくりセンター	・・・P25～26



【旭地域】 P27～36

今市まちづくりセンター
木田まちづくりセンター
和田まちづくりセンター
都川まちづくりセンター
市木まちづくりセンター

・・・P27～28
・・・P29～30
・・・P31～32
・・・P33～34
・・・P35～36



【弥栄地域】 P37～40

安城まちづくりセンター
杵束まちづくりセンター

・・・P37～38
・・・P39～40



【三隅地域】 P41～52

岡見まちづくりセンター
三保まちづくりセンター
白砂まちづくりセンター
三隅まちづくりセンター
黒沢まちづくりセンター
井野まちづくりセンター

・・・P41～42
・・・P43～44
・・・P45～46
・・・P47～48
・・・P49～50
・・・P51～52



浜田地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 8,570人
 (2)世帯数 4,607世帯
 (3)面積 6.64km²
 (4)高齢化率 37.34%

主な施設

- ☑市役所(支所含む) ☑幼・保育園 ☑小学校
 ☑中学校 ☑高等学校 ☑専門学校・大学
 □図書館 ☑病院 ☑スーパー ☑コンビニ
 ☑ガソリンスタンド ☑公園 ☑広場・体育館
 ☑その他(浜田港)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ①外ノ浦・松原まちづくり推進委員会 | 令和元年9月28日設立(9町内) |
| ②殿町まちづくり委員会 | 令和元年6月27日設立(8町内) |
| ③田町まちづくり推進委員会 | 平成28年6月10日設立(7町内) |
| ④えびす新町まちづくり推進委員会 | 平成28年6月13日設立(6町内) |
| ⑤片庭連合会 | 令和3年6月5日設立(6町内) |

※未設立町内数 85町内

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 ☑特になし
 □その他()

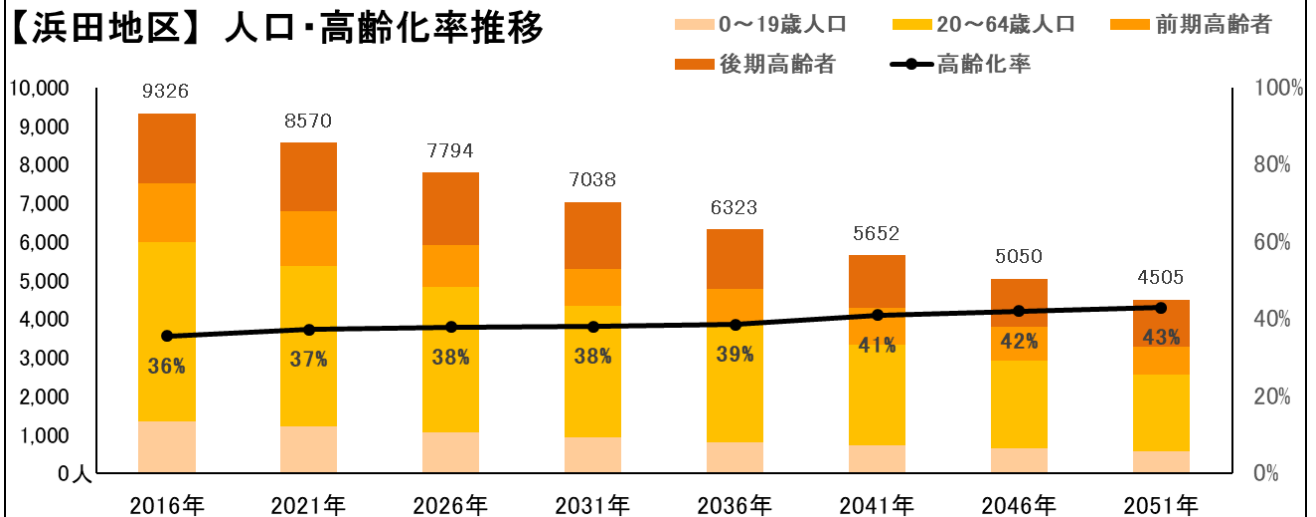
浜田地区の強み

- ・地区内に複数の保育所や学校があり、子どもや子育て世代がたくさん生活している。
- ・市の中心部で、病院やスーパーなどの施設も多く、利便性が高いため人が集まりやすい。
- ・城下町のため、歴史文化のある施設もあり、地域資源が豊かである。

浜田地区の課題

市内でも人口は多く、施設等も整った地域ではあるが、通勤族や高齢者が多い地区でもある。そうした背景で、住民のまちづくりや防災に対する意識や危機感があまり無く、近所とのつながりも希薄(無関心)な町内が多い。

【浜田地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

浜田まちづくりセンターの新たな取組

事業名

お仕事体験「ハマダニア」

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○事業の目的

浜田まちづくりセンターのエリアである浜田地区では“地域の繋がりが希薄な現状”があり、集まりなども減少している。その結果、大人と子どもの繋がりが少ないため核家族化が進んでいるのが課題。そこで、地域にいる素敵な大人たちと子どもたちが会うことで、“将来の夢”や“楽しそうな大人の姿”を間近で感じ、人と繋がることの楽しさを感じてもらう。

○見込まれる成果

- ・自分たちの地域の良さ（資源や人材）を職場体験や交流で体験し、愛着が芽生える。
- ・職場体験をすることで将来への選択肢が広がり地域で働く人材が増える（思い出・印象に残る）

D

事業の概要

令和3年11月27日（土）浜田まちづくりセンターで、浜田市内の小学校3・4年生対象に15名限定で行った。職場体験の講師として「TSデザイン」「サーファーズキッチン TERA」「浜田消防署」に協力依頼をした。各体験ブース内容は、家の骨組み体験・郷土料理のイカ飯づくり・消防車、救急車、起震車、簡易消火体験。小学生を3グループに分け、すべての体験が出来るよう順番に回した。他校との交流も兼ねていたので“グループ内の学年が被る工夫”や、ボランティアには仲間に入りづらい子どもへの声かけ、目配りなど“子どもたちの楽しい思い出になるように”を意識して活動を依頼した。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

課題に対して結果がすぐに出るものではない。1回きりでなく今後継続して行っていくことで良い成果が見られると思い、期待も込めた自己評価とした。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

協力して下さる事業所を広げ、今回より多いブースを提供。企画に賛同、事業として浸透させることで理解者が増え、長期的に見て町全体の活性に繋げたい。

→そのために、情報収集や日々の関係づくり、継続開催の為にPDCAを確実に行う。



石見地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 口 12,340人
- (2)世 帯 数 6,296世帯
- (3)面 積 66.44km²
- (4)高齢化率 31.69%

主な施設

- ☐市役所(支所含む) ☒幼・保育園 ☒小学校
- ☒中学校 ☒高等学校 ☒専門学校・大学
- ☒図書館 ☒病院 ☒スーパー ☒コンビニ
- ☒ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
- ☒その他(浜田警察署、石央文化ホール)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

- ①浜田市長沢町まちづくり推進委員会 平成23年5月21日設立(18町内)
- ②みはし地域まちづくりネットワーク 平成25年8月28日設立(33町内)
- ③後野町まちづくり推進委員会 平成28年4月23日設立(8町内)
- ④佐野・宇津井地区まちづくり推進委員会 平成25年5月1日設立(8町内)

※未設立町内数 31町内

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☐事務局機能 ☒関係団体との連絡及び調整役 ☐特になし
- ☐その他()

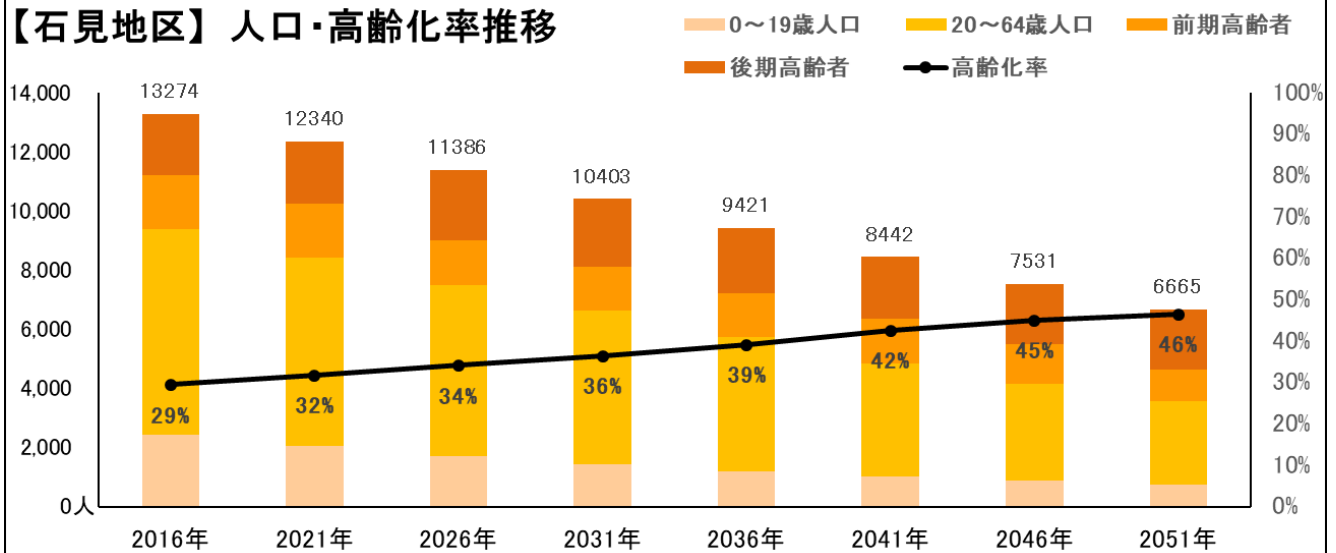
石見地区の強み

- ・市の中心部に位置し、利便性が高い。
- ・公共的な施設が多い。
- ・県立大学、高校、小学校2校、幼稚園保育園等子どもに関する施設が多く、子どものいる世帯が多い。
- ・面積が広大であり、中山間地域を含む多様な資源と多彩な人材が多い。
- ・店舗や病院が近く、生活において便利である。

石見地区の課題

- ・住民同士の繋がりが希薄である。
- ・地区まちづくり委員会が立ち上がっていない町内がある。
- ・中山間地域については、免許証を返納することで、まちづくりセンターに集えなくなる方が増える。
- ・少子高齢化がさらに進み、地域の活力が失われることが懸念される。

【石見地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

石見まちづくりセンターの新たな取組

事業名

防災 DAY キャンプ

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 親子で防災について学ぶことで、日頃から防災について話し合うことが出来る。
- 親子で地域の自主防災組織の活動に参加したり、地域活動に興味を持ったりするきっかけとなる。
- センター職員と運営推進委員と一緒に企画運営することで、この地域の課題を共有し解決につながる新たな取組を推進する絆が深まる。

D

事業の概要

- 小学生を含む親子（家族）が対象。「防災」を学ぶことで夏休みの自由研究につながることを想定して計画。センター職員と運営推進委員4名が企画・運営を担う。また、消防本部や防災安全課との連携で学ぶ内容を打合せて実施。実際に学んだ内容は以下の通り。
- ・パーテーションの組み立て、段ボールベッドや土のうの作り方、非常持ち出し袋の自慢大会
- ・防災クイズ、ロケットストーブ、かまどでの火起こし、土のう作り、宿泊可能な車の装備自慢
- 災害にちなんだ絵本の読み聞かせを当センターで活躍中の読み聞かせサークル「クローバーの会」より4人の方に依頼した。当日は、絵本や大型紙芝居、パネルシアターなどで災害の恐ろしさなど伝えた。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
							○		

上記評価の理由

- 事前の打ち合わせをしっかりとしたので、内容は全てスムーズに行えた。夏休みの自由研究として防災を選んだ子どもがいた。
- 企画から事前準備、当日を迎え、充実した取り組みとなり、運営推進委員と絆が深まった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 学びの内容が多かった。一つ一つを深く学ぶために内容を精査したい。
- 夏休み中の企画として、日程を考慮する。
- アンケートより防災食を学びたいとの要望があり、実施に結び付けたい。



長浜地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 5,098 人
 (2)世帯数 2,540 世帯
 (3)面積 5.04 km²
 (4)高齢化率 37.88%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 ☒ 小学校
 □中学校 ☒ 高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 ☒ 病院 □スーパー ☒ コンビニ
☒ ガソリンスタンド ☒ 公園 ☒ 広場・体育館
 □その他(長浜港、JR 西浜田駅)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：長浜地区まちづくり推進委員会

設立年月日：平成 23 年 4 月 17 日

構成団体：熱田町、長浜町の 28 町内会 ほか

主な活動：各町内会への支援、地域行事への協力

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☐ 事務局機能 ☒ 関係団体との連絡及び調整役 ☐ 特になし
☐ その他()

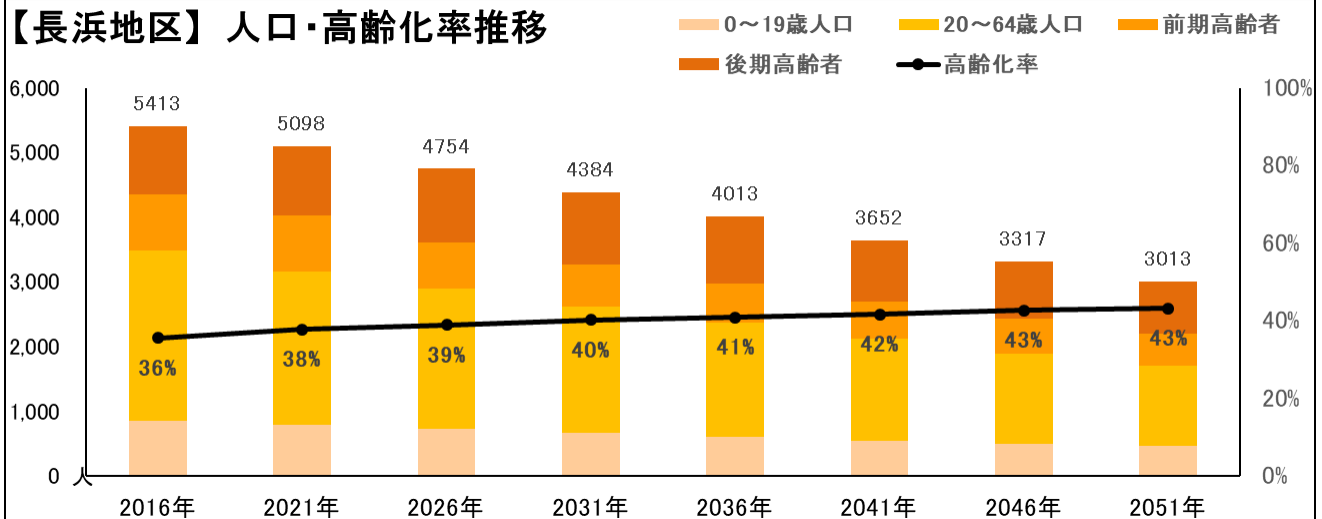
長浜地区の強み

- ・長浜港をはじめ、海に関する地域資源が豊富である。
- ・港町としての歴史文化がある。
- ・主要幹線道路沿いに位置し、交通機関へのアクセスに利便性がある。
- ・地区まちづくり推進委員会とまちづくりセンターが 1 対 1 の関係のため、連携が取りやすい。

長浜地区の課題

- ・各分野での人材育成を進めることで活気あるまちづくりが期待されているが、若い世代を中心に当事者意識が低く、それぞれの団体や町内会などでスムーズな世代交代を如何に行うかが課題である。
- ・日中、地域外で働く世帯が多く、昼夜間人口を念頭においた防災計画をたてる必要性が感じられる。

【長浜地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

長浜まちづくりセンターの新たな取組

事業名

馬 島 探 検

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ①長浜地区まちづくり計画をもとに、地域住民が海の大切さを再認識し、灯台や島の歴史を学ぶことで更に関心を高める。
- ②馬島周辺の海岸への漂着物を調査して環境問題について考える。
- ③海上から郷土を眺めることで、ふるさとへの愛着を深め郷土に誇りを持つ。
- ④水産高校や浜田海洋少年団などの団体と連携・協力し、地域との関係性を深める。

D

事業の概要

8月8日 9:30～14:00 （参加者：海洋少年団員とその保護者17名）

参加児童は、浜田水産高校の生徒からロープワークの実技指導を受けた後、船で馬島へ向かう。到着後、島周辺の漂着物を調査し、厳島神社を見学。島内を歩いて灯台を目指す。灯台施設を見学しながら昼食をとり、船で水産高校へ戻る。

○子ども達が積極的に活動に取り組む様子から、浜田市が提唱する海洋教育の理念を理解させるための興味付けにはなったと思われる。

○当日は台風と高潮のため安全を最優先と考え、漂着物調査に十分な時間がとれなかったが、あらかじめ天候不良時のメニューを用意していたので、対応することができた。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

						○			
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

上記評価の理由

参加者の学びが深まり、海洋ゴミへの関心が高まったと共に、今回参加出来なかった地域住民の中に事業に興味関心を持つ人が増えた。

また、協力機関である浜田水産高校職員による評価も高かった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

○安全面を最優先に、関係機関と十分な打ち合わせを行い、不測の事態を想定しながら取り組む。

○まちづくり推進委員会や他団体とも連携し、定期的実施することで地域住民の学びを深め、事業を協働の場とする。



周布地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 4,957人
- (2)世帯数 2,297世帯
- (3)面積 13.34km²
- (4)高齢化率 32.31%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒幼・保育園 ☒小学校
- ☒中学校 □高等学校 □専門学校・大学
- 図書館 ☒病院 ☒スーパー ☒コンビニ
- ☒ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
- ☒その他(JR 周布駅)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：周布地区まちづくり委員会

設立年月日：令和3年6月27日

構成団体：各町内会等(10団体)、各種地域団体(21団体)

主な活動：R4事業計画策定及び地区まちづくり計画策定に向け、月1回のペースで会議等を実施。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- 事務局機能 ☒関係団体との連絡及び調整役 □特になし
- その他()

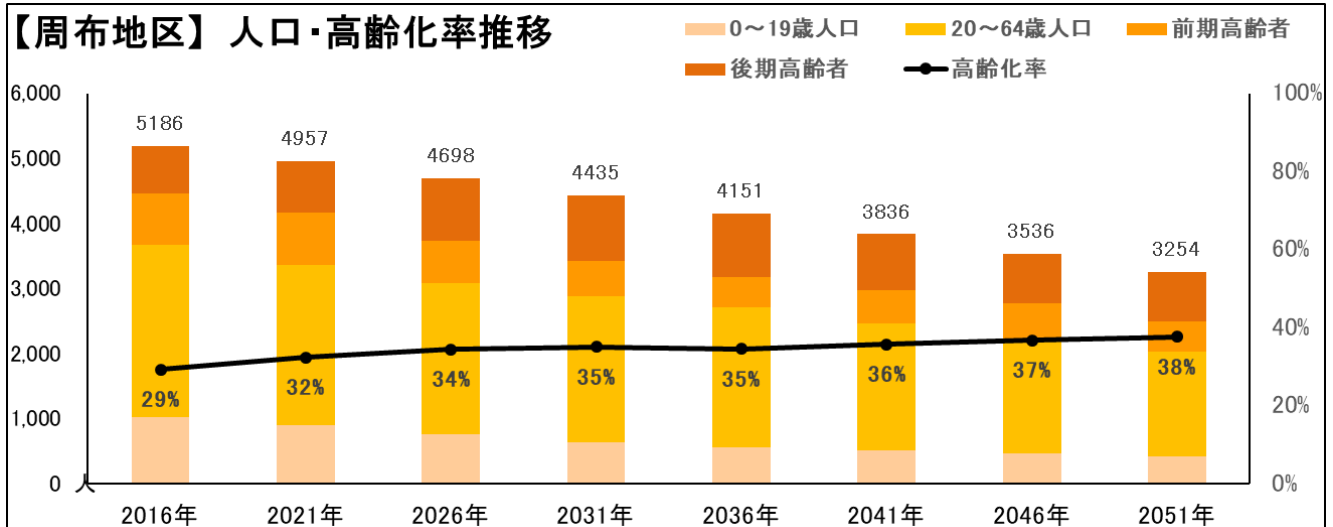
周布地区の強み

- ・新興住宅地があり、若い世代が比較的多い地域である。
- ・令和3年度に周布地区全体で「周布地区まちづくり委員会」が立ち上がったことで、新たなまちづくりの動きが生まれる土台ができている。

周布地区の課題

- ・地区まちづくり推進委員会が立ち上がったばかりであり、具体的な計画がこれからである。
- ・委員会の役割や活動の周知方法

【周布地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

周布まちづくりセンターの新たな取組

事業名

「周布地区まちづくり委員会」への事業支援及び新事業計画策定への協力

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ①周布地区まちづくり委員会が設立（令和3年6月27日）され、今後に向け委員団体として協力していく中で、事業内容の更なる充実と事業への参加者（特に若者）を増やす。
- ②地域全体と周布地区まちづくり委員会との調整役、「活動部会：Ⅲ．地域活性化」所属団体としての活動支援や協力。（地区民体育大会、グリーンカーペット事業など）

D

事業の概要 センター参画部会：「Ⅲ．地域活性化」

○人の交流を活性化

既存行事、地区全体イベント「地区民体育大会、グリーンカーペット、地区外との交流（周布川まつり復活）」など継続や中止回避、復活検討へ委員として協力する。

○団体活動活性化支援

新事業の発掘と積極的協力、団体間の交流活発化、若者の事業参加支援協力をする。

○地域環境、歴史、伝統を守る

地域資源の活用（休耕田、空き家活用）、地域草刈り隊創設（人手不足地域への協力）、地域歴史を学ぶ（講演会の支援協力）伝統（神楽についての学習）支援協力をする。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○					
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

上記評価の理由

まちづくりセンターが設立準備の事務局を担い、令和3年6月に周布地区全体で「周布地区まちづくり委員会」が立ち上がったことは成果である。

現在、事業計画の策定途中であり、設立及び活動内容の周知徹底が十分にできていないことが課題として残っている。

併せて、既存の地域活動や事業の集約検討、一本化についても大きな課題である。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 「まちづくり委員会の活動」を各町内会、地域住民への周知徹底に協力していく。
- 既存する地域活動の改善や維持、継続を図る提案など、地域活性化へ協力する。
- センターとして過去関与事業での課題を、周布地区まちづくり委員会へ助言サポート等、新規取組事業立上げの協力をする。



大麻地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 190人
- (2)世帯数 125世帯
- (3)面積 2.82km²
- (4)高齢化率 62.10%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
- 中学校 □高等学校 □専門学校・大学
- 図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
- ガソリンスタンド □公園 □広場・体育館
- ☑その他(JR 折居駅)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：大麻地区まちづくり推進委員会

設立年月日：平成21年9月18日

※平成29年3月から活動を休止し、現在に至る。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
- ☑その他(設立から活動時、事務局を担っていた)

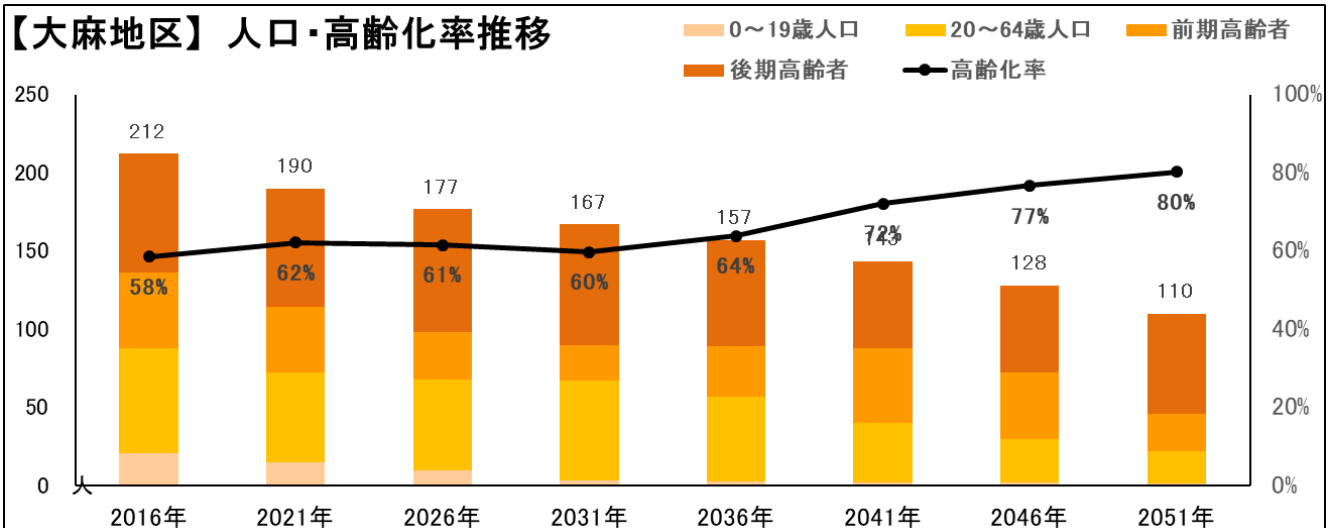
大麻地区の強み

- ・美しい海(特に夕日は絶品)と山に囲まれた豊かな自然
- ・夏の折居海岸は穴場スポットであり、県内外から来客がある。
- ・折居駅は島根県立大学生と一緒に駅外観をリニューアルし、テレビで『海から近い駅』と紹介された撮影場所になっている。

大麻地区の課題

- ・令和3年4月末現在、人口190人、高齢化率62.10%、生産年齢人口率(15歳~64歳)31.6%、弱年齢層率(5歳~14歳)5.8%と市内でも少子高齢化が進んでいる。
- ・それに伴い、地区の活動も停滞していることが大きな課題となっている。

【大麻地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

大麻まちづくりセンターの新たな取組

事業名

花のあるまちづくり事業

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

まちづくり委員会が休止となっていることから、大麻地区 3 町内で協力して参画できる事業を展開することにより、まちづくりに対する意識の共有を図ることを目的とし、当委員会再稼働への第一ステップとして位置付けている。

D

事業の概要

9 号線からの車窓・JR からの車窓から見えるロケーションに恵まれた約 300 坪の土地に、コスモスを植え風光明媚な場所造りに取り組む予定。

第一段階 草刈り及び草処理 (作業予定日 令和 4 年 2 月 13 日(日))

第二段階 根駆除作業・肥料散布 (作業予定日 令和 4 年 2 月 20 日(日))

第三段階 種まき (作業予定日 令和 4 年 3 月 13 日(日))

第四段階 草抜き等のその後の管理

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○					
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

上記評価の理由

○運営推進委員会(4月16日開催)に当事業提案、運営推進委員会(12月10日開催)に作業日程(案)及び事業継続の取組(案)を協議し、センター職員、委員ともに事業の目的についての認識を共有した。

○大麻自治会総会(5月21日開催)に当事業の協力を要請し、連携強化を図った。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

○地域住民への協力依頼の取組として、センター職員が各家庭を訪問し、協力チラシを配布するだけでなく、出来るだけ対面で事業趣旨の説明をし、まちづくりに対する意識の共有を図る。

○体力を要する事業のため、無理な作業工程は避け、楽しみながら作業が出来る仕組みづくりに取り組む。将来的には、一部に芝生を張り、憩いの場所にしたいと考えている。



花を植える場所です。

令和 3 年 10 月時点の写真です。

令和 4 年 2 月からスタート！！！！

美川地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 1,706人
 (2)世帯数 843世帯
 (3)面積 34.13km²
 (4)高齢化率 44.20%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 ☒ 小学校
☒ 中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 ☒ 病院 □スーパー □コンビニ
 □ガソリンスタンド □公園 ☒ 広場・体育館
☒ その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：美川地区まちづくりネットワーク

設立年月日：平成22年4月1日

構成団体：美川地域町内会、美川手作りネット、美川野球スポーツ少年団、
 美川クラブ、美川体協等

主な活動：各町内会のコミュニティ活動、美川地域体育大会、青少年育成促進事業、
 美川手作りネット事業、美川夏祭り、農村広場管理など

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 ☒ 特になし
 □その他()

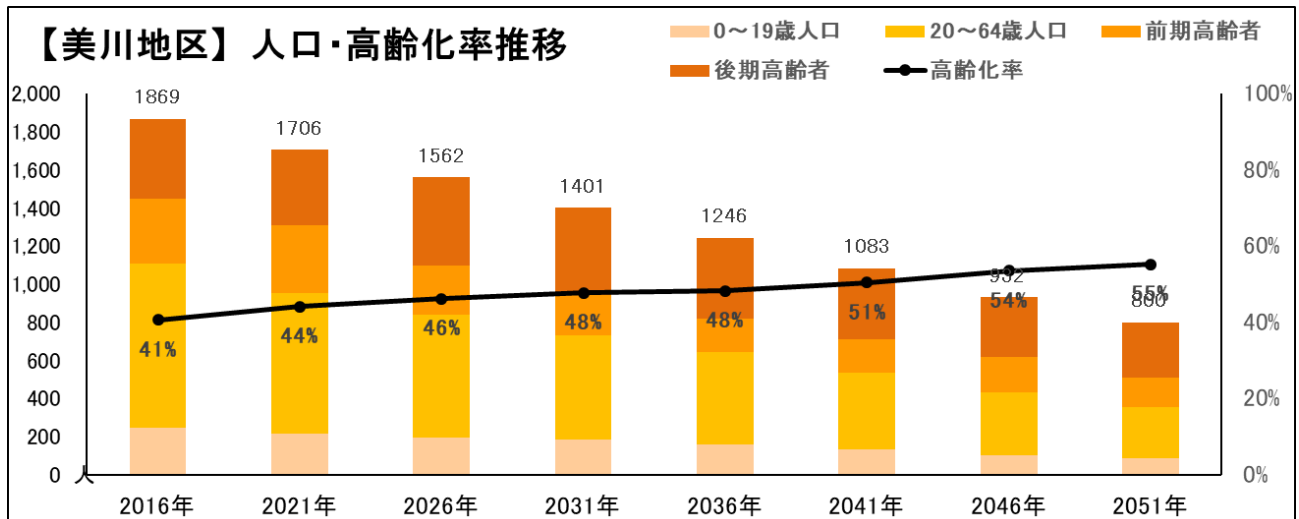
美川地区の強み

- ・子どもを地域の宝として、地域ぐるみで見守り育ててきている。
- ・今年度より実施している『美川まちづくり楽市』を通して、地域の方が集まり、コミュニケーションの場となりつつある。
- ・市内中心部から車で10分の距離であり、学校施設等も整っている。

美川地区の課題

- ・少子高齢化による地域活動の衰退。
- ・連合自治会が解散したことによる、地域住民の意思疎通の場の減少
- ・まちづくり推進委員会との関係づくり

【美川地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

美川まちづくりセンターの新たな取組

事業名

地域の買い物支援事業『美川まちづくり楽市』

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 美川地域の商店空白地帯の解消、公共交通の減便や廃止に加え、運転免許証の返納に伴い、買い物弱者の生活援助の一助となるよう、新鮮、安全、廉価をモットーに朝市を開き、併せて地域生産者と消費者の交流、地域活性化を目指す。
- 買い物の不便、苦勞がしいては食品摂取量の減少、孤食につながり、健康面でも心配。新鮮な食材が安く手に入り、朝市に来る事で会話が生まれ、コミュニケーションの場となる。
- 自分で買い物する事で脳の活性化につながる。
- 生産者は野菜作りや売る方法を考える等意欲が高まり、地域の為にどうしたら良いかを自発的に考える機会に繋がる。

D

事業の概要

- 令和3年8月7日よりスタート・毎月第1, 第3土曜日 朝8時から9時まで
- 美川まちづくりセンター前 雨天時：センターロビー内
- 美川まちづくり楽市実行委員会(代表、実行委員長、事務局長他40代～80代まで計14名)
- 地域の方が育てた野菜、果物、加工品、手作り品、花、干魚などを販売。

事業の実施において工夫した点、成果、課題、改善点等

- 季節に応じた野菜、果物を安価に提供する事で購入しやすい。
- 生産者の意欲向上、自発的思考。○高齢者の健康増進。○毎月チラシを発行。朝市の旗を前日に立てる事で地域へお知らせ。○課題：施設面、天候に左右される。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

- 生産者が意欲的に取り組んでいる。
- 地域の方、利用される方に大変好評であることが何よりである。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 地域へさらなるアピール
- 他地域の朝市を視察
- 品物の検討(消費者のニーズを把握)
- 節目にイベントを行う。
- 利用者、高齢者の憩いの場を作る。
- 雨天時等安心して運営できる環境整備



国府地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 5,679 人
 (2)世帯数 2,667 世帯
 (3)面積 34.90 km²
 (4)高齢化率 35.82%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 ☒ 小学校
☒ 中学校 ☒ 高等学校 □専門学校・大学
☒ 図書館 ☒ 病院 ☒ スーパー ☒ コンビニ
☒ ガソリンスタンド ☒ 公園 ☒ 広場・体育館
☒ その他 (国府海岸、石見海浜公園)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

- ①上府町まちづくり推進委員会(平成24年4月1日設立)夏祭り、文化祭、イルミネーション事業 自主防災 他
 ②下府町まちづくり推進委員会(平成25年4月1日設立)各団体の事業運営支援(高齢者クラブ・自治会・青年団 他)
 ③宇野町・下有福町・大金町まちづくり推進委員会(平成26年9月27日設立)スポーツ交流会、自主防災 他
 ④久代地区まちづくり推進委員会(平成28年6月4日設立)はまぼうふう・久代川保全活動 他
 ⑤国分の里まちづくりネットワーク(平成29年4月23日設立)運動会、清掃活動、防災講習会 他
 ⑥とうがねまちづくり推進委員会(令和元年6月29日設立)ウォークラリー大会、防災レク 他

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☒ その他(地域への広報、事業運営協力)

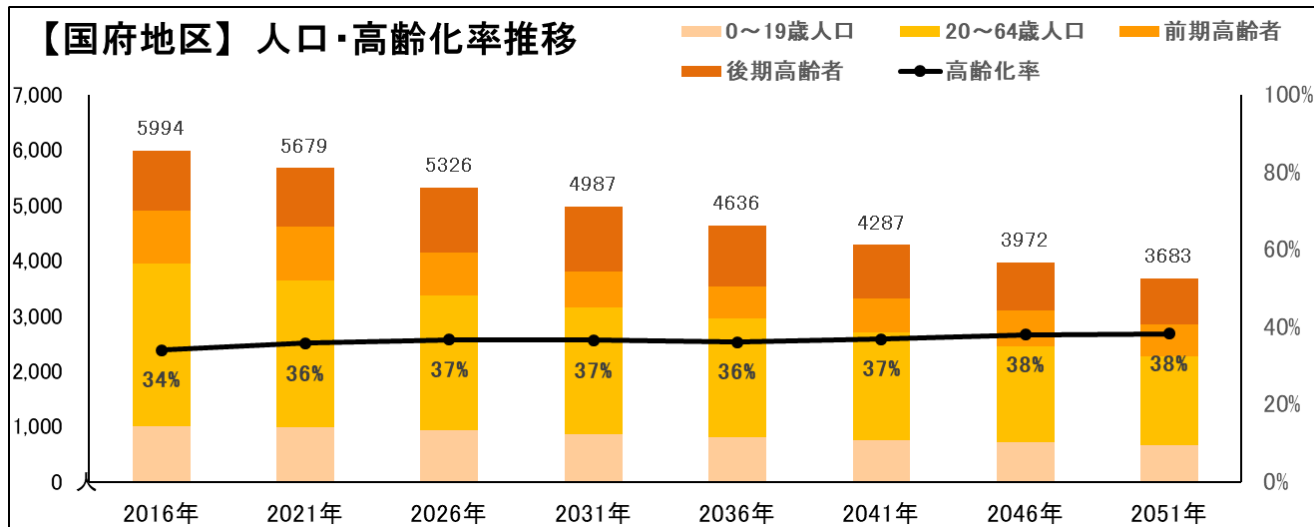
国府地区の強み

- すべてのエリアで、まちづくり組織が立ち上がっている。現時点で、地区内でまちづくり組織が複数あり、組織率100%は国府地区だけである。
- 各エリアそれぞれで自治会や自治公民館運営、高齢者クラブや青年団と連携しながら特色のある活動をしている。
- 夏場は海水浴客も多く、「海」が重要な地域資源である。

国府地区の課題

- エリア全体でまちづくり組織ができているが、人口の多い地域、少ない地域の差が大きく、少子高齢化の進んだ地域も多くみられる。
- 子育て世代の地域活動への参画は、昔と比べて減少している。そのため町内会・自治会の役員も高齢化率が高い。
- 国道から離れた地域は市営バスの運行が年々減少しており、高齢者だけでなく学生の交通手段が無い状況である。

【国府地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

国府まちづくりセンターの新たな取組

事業名

国府地区まちづくり推進委員会 意見交換会

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

すでに設立されている各まちづくり推進委員会の活動内容を聞き、まちづくりセンターとして連携を図るためにどんなことが出来るか意見交換会を実施。多くの住民が「まちづくり」について知らないことも多いので、センターが広報的な役割を担うことで興味・関心をもってもらえるようにしていきたい。

D

事業の概要

『国府地区まちづくり推進委員会 意見交換会』

日 時：令和3年6月7日(月) 19時～20時半

会 場：国府まちづくりセンター 研修室

参加者：各まちづくり団体代表者、国府まちづくりセンター職員 計16名

内 容：各まちづくり組織の活動状況(関係団体や事業等)や、各地区の課題についての聞き取り。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

						○				
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

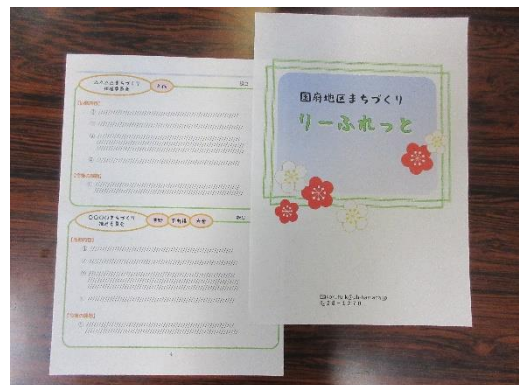
上記評価の理由

顔を合わせること自体初めてだったため、集まっていただけただけでも成果はあった。それぞれに課題が違うため、個別に聞き取りもしていければと思う。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

自分の住んでいる地区での取組を、もっと知ってもらうことが大事と考える。若い世代の参画を促進するため、情報発信の強化をしていきたい。まずは取組紹介リーフレットを作成し、広く広報をしていく。



現在6つのまちづくり団体の紹介リーフレット作成中。
年度末には国府地区の全戸に配布予定。

久佐地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 315人
 (2)世帯数 151世帯
 (3)面積 18.48km²
 (4)高齢化率 48.89%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
 □ガソリンスタンド ☒公園 □広場・体育館
☒その他(かなぎウエスタンライディングパーク)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：久佐地区まちづくり振興会

設立年月日：平成23年11月1日

構成団体：各町内会、まちづくりセンター、高齢者クラブ、JA女性部、食生活改善推進委員会、山陰久佐松竹座、神楽社中、田ばやし保存会

主な活動：久佐地区慰霊祭・納涼大会・運動会・敬老会・文化祭の開催、各町内への支援、環境整備

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- 事務局機能 ☒関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☒その他(事務及び会計補佐)

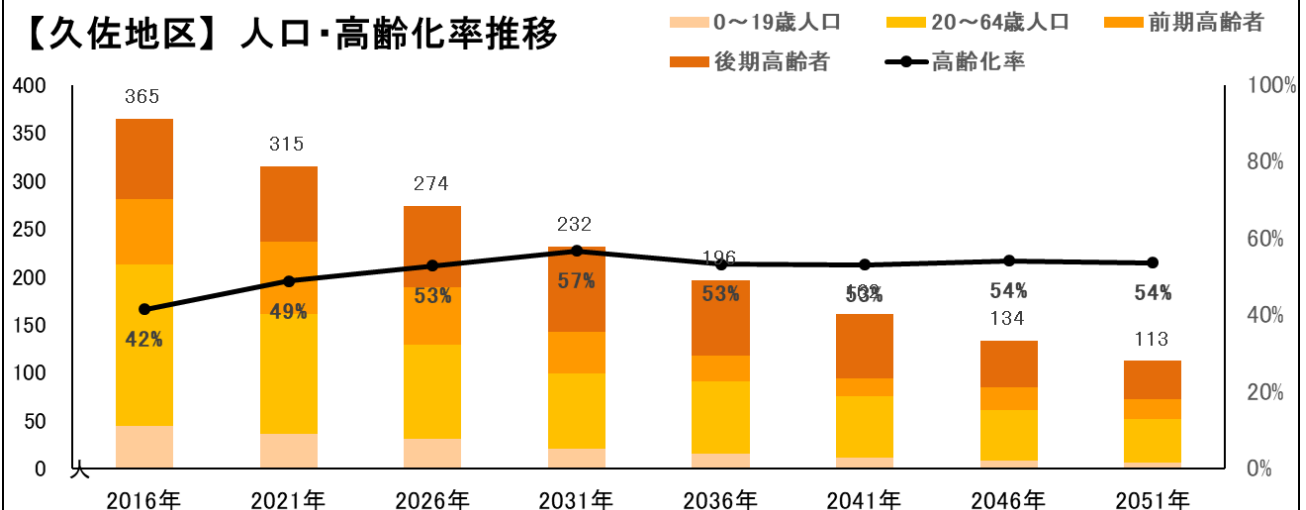
久佐地区の強み

- ・豊かな自然
- ・かなぎウエスタンライディングパーク
(乗馬体験、食事、動物とのふれあい、公園、オートバイ神社)
- ・伝統芸能
(山陰久佐松竹座、久佐西組神楽社中、久佐東神楽社中、田ばやし保存会)
- ・島村抱月生育の地

久佐地区の課題

- ・交通対策
(買い物や通院等の交通弱者、免許返納後の交通手段、等)
- ・農地の荒廃、担い手後継者の不在
- ・少子高齢化
(独居、高齢者世帯の増加、等)
- ・地域を引っ張っていくようなリーダー的存在が見つからない

【久佐地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

久佐まちづくりセンターの新たな取組

事業名

地域の防災力を高め 命を守ろう！！

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 久佐地区まちづくり振興会と共催で行うことにより、防災・減災に対する意識を高める。
- 実際に災害が起きた際にどう対応・行動すればいいかを事前に学び、考えておくことで自分と家族を守る行動がとれる。
- 防災バッグを全戸配布し、非常持ち出し品などの確認・準備をするきっかけとする。

D

事業の概要

開催日時：令和3年11月21日（日）／令和3年12月5日（日）

会場：久佐まちづくりセンター

共催：久佐地区まちづくり振興会防災会・久佐まちづくりセンター

対象：地域住民

内容：第1部 講演：災害派遣から学ぼう！ 演題『災害派遣で思ったこと』

元陸上自衛官の方を講師に迎え、被災の現状や災害救助等のお話をして頂き、家庭や地域での防災減災意識を高めた。

第2部 我が家の避難行動計画「マイタイムライン」を作ろう！

配布した資料を参考に各自でマイタイムラインを作成し、グループに分かれ意見交換をした。人と話すことで課題やアイデアに気づき、見直すことができる。また、ハザードマップで避難が必要な区域を確認し、正しい避難行動を考えた。

第3部 災害に備え、非常持ち出し品を準備しよう！

全戸に防災バッグと懐中電灯を、5歳以上の住民に1人1つずつ緊急用ホイッスルを配布し、防災・減災意識を高めるきっかけとなった。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

上記評価の理由

参加者から

「とてもよかった」

「またやってほしい」

「毎年やってほしい」という声があった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 様々な情報を仕入れ、新しい知識を学び発信・共有する。
- 実践／体験プログラムを組み込み、実際に体験することで現実的に考えたり身に着けたりしてもらう。
- 内容を変えながら定期的に事業を行う。
- 年度始めに計画を役員で話し合い、事業を実行する。



今福地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 499人
 (2)世帯数 222世帯
 (3)面積 15.82km²
 (4)高齢化率 44.29%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 ☒ 小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー ☒ コンビニ
☒ ガソリンスタンド □公園 ☒ 広場・体育館
 □その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：今福地区まちづくり委員会

設立年月日：平成23年7月12日

構成団体：各町内会、今福自治振興会、今福地区社協、今福地区自主防災会、福寿会、今福文化サークル、中山間今福広域協定、今福おてまやさん、ゆるり、わかすけ、もやい市、ほっかほっか会、シャインマスカット栽培PJC

主な活動：今福文化祭、いまふく土曜夜市、他町内会交流(合同いきいきサロン)、買物バスの運行、環境整備・福祉奉仕、毎月第1・3土曜日に“もやい市”を開催、さつま芋栽培及び販売、シャインマスカット栽培及び販売

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒ 事務局機能 □ 関係団体との連絡及び調整役 □ 特になし
☐ その他()

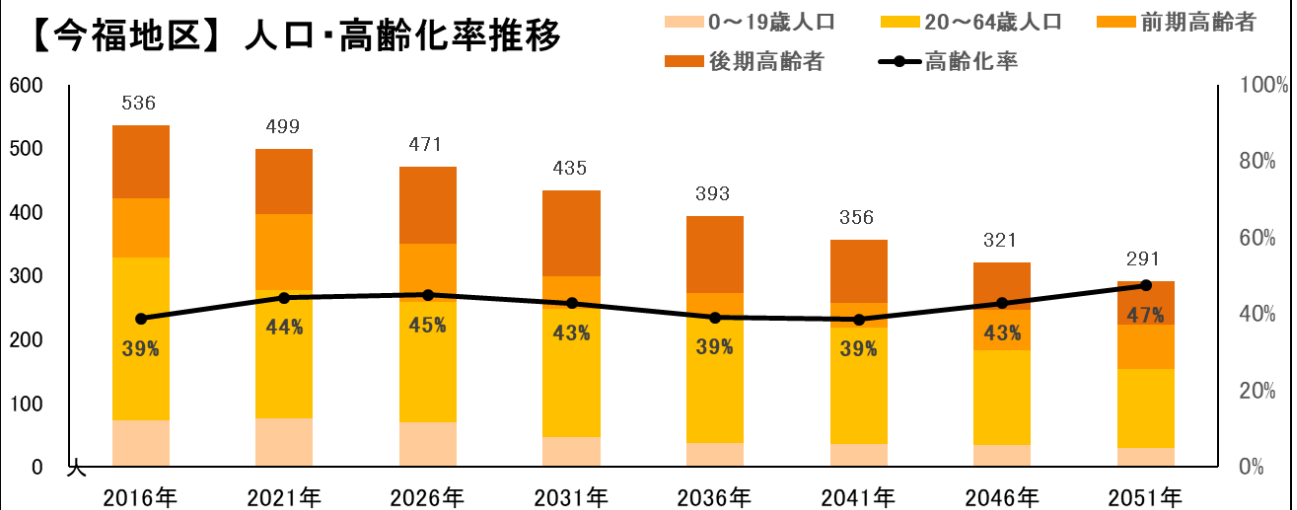
今福地区の強み

今福地区まちづくり委員会、今福自治振興会、福寿会、今福まちづくりセンターが、車の四輪のように、お互いに協力して事業を行っており、相乗効果を発揮している。

今福地区の課題

- ・数年後には増大と思われる、交通弱者の皆さんの病院や買い物支援の検討。
- ・独居高齢者を孤独化させないための方策の検討。

【今福地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

今福まちづくりセンターの新たな取組

事業名

今福地区まちづくり委員会「もやい市」×今福まちづくりセンター社会教育部
もやい市に学びの場(令和3年6月～12月 計7回)

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ①もやい市の賑わいの創出
- ②親子の地域参画のきっかけ作り
- ③多世代交流（活動人口の増加）

D

事業の概要 「もやい市号」の買い物バスの待ち時間を利用した1～2時間程度の学びの場

【6月】保護者世代女性組織「ゆるり」によるフリマ・雑貨販売（販売チャレンジ①）

【7月】ワンコインカフェ 【8月】リアリバさんによるウクレレとうた生演奏

【9月】スマホ教室・ワンコインパフェ「今福良品」

【10月】貸本屋・「スープストックイマフク」

【11月】保護者世代フリマ・スイートポテト販売（販売チャレンジ②）

【12月】ニット小物販売（販売チャレンジ③）・ユニット「FREE」ダンス披露

成果…もやい市の立ち寄りサロンとなり、買い物客の居場所作りになっている。

また、30～70代までの地域の方の販売や学びの場となることで、次のロールモデルとなり地域住民の活動意欲が高まった。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○					
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

上記評価の理由

①賑わいの創出…もやい市の来場者が前年度より増加。今年度からスタートした買い物バスの運行とそれに併せて行っている学びの場の提供がよい結果を創出していると考えられる。

②親子地域参画、③多世代交流…コロナ禍により2件計画を断念し課題が残っている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・50～60代の活動人口を増やす。
参画したくなる企画を実現する。
- ・親子世代の活動人口を増やす。
広報や宣伝方法を工夫する。



美又地区の概要

概要(令和2年4月現在)

- (1)人 □ 276 人
 (2)世帯数 142 世帯
 (3)面積 19.37 km²
 (4)高齢化率 55.80%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
 □ガソリンスタンド □公園 □広場・体育館
☒その他(美又温泉)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：美又湯気の里づくり委員会

設立年月日：平成23年6月21日

構成団体：自治振興会、各町内会、地区社協、寿会、湯気の会他

主な活動：美又温泉イベント、盆踊り、地区サロン、地区GG大会
 特産品加工・販売、民具継承他

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☐その他()

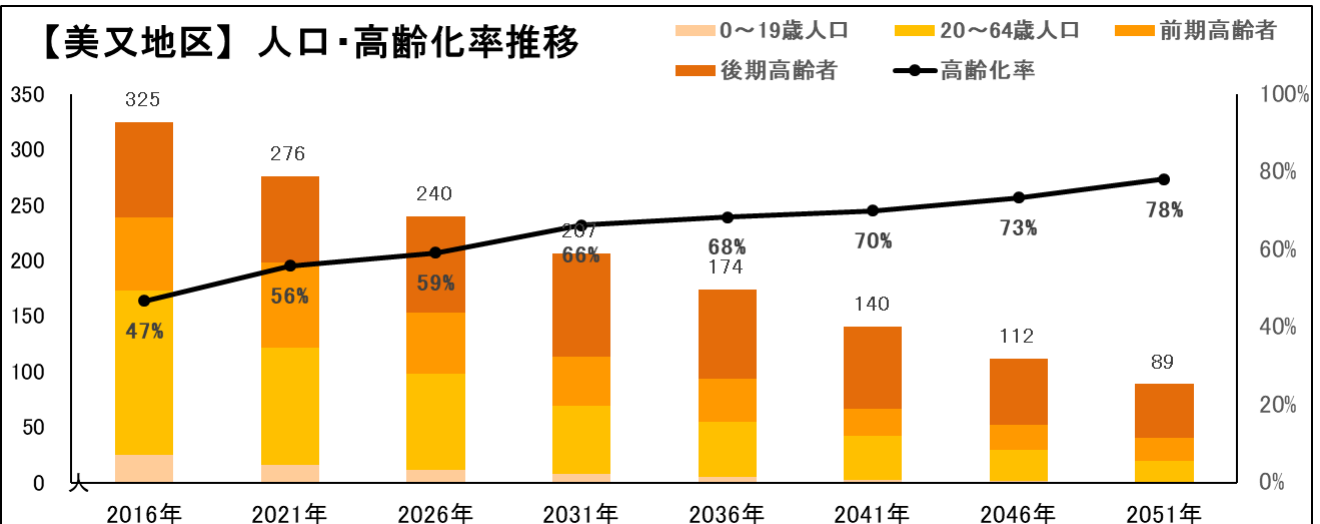
美又地区の強み

- ・地区内に、市内の観光施設にもなっている美又温泉があり、外部から一定程度地区への入込客がある。
- ・少数ではあるが、地区へのＩターンなどがあり、地域の元気につながっている。

美又地区の課題

- ・小学校、保育園が廃止となり一段と少子化が進んでいる。
- ・人口減少及び少子高齢化が進行しており、集落の維持が難しい町内会が増えつつある。
- ・コロナ禍により、美又温泉や地区特産品販売などが大きな影響を受けている。

【美又地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

美又まちづくりセンターの新たな取組

事業名

関係人口の拡大

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

美又地区は、市町村合併後小学校及び保育園が廃止となり、子育て世代の地区外への転出などにより少子化が顕著となってきている。こうした状況からセンター事業でも地区外からの参加を積極的に受け入れ、地域の方との交流を行うことで地域の元気につなげ、併せて地区外の応援者を増やすことで美又地区の活性化につなげることを目指している。

D

事業の概要

センターの単独事業として令和3年度から取組を開始しており、センター事業の地区外参加者等に呼び掛けセンターの応援者として会員登録している。

登録者には、チラシやお知らせの送付、SNSを活用するなどセンター事業への参加募集を行い、子育て世代を始め、県立大学生などの若い世代に活動へ参加してもらうことで、地域との交流により美又地区の元気につながる活動とする。

現段階では、普段からの情報発信までは取り組めていない。

対象：地区外親子、県大生、若い世代 他

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

		○							
--	--	---	--	--	--	--	--	--	--

上記評価の理由

コロナ禍の影響もあり、徐々に進めている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

先々は、まちづくり委員会との連携事業に移行し、「美又応援者」として地域の情報発信に力を入れて、地域の活性化に繋げていくことを検討したい。



8/7 竹灯籠づくり



12/11 干し大根づくり

雲城地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 2,339 人
 (2)世帯数 1,059 世帯
 (3)面積 33.39 km²
 (4)高齢化率 34.59%

主な施設

- ☒市役所(支所含む) ☒幼・保育園 ☒小学校
☒中学校 ☐高等学校 ☐専門学校・大学
☒図書館 ☒病院 ☒スーパー ☒コンビニ
☒ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
☐その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：雲城まちづくり委員会

設立年月日：平成23年6月23日

構成団体：各町内、くもぎコミュニティ自治会、高齢者団体、女性・若者団体、
 教育福祉機関、地域事業者 等

主な活動：町内会及び活動団体への支援、ハッチョウトンボを活用した環境活動と
 交流人口の拡大、タカキビ栽培や加工商品の開発など

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 ☐関係団体との連絡及び調整役 ☐特になし
☐その他()

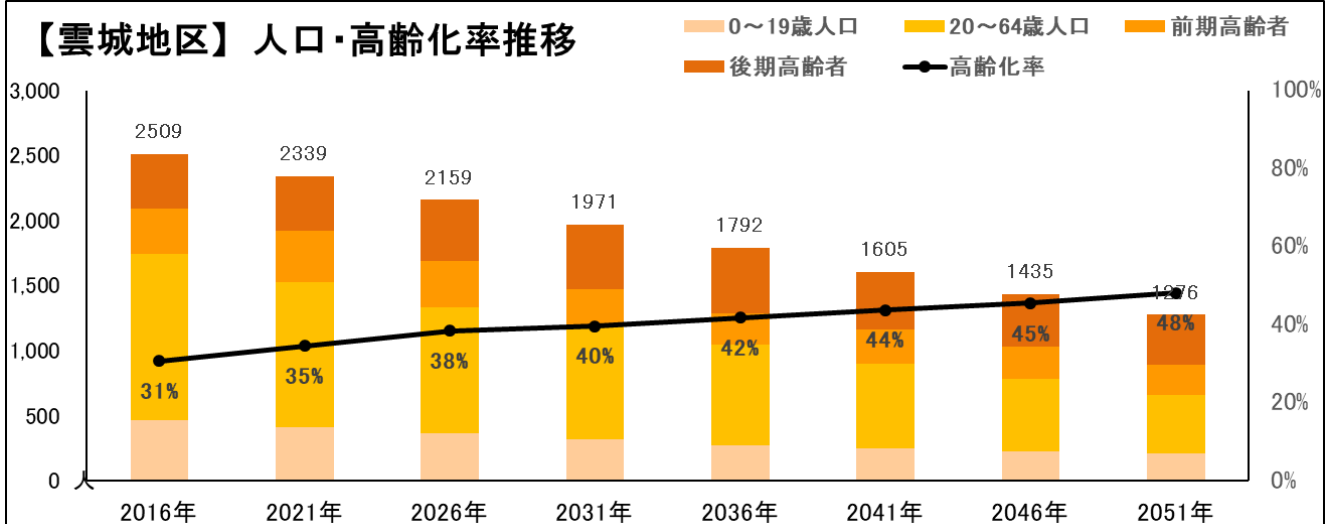
雲城地区の強み

- ・浜田市中山間地域において、比較的人口も多く、若者も多い。UIターン者も比較的多い。
- ・豊富な人材と活動団体
- ・金城地域内の主要施設（金城支所、学校関係、保育園、スーパー、医療機関、金融機関等）がそろっている。

雲城地区の課題

- ・組織している町内会も多く、人口も多いため、一体感が薄い。
- ・地域が広く地区内の現状を把握しづらい。

【雲城地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

雲城まちづくりセンターの新たな取組

事業名

独り暮らし高齢者花鉢プレゼント & 高齢者生活実態調査

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○きっかけ：「買い物や草刈りで困っている高齢者の力になりたい」という雲城地区住民の声

○ねらい：高齢者の生活の現状把握と課題解決、まちづくり活動への参加者拡大

○予想される成果：高齢者のニーズから生活支援や集い等福祉事業を計画、実施

他機関と連携し、地域住民を巻き込みながら協働で地域福祉のまちづくり活動を推進

D

事業の概要

高齢者生活実態調査

○事業対象者は、80歳以上の一人暮らし高齢者に絞り、社会福祉協議会が年末実施している「まごころ弁当と安否確認」事業に同行して実施を計画→浜田市社協金城支所及び民協定例会での事業説明、協力依頼→賛同を得て、民生委員に同行し高齢者宅を訪問、花鉢とメッセージを届け、生活実態調査も配布し記入のお願い→高齢者の方と直接会話をし、普段の生活の困りごとを聞くことができた。

○生活実態調査項目について、社協生活支援コーディネーター、浜田市まちづくりコーディネーター（コミュニティナース）に相談、内容やレイアウトについて専門的なアドバイスをもらい調査票を作成した。

○調査票集計→まちづくり役員、社協、浜田市まちづくりコーディネーターとの意見交換会を開催する。

花鉢プレゼント

○まちづくりセンター恒例の「寄せ植え教室」の参加者や講師が花鉢づくりに協力し、40鉢が完成した。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

上記評価の理由

調査表の回答率は74%。高齢者対象の調査は回答が難しいと社協から指摘されたが、花鉢のプレゼントに合わせ個別訪問、顔を見て調査依頼をしたことが回答率の高さにつながった。用紙に書ききれない思いや現状など便箋に追記同封された高齢者もあった。未回答者には再度訪問するなど、聞き取りを行う予定。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

○高齢者生活支援調査の対象をサロン参加者に対しても実施、より多くの高齢者の声を集める。

（独り暮らしだけでなく高齢者世帯の調査実施）

○調査結果を参考にしながら、具体的な生活支援実施にむけ、活動組織、団体の立ち上げや支援を行う。

○サロンを実施していない地域の高齢者が参加しやすい雲城全体のサロンの開催を検討する。



波佐地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 438人
 (2)世帯数 224世帯
 (3)面積 56.66km²
 (4)高齢化率 53.42%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 ☒ 小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
☒ ガソリンスタンド ☒ 公園 □広場・体育館
 □その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：波佐まちづくり委員会

設立年月日：令和3年4月13日

構成団体：波佐自治会・各種団体

主な活動：無償ボランティア移動支援事業・各種団体への支援・地域商品券

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒ 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
 □その他()

波佐地区の強み

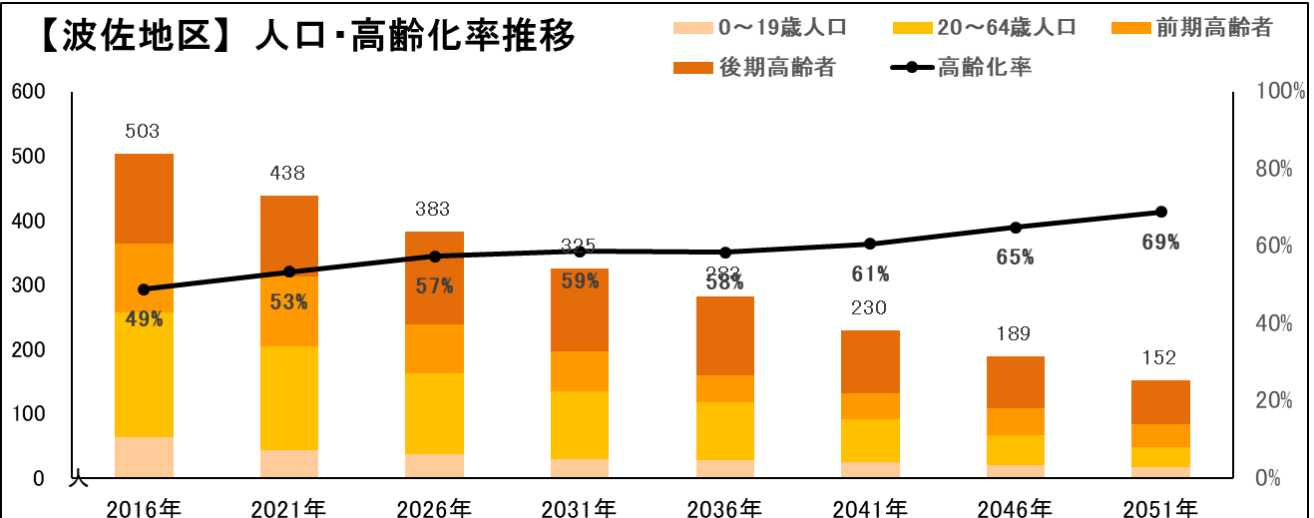
- ・保育園・小学校があることで一緒に活動ができる。
- ・各種商店があるので、地元で最低限の生活用品が揃う。
- ・診療所がある。
- ・課題が山積であり、その分チャレンジする土台がある。

波佐地区の課題

【交通対策】

- ・バスの便数の減少。
- ・ボランティアタクシーの制限がある。
(目的地・曜日など)
- ・年金生活者はタクシー料金が払えない。

【波佐地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

波佐まちづくりセンターの新たな取組

事業名

無償ボランティア移動支援事業

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

波佐・小国地区の福祉・医療・介護の課題検討から発足した「波佐・小国地域医療等課題検討協議会」において、高齢者等の交通・移動・外出の不便問題について検討され、従来の公共交通を補完し（波佐地区のみ）、地域の助け合いにより、安心して暮らせる支援体制の構築を図ることを目的として、無償ボランティアでの輸送サービスの提供を開始した。

D

事業の概要

- 運行日 : 週3日（火・木・土、ただし診療所の休診日を除く）
運行範囲 : 波佐地域（利用者の自宅から診療所・金融機関・商店の往復）
ドライバー : 地域の志願者（65歳から75歳の5名）
事務局 : 波佐まちづくりセンター職員（3名）
利用者 : 交通手段を持たない住民
工夫 : 利便性の拡大をした（目的地の追加）
当初、波佐診療所を目的地として開始したが、利用者の意見等により金融機関を目的地とすることで利用者が増えた。
課題 : 高齢化によるドライバーの確保や、積雪がある地域であるため、対応できる車両の確保や安全面が課題となっている。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

発足当初、目的地は診療所のみであった。
利用者からの意見を取り入れ、目的地（金融機関・商店）を広げたことで、利便性が向上した。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 余裕のあるドライバー数の確保
- 積雪が多い時季の安全な運行



小国地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 170人
 (2)世帯数 88世帯
 (3)面積 20.68km²
 (4)高齢化率 64.71%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
 □ガソリンスタンド □公園 ☒ 広場・体育館
☒ その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：小国まちづくり委員会

設立年月日：令和3年4月25日

構成団体：小国地区6町内会、小国地区社協、小国高齢者クラブ、(農)てこの里おぐに

主な活動：環境美化、安心・安全対策、自然に親しむ会、運動会、敬老会、文化祭、とんど祭り

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒ 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☐ その他()

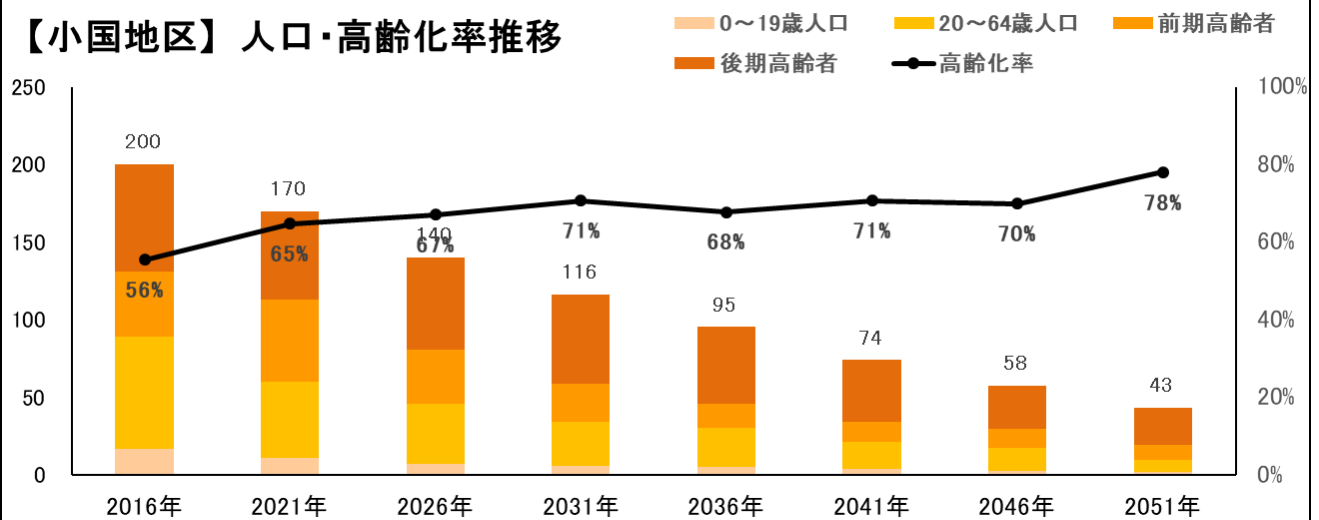
小国地区の強み

- ・世帯数(人口)が少ないがゆえに、住民同士の繋がりが深く、お互いに顔を知っていること。

小国地区の課題

- ・少子高齢化で地域を担う人材が少ない
- ・高齢者等の生活環境(草刈り、除雪)の確保
- ・環境(農地を含む)保全
- ・交通対策

【小国地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

小国まちづくりセンターの新たな取組

事業名

買い物タクシーの運行支援

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

公共交通が十分でない地域のため、買い物等への移動手段を課題とし、地区内でのアンケート（聞き取り調査）を行ったところ、一人では買い物に行けない、バス停まで行くことも困難であるなど、移動手段や今後への不安をもつ声が多く、自宅まで送迎できるタクシーを利用した移動手段の確保事業を検討した。

地区内高齢者等、交通手段のない方の買い物を支援し、タクシーによる移動手段により外出機会を増やすことで利用者相互のコミュニケーションを図ることを目的としている。

D

事業の概要

10人乗りのジャンボタクシーで毎月第2(水)、第4(木)の午前中に運行し、金城地域内スーパーマーケット、コンビニエンスストアまでを往復する。

運行には利用者数によって付添人を1人ないし2人配置し、乗車・降車の確認やスーパー内での買い物支援（荷物持ちなど）を行う。

利用者負担額：500円/回（敬老乗車券利用可）、予約制で「小国まちづくりセンター」が利用受付を行い、前の週の金曜日までに申し込みを行う。

現在、今福地区まちづくり委員会が開催する「もやい市」への運行を試行的に実施中。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

○付添人を配置し、利用者の乗降車の支援が確保されている。

○利用者からの口コミ等によって継続的に利用があり運行されている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

現在は買い物支援として運行しているが、今後は地域内移動（例えば地区内行事、日帰り入浴など）も検討のうえ運行する。



今市地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 1,465人
 (2)世帯数 728世帯
 (3)面積 25.43km²
 (4)高齢化率 30.17%

主な施設

- ☒市役所(支所含む) ☒幼・保育園 ☒小学校
☒中学校 ☐高等学校 ☐専門学校・大学
☒図書館 ☒病院 ☒スーパー ☐コンビニ
☐ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
☐その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：今市地区まちづくり推進委員会

設立年月日：平成21年7月3日

構成団体：各自治会、高齢者クラブ、今市地区まごころ福祉協議会 等

主な活動：各自治会への支援、市子桜保全活動、敬老事業、地区運動会、健康ウォーキング、子ども部会事業（ハッピーハロウィン）

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 ☐関係団体との連絡及び調整役 ☐特になし
☐その他()

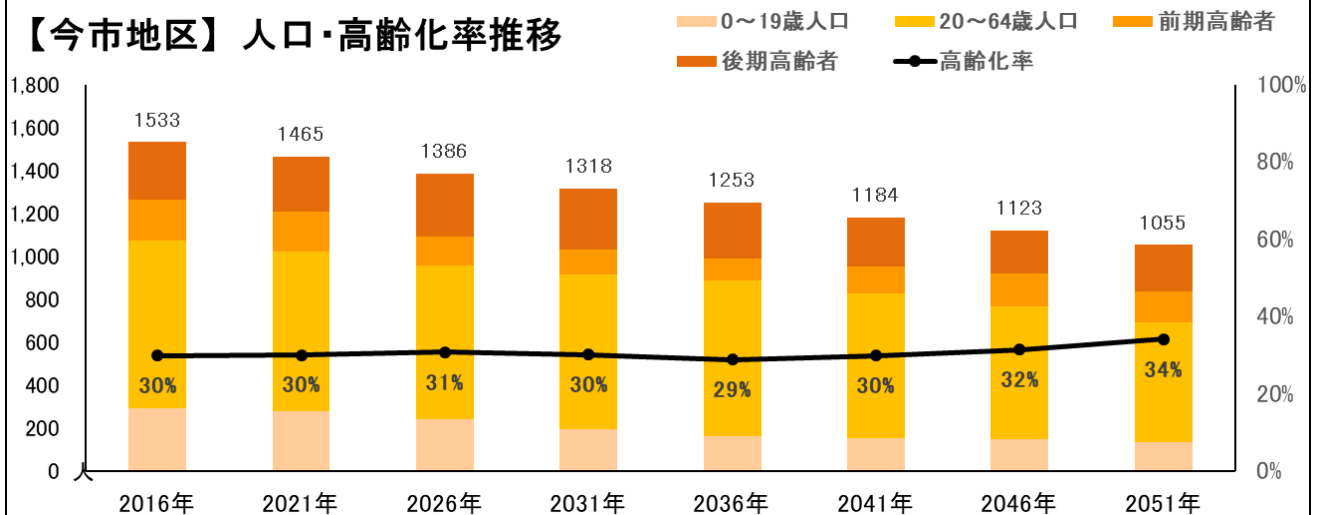
今市地区の強み

- ・市役所の支所、JAや信金の支店、子ども園、小中学校を有する旭地域の中心地である。また、浜田道旭ICを有し広島市街へ1時間余りという利便性も備えている。
- ・平成20年には「島根あさひ社会復帰促進センター」が開所し、若い世代を中心に人口は一気に300人増え自治会も1つ増えた。今市を構成する3つの自治会（今市、坂本、丸原）が4つとなった。

今市地区の課題

- ・社会復帰促進エリアの新しい自治会と、もとの自治会（今市エリア、坂本エリア、丸原エリア）との差（環境、人口、世代など）が激しく、地域活動を通じて育まれる「地域人材」の育ちが乏しい。
- ・就労、子育て世代の多くが社会復帰促進センター職員家族であり、高齢世代（60代以上）は、もとの住民が占めるという世代構成により継がれ培われた技や知恵の継承維持が困難。

【今市地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

今市まちづくりセンターの新たな取組

事業名
関係機関協働事業

今市の魅力再発見 ～イマフル～

「イマフル」県立大学生が命名！
・今市はパワフルに女性が活躍していることや、
パワフルに今市のまちづくりを活性化していきたい
という思いが込められています。

パワフル

カラフル

ワンダフル

ピースフル

今（イマ）と古（フル）

P

事業の目的（解決を目指す課題）

地域に住居している住民の暮らしへの満足度が高まる地域
希薄化しがちな住民同士の繋がり感を取り戻し地縁が深まる地域
住環境の整備に関心を持ち先人から継いだ知恵を後世に繋げる地域
「大学×企業×地域×県×民」協働事業による元気な地域

見込まれる成果

シビックプライドの醸成によるウェルビーイングの高まり
高齢者や子育て中の孤立感への歯止め
地域資源と人財の掘起こし
多様な世代の地域での活動を応援・情報発信
住民、企業等に心地よい刺激と活性化

D

事業の概要

※①を達成するためのファクターとして①②③を実施

① グループトーク

～地域が抱える問題を大学生と共有～

■県立大学教授、大学生、県職員、四つ葉振興会正副会長、センター職員



6月～1月5回／実施総人数 70人

② フィールドワーク

～地域を探索し、聞き取りから問題点・課題を探る～



7月3日（土）坂本・今市地区



7月6日丸原・南高台地区

■島根県立大学教授、大学生
県職員、四つ葉振興会正副会長、
地域の企業、センター職員他 40人

③ 動画撮影・発信

～地域の魅力をYouTube撮影・発信～

■撮影日：10/11（月）、10/18（月）、10/20（水）

■撮影場所：今市まちづくりセンター・地域の企業

■島根県立大学教授、大学生、県職員、旭地域企業、センター職員他 25人



撮影の様子

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

	○								
--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

上記評価の理由

○現状差が大きく異なる4つの地区を跨いでいる
ことに加え、課題が複合的・重層的であり、一緒
に目標に向かう関係人口が少ないと考えられる
ため

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと （評価を10に近づけるために）

- 課題にトライする県大生のパワーを継続的に取り
入れ、将来のありたい姿を起点とした発想を共有
する仕組み
- 大学生の活動を通して受けた刺激が、住民の我が
事と意識を育み、積極的な地域活動への参画を増
やす取組

YouTubeの検索は↓

企業紹介編



商品紹介編



大学生によるYouTube動画撮影



調理紹介編



木田地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 246人
 (2)世帯数 123世帯
 (3)面積 11.43km²
 (4)高齢化率 51.63%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
☒ガソリンスタンド □公園 ☒広場・体育館
 □その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：木田まち自治会

設立年月日：平成22年8月26日(平成30年統合及び名称変更)

概要：旧木田自治会・旧木田まちづくり推進委員会がひとつになり、それぞれの機能を活かす組織として設立。地域の伝統行事の他、環境保全にも努め、各団体と連携し住民の生活向上・充実した暮らしの為に持続的なまちづくりを行う。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
 □その他()

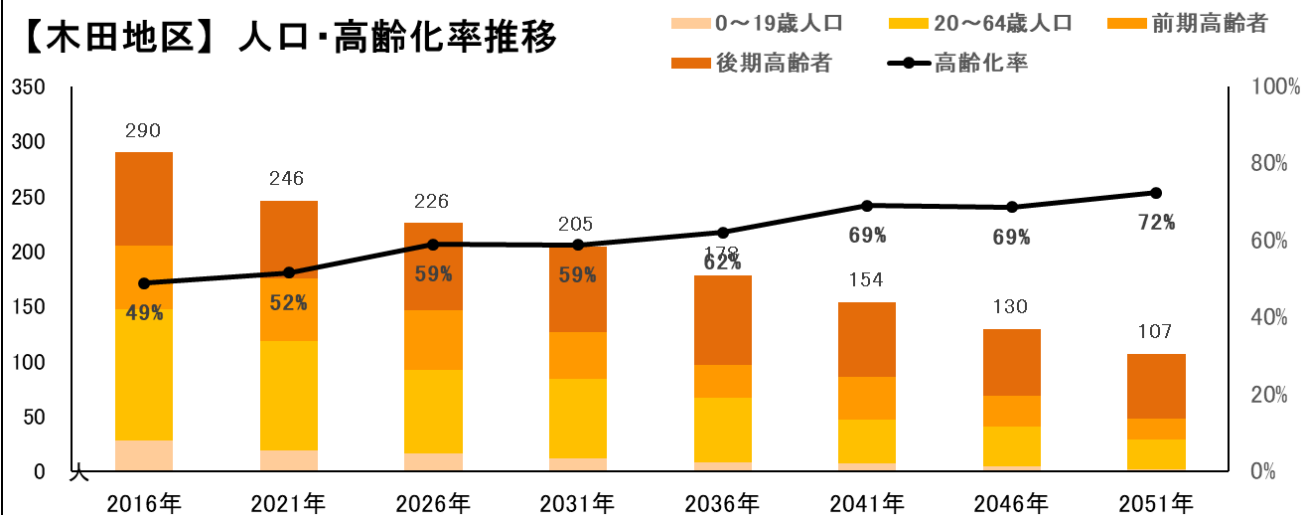
木田地区の強み

- ・昔から自治会が中心となり、地域での様々な活動に対して役割分担がされている。
- ・奉仕作業などは多くの住民が積極的に参加する。
- ・地域愛のある人が多い。
- ・住民のまとまりがある。
- ・他人と積極的に関わろうとする人が多い。

木田地区の課題

- ・継続していく事業の中で深刻な人手不足がこころ。一部の人が負担を抱える事のないように、団体や若い世代と現状や課題を共有する必要がある。
- ・住民がやりがいを感じることでできる心も体も健康な地域づくりを行う。
- ・地域に対するプライドを育み、伝統の継承を行っていく。

【木田地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

木田まちづくりセンターの新たな取組

事業名

住民の参画による地域づくり『包丁研ぎ講習』

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 地域住民の「やりたい」「やって欲しい」の声を聞き、ニーズに合った事業を行う。
- 活動に興味とやりがいを感じ、継続できる事業を行う。
- 「助け合う」住民同士の新たな繋がりをつくる。

D

事業の概要

開催日：令和3年8月24日（火）
場 所：木田生活改善センター
参加者：6名
講 師：2名（センター運営推進委員）
内 容：猟師と大工職人による講習会。
砥石の見分け方や研ぎ方の基本を教えてください。
包丁を研ぐ人、研いで欲しい人が集まった。



C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	○								

上記評価の理由

- 参加者が、期待していた人数より少なかったため。
- まだ一度しか行っていない事業のため、その成果がどれだけ課題解決に反映されているか検証できないため。
すぐに結果はでないが、今後、様々な取組を行っていくことによって、10に近づいていくことを期待している。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- しっかり住民の声を聞きながら、住民が興味を持てる事業を行う。また、多くの人が参加しやすい日程を設定する。
- 「包丁研ぎ」に限らず、住民の要望を取り入れた事業を行う。講師についても各団体などの協力を仰ぎ、「できる人」を増やす・育てる。併せて、若い世代の助け合う心を育み、30年以上前から行っているとんど焼きのように住民が主となり継続できる事業を展開する。



和田地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 476人
 (2)世帯数 243世帯
 (3)面積 21.78km²
 (4)高齢化率 54.20%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 ☒スーパー □コンビニ
☒ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
 □その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：和田まちづくり推進委員会

設立年月日：平成22年4月25日

構成団体：各地区団体(自治会、地区社協、若者会、神楽社中)、行政連絡員等

主な活動：毎月定例総務企画部会議、情報発信(広報誌・HP・インスタ)、奉仕作業(年3回)、地域親睦グランドゴルフ大会、和田地区民運動会、敬老事業、健康ウォーキング等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☐その他()

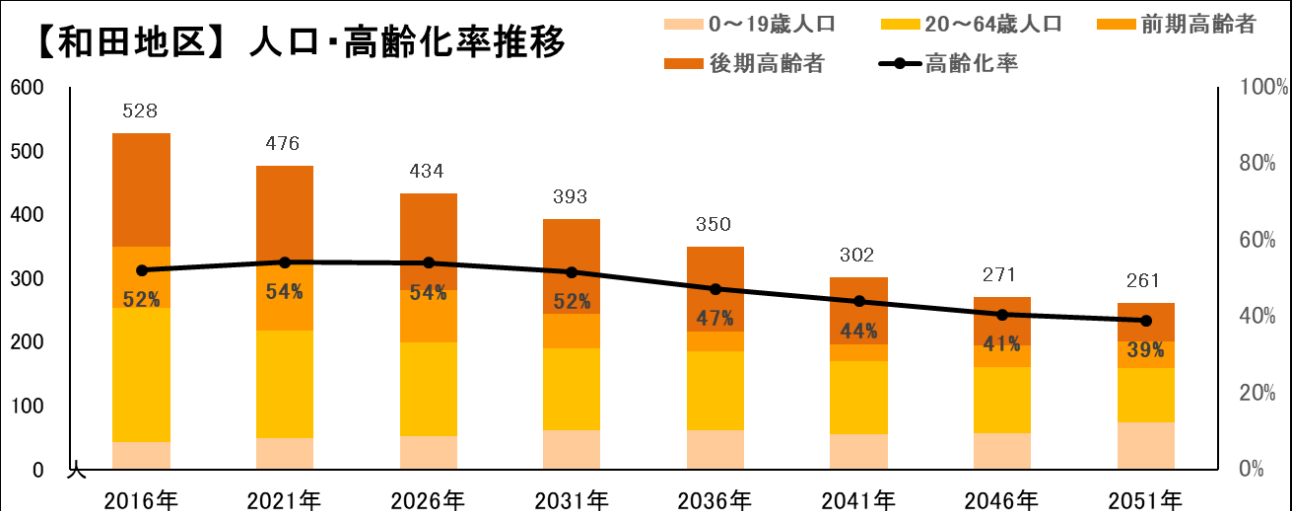
和田地区の強み

- 自治会制度が確立しているので、まちづくり推進委員会の活動が地域の協力を得やすい。
- 自治会が4つの地域に分かれている為、小規模単位での話し合いや活動がしやすい。
- 行政OBが地域活動に参画している。

和田地区の課題

- いつも同じ人が役員をしている状況になっている。
- 高齢者の独居生活者が増えている
- 農業や環境保全など後継者不足のため、荒れてくる。

【和田地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

和田まちづくりセンターの新たな取組

事業名

耕作放棄地対策事業

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 公民館時代に、県のプラットフォーム事業を活用し、和田地区の有志の地域住民を対象にワークショップを行った。その際、「和田地区で気になっていることは何か」という質問したところ、地域住民から「農地の荒廃が課題である」という意見が多く出たため、耕作放棄地を少なくする事に取り組むこととした。
- 地域に増えてきた耕作放棄地を減らすことで、環境保全、環境美化に繋がることが見込まれる。

D

事業の概要

- 平成 30 年に地域の課題を考える「和田の未来を考える会（通称和の会）」を設立
- 今年度は「和田まちづくり推進委員会」と、地域の課題を共有し、連携しながら耕作放棄地対策に取り組むこととした。
- 毎月定例の総務企画部会において、和田地区の農地に関する状況等を把握するためにアンケートを実施することとした。農家・非農家に拘わらず地域住民全体を対象に、所有する農地の現状や農地に関する意識等を尋ねる内容のアンケートを作成し、7 月に地区全域に配布した。
- 11 月にアンケート結果を地区全域に配布、報告した。（今後は、まちづくり推進委員会とアンケート結果をふまえて活動計画を協議し、協働していきたい。）

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

	○									
--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

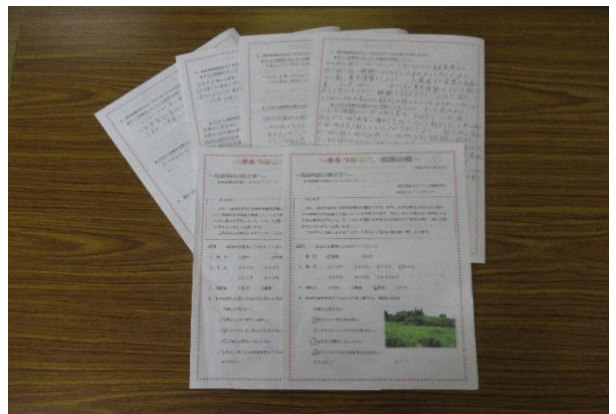
上記評価の理由

- アンケート回収率 30.7%（60/195）と関心度の低さを感じる。
- 地域全体で耕作放棄地が増えている状況を認識し、当事者意識を高めていく必要がある。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- アンケート結果を、総務企画部会で協議し、短期・中期・長期計画目標を立てて、すぐ取り組めるものから活動する。



都川地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 218人
(2)世帯数 121戸
(3)面積 36.25km²
(4)高齢化率 71.56%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
□中学校 □高等学校 □専門学校・大学
□図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
☑ガソリンスタンド □公園 ☑広場・体育館
☑その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：都川地区まちづくり推進委員会

設立年月日：平成23年5月30日

構成団体：自治会、まごころ福祉協議会、その他各種団体

主な活動：交流神楽 in 都川、盆踊り、地区民運動会、敬老会、防災講習会
ふれあいやまびこ祭り

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☑事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
□その他()

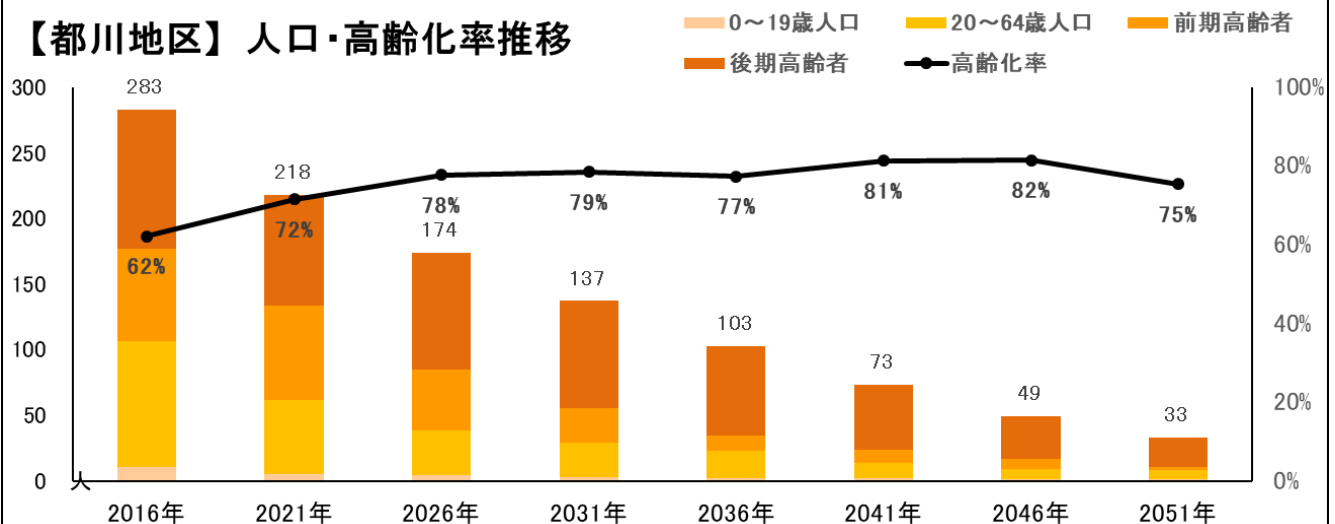
都川地区の強み

- ・高齢化率が高いにもかかわらず、毎年河川清掃(ヨシ刈り)や市道の草刈りに協力していただいている。
- ・各地区で実施しているサロンへの参加率が高い。

都川地区の課題

- ・市内で最も高齢化率の高い地区である。
- ・高齢化が進む中、農業の後継者がおらず、その対策を摸索中。
- ・店舗の無い地区となり、日常生活に必要な食料などの買い出しや、娯楽を含めた「買い物ツアー」などの充実が不可欠。

【都川地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

都川まちづくりセンターの新たな取組

事業名

広報誌の紙面拡大と内容の拡充

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 都川の行事やまちづくり団体活動、センターサークル活動・地区の出来事等の様子を広報誌にたくさん載せることにより、地域に興味を持ってもらい、行事への参加者を増やし、地域の活性化を図る。
- 地域への要望や意見を募集し掲載することにより、地域の課題、解決の一助を担う。

D

事業の概要

- A4 用紙から、A3 用紙に変更し、情報掲載量を増やす。
- 1 か月の行事予定表を掲載し、センターの活動を知ってもらおうと共に利用の促進を図る。
- 都川の出来事や、行事、お知らせなどを紹介する。
- 写真やイラスト掲載を増やし、様子が分かりやすく伝わるようにする。
- 「読んでみようかな」と思える記事づくり、見出しにする。
- 両面印刷のため、裏の印刷が表に映り、記事が見えにくくなるので、紙の厚さを変える。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
				○					

上記評価の理由

「広報誌読んだよ！」と、声をかけてもらい、行事予定を見て行ってみようかな、やってみようかなと思う気持ちを持ってもらえ、行事への参加者が増えた。しめ飾り教室は昨年 5 人から今年度 10 人に増えた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- 地域の方の声をより多く聴き、広報誌に反映する。
- 活動に参加し、意見を直接聞くことにより、具体的な記事を書く。
- 同じような記事にならない様、変化を意識し、読みやすい広報誌にしたり、行事終了後の振り返りの内容を掲載し次の活動に活かしたりする。



市木地区の概要

概要(令和3年12月現在)

- (1)人 □ 233人
 (2)世帯数 126世帯
 (3)面積 33.63km²
 (4)高齢化率 58.37%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
☒ガソリンスタンド □公園 ☒広場・体育館
 □その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：市木地区まちづくり推進委員会(令和4年4月1日名称変更予定)

設立年月日 平成23年3月26日

構成団体 市木自治会、地区社協、高齢者クラブ、神楽団、芸能保存会等

主な活動 地域美化作業、ゴミステーション維持管理、防犯灯維持管理

ほたる祭り、川魚を味わう会、敬老会、体育大会、健康ウォーキング

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
 □その他()

市木地区の強み

・高齢者の交通手段の問題、買い物等不便と感じるものは多々あると思えるが、声としては出てこない。「昔と比べれば」の思いが強く、不便という環境を当たり前として捉えているものと思われる。

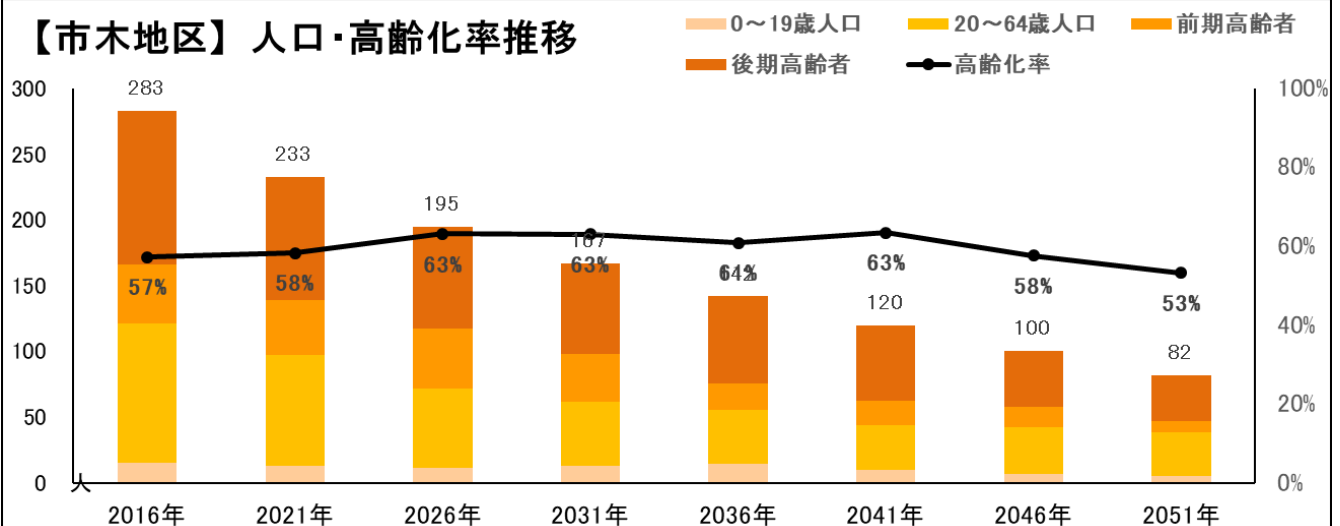
市木地区の課題

・集落、地域の維持

極度の高齢化、世帯減により集落維持(地域維持)が困難になりつつある。

協働による維持活動が困難になる中、集落の景観保全、耕作放棄地の管理等解決の難しい課題がある。

【市木地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

市木まちづくりセンターの新たな取組

事業名

ほたる鑑賞路整備 観光交流事業(ほたる鑑賞)

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地域の財産である市木川に乱舞する「ほたる」を多くの方に鑑賞していただきたく、まちづくり推進委員会主催で「ほたる祭り」を開催してきたが、新型コロナの影響により2年続けて中止となった。今後も多くの人に見学、鑑賞してほしいという思いから、鑑賞路の整備を実施した。これにより地域の魅力発信と、地域資源の再認識、ふるさとへの愛着醸成を図る。

D

事業の概要

- 鑑賞路 300m(河川管理道)と鑑賞スポットの除草作業。
- 桃太郎旗、誘導灯の設置。
- マスメディアを活用してのPR(山陰中央新報、リビエール、いわみケーブルビジョン、浜田市観光協会、広報はまだ 等)
- 実施期間：令和3年6月10日から6月30日まで 参加者：推計約500名。
- ※平成8年にほたる増殖研究会が発足し、地域資源であるほたるの人工孵化に取り組んできた。また、生息環境の整備として河川除草を行うなど、地域全体で事業を展開している。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

上記評価の理由

- マスメディアを活用することで広く広報できたことに併せ、参加者数が増加し、事業の活性化につながった。
- ほたるの飛翔も多く、天候にも恵まれ、多くの見学者があった。リピーターが多い。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ほたるの飛翔、乱舞を見学できる場所を提供できることを「おもてなし」と心得、無理はせず長続き出来るように工夫する。
- 長期間、夜間の事業であることから、人員の配置は行わず、マスメディアを最大限活用しての広報。



安城地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 674人
 (2)世帯数 371世帯
 (3)面積 76.28km²
 (4)高齢化率 52.08%

主な施設

- ☒市役所(支所含む) ☒幼・保育園 ☒小学校
☐中学校 ☐高等学校 ☐専門学校・大学
☐図書館 ☐病院 ☒スーパー ☐コンビニ
☒ガソリンスタンド ☐公園 ☒広場・体育館
☒その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：弥栄のみらい創造会議

設立年月日：令和3年4月16日

構成団体：自治会長会、社協弥栄支所、弥栄町体育協会、弥栄福祉会、弥栄女性の会
 石央商工会弥栄支所、弥栄野菜生産者協議会 等

主な活動：毎月第3日曜日 朝市実施、防災研修会の開催、各自治会への支援 等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 ☐関係団体との連絡及び調整役 ☐特になし
☐その他()

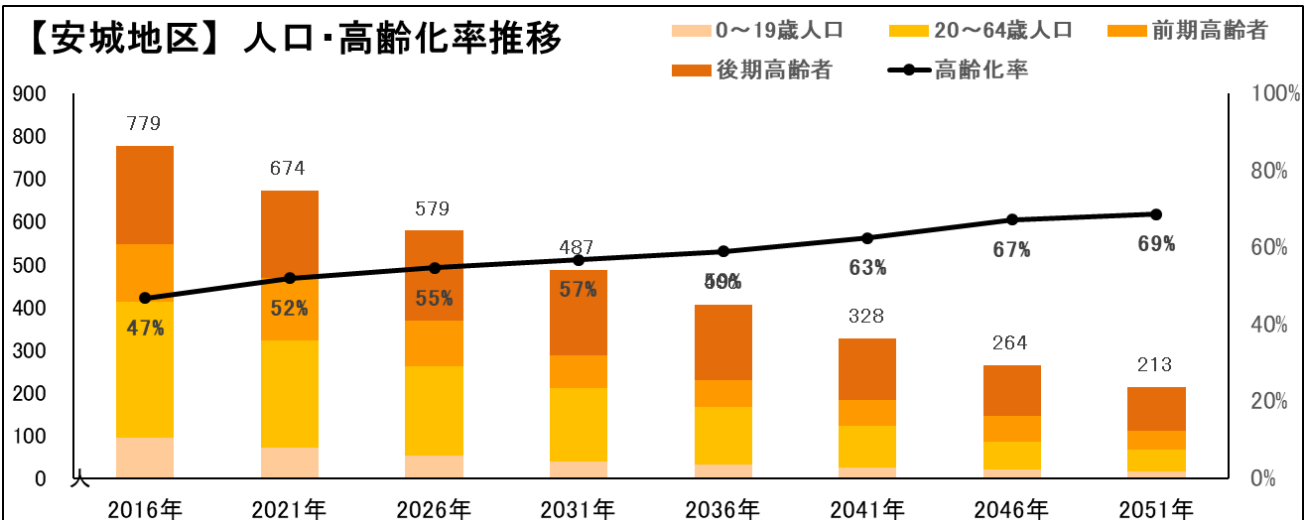
安城地区の強み

- ・昔から安城・杵束それぞれの地区ではまとまりが強かったが、近年弥栄地域としてまとまりつつあり、ふるさと祭り・産業まつり等、盛会に行われている。
- ・各種事業を実施するにあたって、人口規模が適当であり、防災無線等で周知しやすい。

安城地区の課題

- ・高齢者宅が中心部の施設から離れている家が多く、移動手段が課題。
- ・上記課題により、センター事業などに参加したくてもできないという声を多く聞く。

【安城地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

安城まちづくりセンターの新たな取組

事業名

弥栄のみらい創造会議 長期目標・情報発信計画策定事業（課題解決事業）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

令和3年度に従来2組織あったまちづくり委員会を統合して「弥栄のみらい創造会議」を設立した。町内の多くの団体から委員を選出しており、住民の大方の総意を得られる組織となった。今後、年度別の事業を計画するうえで、一貫性と継続性を持たせるための基本指針を示すものである。

D

事業の概要

令和3年8月より、弥栄のみらい創造会議の4部会から8名の委員、事務局、支所、CN合わせて14名程度で、長期計画、情報発信の2課題について毎月1回プロジェクト会議と称して実施している。プロのデザイナーを講師に委託し、他市の計画や小中学生や全住民を対象に実施したアンケートの意見を参考にして、地域交通、交流、防災、環境、教育、福祉、更に産業、体験村再開等様々な課題について構想を練り、年度末に成案をまとめることにしている。専門の講師が指導することで各委員に目指す将来像がまとまりつつある。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

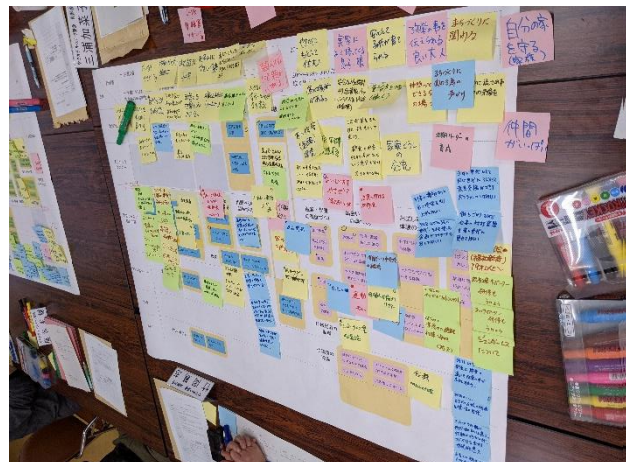
会議は順調に進み、目標はまとまりつつあるが、一番の課題はまだまだ多くいる無関心者をどう取り込むかにある。評価はこれからである。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

この事業は今年度で完結するが、令和4年度からは各部会において、目標達成のため順次事業計画を立て実施していく。

まちづくりセンターと弥栄のみらい創造会議は一体のものである。今後、地区社協、JA等地元の企業と協賛できるような取組を進めていきたい。



杵束地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 513人
 (2)世帯数 285世帯
 (3)面積 29.48km²
 (4)高齢化率 50.49%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 □小学校
☒ 中学校 □高等学校 □専門学校・大学
☒ 図書館 ☒ 病院 □スーパー □コンビニ
 □ガソリンスタンド □公園 ☒ 広場・体育館
☒ その他 ()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：弥栄のみらい創造会議

設立年月日：令和3年4月16日

構成団体：自治会長会、社協弥栄支所、弥栄町体育協会、弥栄福祉会、弥栄女性の会
 石央商工会弥栄支所、弥栄野菜生産者協議会 等

主な活動：毎月第3日曜日 朝市実施、防災研修会の開催、各自治会への支援 等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒ 事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☐ その他 ()

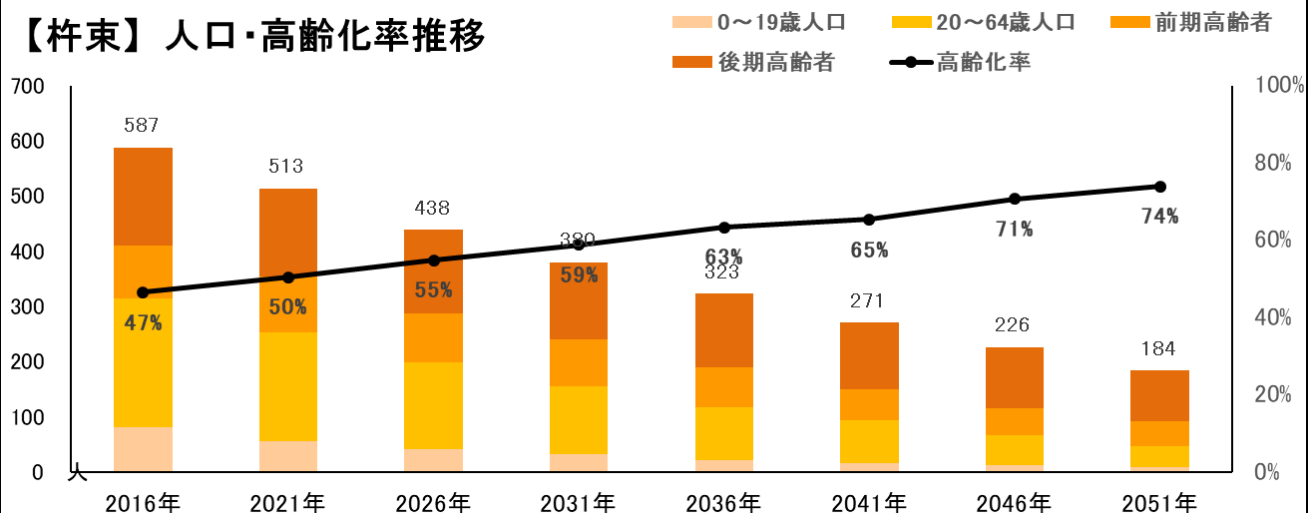
杵束地区の強み

- ・杵束地区人口の約9割をカバーするエリアに主な施設が集約されている。
- ・県道浜田美都線が地区の中心を南北に走っており、自家用車及び公共交通機関が利用できる場合は、地区内及び浜田市内との往来が容易。

杵束地区の課題

- ・地区の周辺部は、中心部と比較しても、人口減少・高齢化の進行が著しく、交通手段が不足し、地区中心部（診療所、食品店など）や浜田市内等との往来に支障をきたしている。
- ・食品店が今後何年先まで維持できるか不透明。
- ・集落維持が困難である。

【杵束】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

杵束まちづくりセンターの新たな取組

事業名

放課後子ども教室(マジスクール)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

○事業の目的

杵束地区の子ども達に、地区内に学習スペースや放課後の居場所を設けることで、子ども達が安心して過ごすことができる。

○見込まれる成果

学習意欲の向上、礼儀を学ぶ、多世代・他学年とのコミュニケーションがとれる、保護者の送迎の負担を軽減する。まちづくりセンター施設周辺に活気をもたらし、地域住民(講師・見守りボランティア)と顔見知りになる。

D

事業の概要

ターゲット：弥栄小学生・弥栄中学生 ※現時点では弥栄小学生 12名の参加

毎週月曜日15時～17時(放課後) 場所：杵束まちづくりセンター

講師・見守りボランティアは地域住民や杵束まちづくりセンター職員が担う。

宿題を行い、その後、用意したプリント2枚をする。

終わり次第、自由時間。帰宅する子、遊ぶ子や引き続き勉強する子など様々。

○工夫した点、成果、課題、改善点等

・机の配置など試行錯誤しながら、子ども達が集中して勉強に取り組める環境を整えた。

遊ぶ場が少ない為、喧嘩が起こることも多々。しかし、状況を見ながら高学年は優しく声を掛けることもある。

・参加する子どもの人数に対して、講師・見守りボランティアの人数が足りていないため、増やす必要がある。

・課題・改善点について、講師との話し合いの時間をもった。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

上記評価の理由

杵束地区の小学生の学習スペースや居場所づくりになっている。中学生も対象であるが、参加が無い。手探り状態で始めたため、運営についてのルールや講師の確保が不十分。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

○しっかりとしたルール作り。

(決まり事や時間など)

○夏休みや冬休みの長期休みには学習に楽しい事をプラスする。

○講師、見守りボランティアを増やす。

(弥栄のみらい創造会議委員に担ってもらうことも要検討。)

○地域の協力を得ながら、子ども達の見守りを行う。



岡見地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 1,181人
 (2)世帯数 603世帯
 (3)面積 13.61km²
 (4)高齢化率 41.24%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒幼・保育園 ☒小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 ☒病院 □スーパー □コンビニ
☒ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
☒その他(火力発電所)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：岡見地区まちづくり推進委員会

設立年月日：平成21年3月22日

構成団体：岡見自治振興会、岡見地域福祉推進協議会、
 岡見まちづくりセンター運営推進委員会 等

主な活動：各自治会、各団体への支援、買い物支援事業「わくわくマーケット」実施
 (毎水曜日)、防犯防災活動 他

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☐その他()

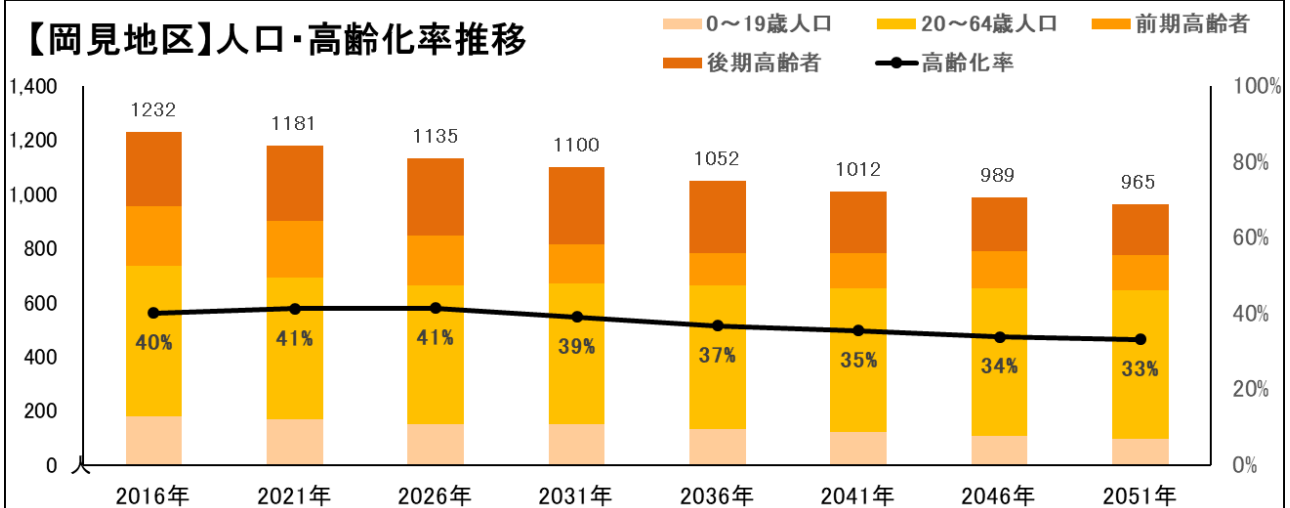
岡見地区の強み

- ・地域と小学校が強いつながりを持ち、ふるさと郷育事業など通じて活気ある地域づくりにつなげられる。
- ・高齢者が地域活動を積極的に行い、岡見地区をまとめている。

岡見地区の課題

- ・独居高齢者や高齢者世帯の増加に加え、地区内に商店が無いため、日々の買い物等に困り、将来に不安を持つ人が多い。
- ・最近はイノシシなどが住宅地まで出没し、田畑や庭が荒らされる他、登下校時などに危険を感じるとの声もある。
- ・まちづくり役員等の担い手不足。関心がない？仕事？当事者意識が薄い？

【岡見地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

岡見まちづくりセンターの新たな取組

事業名

「おかみかるた」を活用した地域づくり

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

「おかみかるた」を通して、岡見の歴史や言伝えなどを次世代に伝えたり、名所、旧跡を再確認したりすることで、ふるさとへの理解と愛着を深め、誇りを持てるようにする。

また、かるた会などを地域や学校で行うことで、大人と子ども、住民同士のコミュニケーションを図り、地域づくりにつなげる。

D

事業の概要

令和2年2月、岡見地域の〈人・物・事〉の素晴らしさや、残しておきたい岡見の風景、伝統、歴史などがたくさん詰まった「おかみかるた」が完成した。平成28年度に公民館事業（生涯学習セミナー）としてかるた作りを計画。地域住民から読み札を募集し、岡見地区生涯学習地域推進委員と共に5年がかりで製作にあたった。

今年度、センター事業として「かるた大会」を開催予定だったが、コロナ禍で実施できなかった。しかし、学校や地域に配布した物で、授業や自治会活動などで活用してもらっている。そして、冬休み中に児童クラブを対象に初めてかるた会を行い好評だった。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○		
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

子どもから大人まで、ふるさとの魅力を改めて知る機会につながった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

地域を巻き込んだ「かるた大会」や、かるたの場所を巡るウォーキングなどを、まちづくり委員会と連携して実施していきたい。



三保地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 1,642人
- (2)世帯数 804世帯
- (3)面積 6.86km²
- (4)高齢化率 43.79%

主な施設

- 市役所(支所含む) ☒ 幼・保育園 ☒ 小学校
- ☒ 中学校 □高等学校 ☒ 専門学校・大学
- ☒ 図書館 □病院 ☒ スーパー □コンビニ
- ガソリンスタンド ☒ 公園 ☒ 広場・体育館
- ☒ その他(和紙会館、美術館、キャンプ場)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：三保地区まちづくり推進委員会

設立年月日：平成22年2月24日

構成団体：自治会等

主な活動：三保地区海岸一斉清掃、石州和紙灯ろうまつり、各自治会への支援

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒ 事務局機能
- ☐ 関係団体との連絡及び調整役
- ☐ 特になし
- ☐ その他()

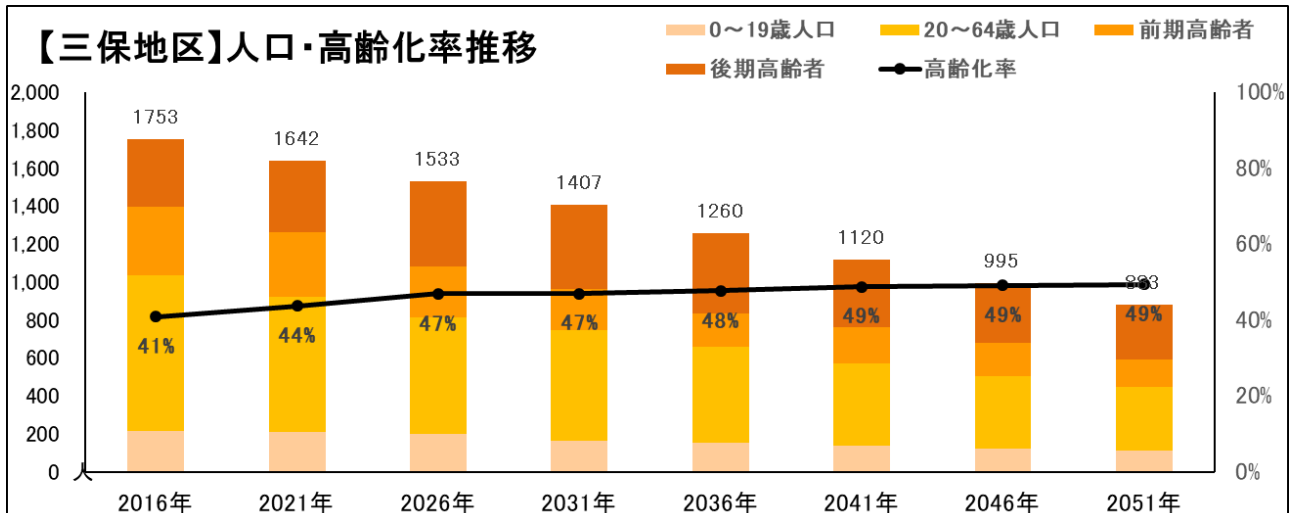
三保地区の強み

三保地区は平成21年にユネスコ無形文化遺産に登録された石州半紙、平成元年に経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」の石州和紙の工房がある唯一の地区である。また、小中専門学校等の教育文化施設もあり、海、山、川の自然も豊かな調和の取れたエリアである。住民の心も豊かで、各種イベントへも積極的な参加をしており、活動中は笑顔が絶えない。

三保地区の課題

他地区同様、少子高齢化に歯止めがかからず、耕作放棄地や空き家も増加している。また、交通網が十分ではない上に、高齢化による足腰の衰えにより買い物や病院への移動にタクシーを利用する場合があります。さらに、経済的な負担がかかっている。さらに、独居世帯も増加しているため、住民相互の協力が欠かせなくなっている。

【三保地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

三保まちづくりセンターの新たな取組

事業名 **三保の豊かな自然で 防災デイキャンプ！ 子どもも大人もつながろう！**

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

以前、三隅地域には子ども会連絡協議会主催のジュニアリーダー研修で小学校高学年はキャンプを通して、自立、協調性、自然への敬意、リーダー性等を学んでいた。協議会が解散したのちは子供会単独事業が難しくなった。そこで、まちづくり委員会等と連携し近年多発している自然の脅威に備えるため防災を意識したデイキャンプを計画。キャンプを通し、三保地区の豊かな自然に愛着を深めるとともに、生きる力の向上につなげ、防災を意識した取組により、子どもも大人も含めた地域住民同士の交流、絆が深まり、有事の時の助け合い、つながりのある持続可能な地域づくりへの機運の醸成を期待する。

D 事業の概要

日時：令和3年7月22日（木）（祝：海の日） 8:30～16:00 参加人数：77名

会場：田ノ浦海岸、B&G 海洋センター体育館・研修室、田ノ浦公園オートキャンプ場

共催：三保地区まちづくり推進委員会、浜田市社会福祉協議会三隅支所

協力：浜田市消防本部西部消防署、B&G 海洋センター、浜田市三隅支所防災自治課

内容：午前①カヌー体験、水難事故防止講習（B&G 海洋センター）

②防災グッズ制作（まちづくりCD、委員会）炊出し訓練（社協）火起こし（委員会）

午後③応急処置講習（消防）④ロープワーク（消防）⑤避難所体験（防災自治課）

対象：小学生及び親子を中心とした三保地区住民（委員会スタッフは役割を担いつつ参加者）

☆コロナ過での開催ということで午前の事業①②は選択制にし、午後の③④⑤は参加者を3グループに分けて密にならないようにローテーション制にして全て体験できるようにした。成果として、災害時の動きなどイメージ出来た。しかし保護者世代の参加が少なかったことが今後の課題。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

コロナ禍で感染対策を十分に行い約80名の事業が出来た。事業後のアンケートから災害時自分が何をしたらいいか、何ができるか考えることができた。今後もこの事業を継続する必要がある。子どもだけでなく大人もいい体験ができた。次回も参加したいとの意見が多かった。ケガや熱中症等の体調不良者が無く終了した。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

中・高生、大学生等、保護者世代の参加を促す必要がある。多世代の交流が必要。多様な家族構成から親子参加を前提にすることは難しいので親世代、また、若者世代に計画段階から参画できる仕組みづくりが必要である。



白砂地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 263人
- (2)世帯数 118世帯
- (3)面積 9.30km²
- (4)高齢化率 40.68%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
- 中学校 □高等学校 □専門学校・大学
- 図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
- ガソリンスタンド □公園 □広場・体育館
- ☑その他(道の駅ゆうひパーク三隅)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：白砂まちづくり委員会

設立年月日：平成22年4月4日

構成団体：地区内4集落、地区人権同和推進委員会、地域福祉推進協議会、交通安全白砂分会、保健委員会、しらすなっ子倶楽部、消防団白砂分団等

主な活動：体育祭、敬老会、人づくり、元気な地域づくり、口腔ケア、各集落支援等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☑事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
- その他()

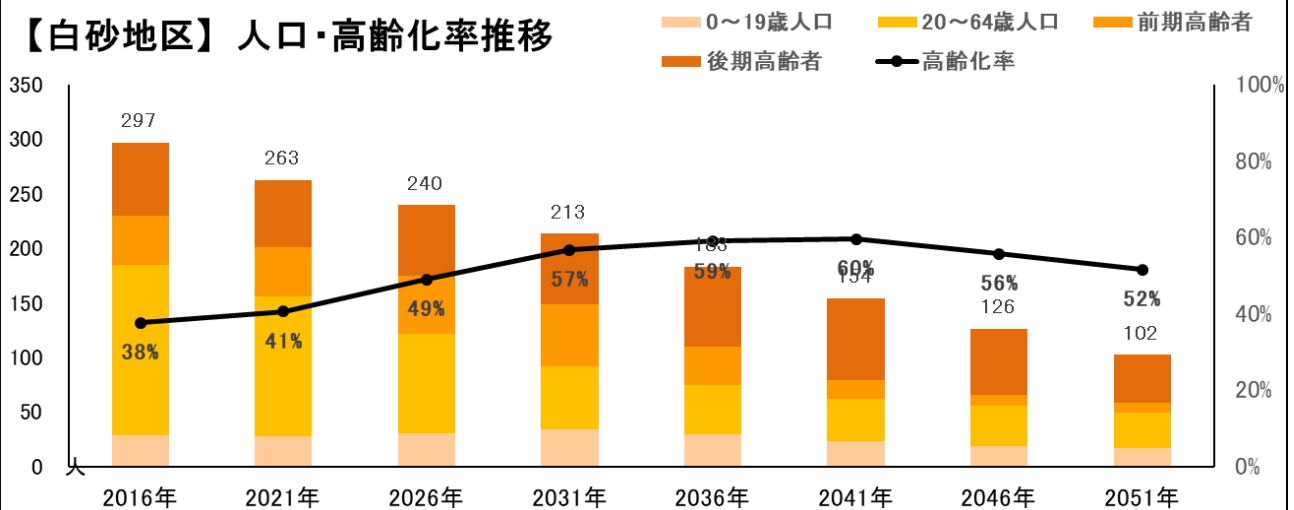
白砂地区の強み

- ・特産品西条柿を通じた事業展開
特産品を活用したふるさと郷育推進事業を展開することにより、地域の子どもに地域産品の魅力を伝えることができる。
- ・スピード感のある事業展開
自治会が無く4集落と地区内の各種団体でまちづくり委員会を構成し、スピーディーでまとまりのある事業が展開できる

白砂地区の課題

- ・有害鳥獣対策
地域内には、イノシシ、熊、ヌートリア、サル等の有害鳥獣が多発する。狩猟免許取得者はわずか2名で対応できていない。
特産品の西条柿は保護のためワイヤーメッシュで保護するものの根本的な鳥獣対策が必要。

【白砂地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

白砂まちづくりセンターの新たな取組

事業名

地域の子どもが地域を知る・学ぶ事業 2021 年度「キラキラ☆白砂の海」

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○事業の目的

地域の子どもたちが地域の大人と一緒に学ぶことで、自分たちの地域を知り、誇りを持つことができる。大人も、地域の子どもを知ることができる。

○見込まれる成果

- ・郷土愛を持つ子どもに育つ。
- ・地域との繋がりを持つことで連帯感が生まれる。

D

事業の概要

実施日時：7/31（土） 対象：白砂地域子供会 白砂っこ倶楽部 親子 23人

白砂地域の海「吉浦海岸」での事業。海岸清掃、海ヨガ、生き物探し、海遊びを行った。

海岸清掃では、砂浜に打ち上がったペットボトルやマイクロチップなどの海洋ゴミを拾い、ゴミ袋 3 袋分にもなった。子どもたちが現状を知ることにより、環境問題について考える機会となった。

海に入る前の準備体操として海ヨガを行った。二人一組で行い、親子や兄弟、友達と触れ合いながら楽しんで行うことができた。

生き物探しでは、しまね海洋館アクアスの職員 3 名と海に潜って、カワハギやタコ、ヒトデ、ウニなどを見つけた。箱眼鏡や網を使って捕まえることができた。実際に生き物を捕まえたり、説明を聞いたりすることはなかなかできないので、子どもも保護者もいい勉強の機会となった。

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

上記評価の理由

白砂地域は人口も少なく、子育てが終わると、地域の子ども達と接する機会が少なくなる。事業の中で交流することで、顔見知りが増え、子ども達が「親だけでなく、地域の大人たちに見守られて育つ安心感」を感じてくれるよう期待し、今後も継続していきたい。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

ふるさと郷育推進事業として行ったが、まちづくり委員会にも共催をお願いし、会長、教育振興部会長の協力を経て実施することができた。

今後は保護者や役員だけでなく、地域の様々な方と交流を持てるよう、広く声がけをして参加を呼び掛けたい。



三隅地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 1,775人
 (2)世帯数 850世帯
 (3)面積 19.86km²
 (4)高齢化率 38.14%

主な施設

- ☒市役所(支所含む) ☒幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 ☒病院 ☒スーパー ☒コンビニ
☒ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
 □その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：三隅地区まちづくり推進協議会

設立年月日：平成22年3月29日

構成団体：自治会、集落、消防団、地区福推協、生涯学習、地域協議会、食改
 子供会、民生児童委員、高齢者クラブ、地域担当職員、その他有志

主な活動：部門別に5つの部会にわかれて事業を企画、開催している。

ふれあいスポーツ交流会、つつじの郷事業、課題解決事業など全体で行っ
 ているものもある。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☒その他()

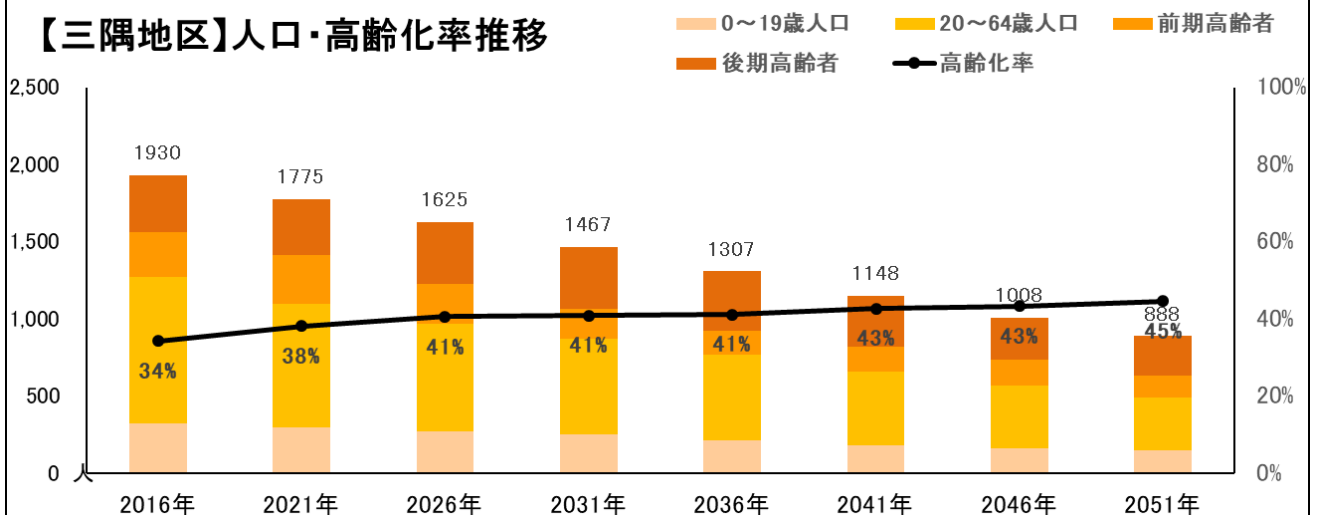
三隅地区の強み

- ・病院、スーパーなど生活に必要な施設が存在する。交通環境もある。
- ・自治会が機能しているので各自治会で自主防災組織も設立しており、敬老会など集落行事も行われている。

三隅地区の課題

- ・人材不足や次世代交代が上手くいかない状況から、自治会の役員決めや集落行事の開催が難しいと相談に来られることが増えた。高齢者クラブなど団体も減る傾向にある。また、まちづくり事業の参加者も固定化している。

【三隅地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

三隅まちづくりセンターの新たな取組

事業名

マナビィみすみ

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

三隅地区まちづくり推進計画の中の「夢を持ち三隅を愛する人を育むまちづくりの実現」を推進するため、三隅地区まちづくり推進協議会が主体となって事業を行う。

地域との関わりを通して三隅中学校生徒が郷土愛（ふるさと愛）と向上心（集中力、持続力、主体性、探究心、情熱）を身につける。また、家庭学習支援を行うことで学力アップを図る。

D

事業の概要

開催日：11/18・22、12/22

1/14・20・28

2/1・8・16・17・22・25

1/14～2/25

新型コロナウイルス感染拡大のため、中止

3/1（感染状況をみながら、実施の可否を判断）

時 間：16：00～17：30 又は 16：20～18：50

場 所：三隅中学校・三隅図書館

講 師：リハビリテーションカレッジ島根の学生（以下「リハカレ生」とする。）

対 象：三隅中学校生徒

内 容：リハカレ生を講師に三隅中学校生徒の家庭学習を支援する。

成 果：アンケートの感想から中学生もリハカレ生も人との関わりと学習に向き合えた時間になっていた。

課 題：事業の良さを保護者に知ってもらう。回数を増やす。参加者を増やす。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

上記評価の理由

アンケート調査を講師と参加生徒に行った。結果は全般的に好評だったが、中には、回数を増やして欲しいことやもっと周知をして欲しいとの意見があった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

○広報の仕方を工夫する

○参加しやすい環境をつくる

（送迎や予算の確保、開催場所）



黒沢地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 240人
- (2)世帯数 120世帯
- (3)面積 40.23km²
- (4)高齢化率 57.5%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
- 中学校 □高等学校 □専門学校・大学
- 図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
- ガソリンスタンド □公園 □広場・体育館
- ☑その他(コワ温泉)

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：黒沢まちづくり委員会

設立年月日：平成21年2月15日

構成団体：自治会、消防団、体育協会、PTA、民生児童委員、地元企業、保健委員等

主な活動：黒沢地域の機能を「総務企画」、「安全安心」、「健康福祉」、「産業振興」、「生涯学習」の5部会に分け、それぞれ活動をしている。役員会(会長および副会長、5部会の正副部会長、事務局)が、まちづくり運営の総括決定を行うほか、令和3年4月、公民館から行政移管した黒沢まちづくりセンターの社会教育の役割について運営審議を兼務し、社会教育とまちづくりの協働を推進する。

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☑事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
- その他()

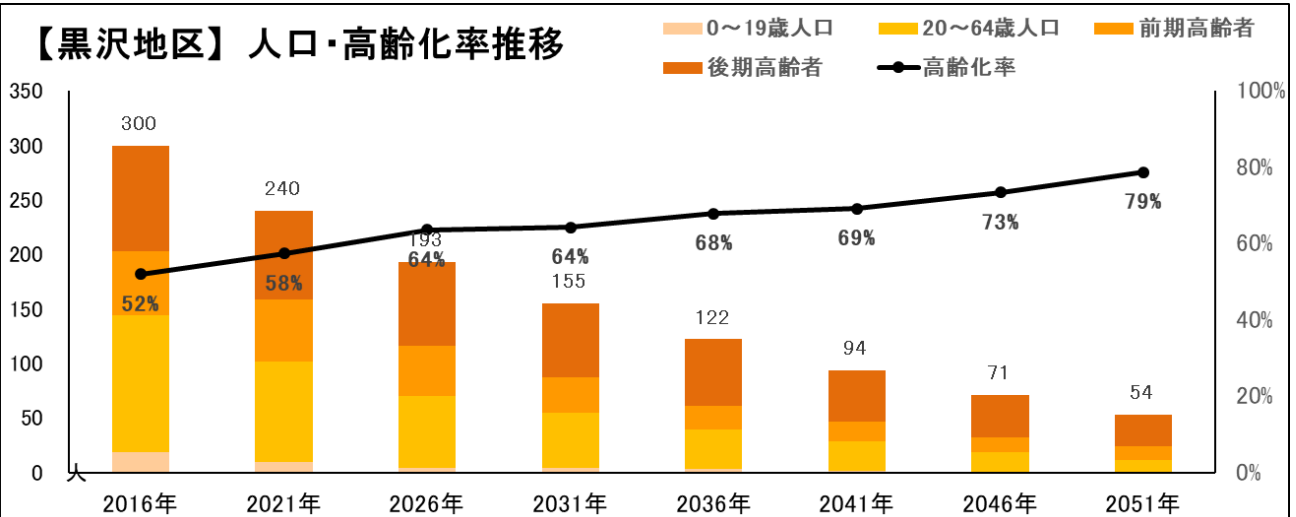
黒沢地区の強み

- ・地縁のつながりが現存し、協力的であること。古くからの行事等を重んじ、大切にしていること。
- ・中山間地域の強みを生かした事業を展開し、関係人口・交流人口の創出に努めている。
- ・食事作りが上手な人が多い。

黒沢地区の課題

- ・高齢化が進む中で既存の事業内容ができなくなっていて、内容の見直しが課題。
- ・子育て世代が少ないため、成人の事業に招待する事業内容が多い。家庭教育支援や地域に愛着を持つ事業を展開していくことが課題。
- ・配食サービス継続には作り手と配食担当の確保と後継者育成が課題。

【黒沢地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

黒沢まちづくりセンターの新たな取組

事業名

つながる関係人口づくり事業

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○事業の目的

黒沢地域の人たち。そして市外に暮らしながらここに思いを寄せたり関心を持ったりする人たちが一緒になって黒沢地区で生きること、黒沢地区に関わることを楽しく元気にしていくためにそれぞれのかかわり方を考えること。

○見込まれる成果

旧黒沢中学校・旧三隅南小学校拡大同窓会で得た、出身者のふる里への深い思いを更なるステップへとつなぎ、SNS による関係人口づくり・交流人口づくりの波及が地域に活力を促すこと。

D

事業の概要

- ① オンラインで全国にいる出身者や興味を持つ人との交流を図る。
会場には黒沢で活躍している人、出身者、応援団が集まり、全国にいる出身者や黒沢地域に興味を持つ人たちがオンラインで会話をを行う。
- ② 『黒沢 BOX』ピックアップと発送
オンラインの前に出身者の方に地元の野菜や直産物を盛り込んだ『黒沢 BOX』を送り、ふる里の魅力を広めるキーマンになってもらう。
- ③ 黒沢地域の『生発信！』
黒沢のひと・もの・ことをプチロケ風にインタビューしながらオンラインで地域を紹介。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

					○					
--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

上記評価の理由

- ① 令和3年度内閣府「関係人口創出モデル事業」の採択事業への協力だったため、センターおよびまちづくり委員会の純粋な企画運営力は半分とみなしている。
- ② だが、『黒沢 BOX』は、黒沢の地域住民の力で企画実施し、次への関係交流人口づくりにつながる反響を得るという成果を感じた。
- ③ 黒沢地域全般に本事業の事前広報ができていれば、もっと協力が得られていた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ① 出身者や地域外からは、故郷を懐かしく思い守ってほしい気持ちを話されるが、今この地で生活している地域住民の苦悩は大きい。双方の貴重な意見を理解しあうオンライン交流会を継続すること。
- ② 『黒沢 BOX』をまちづくり委員会の産業振興部会につなぎ、生産者・地域住民の協力体制を作る。
- ③ 高齢者の知恵や若者の考え方も視野に入れながら交流を増やし、『黒沢 BOX』の中身をさらに濃くしていく。



井野地区の概要

概要(令和3年4月現在)

- (1)人 □ 636人
 (2)世帯数 332世帯
 (3)面積 38.53km²
 (4)高齢化率 59.91%

主な施設

- 市役所(支所含む) □幼・保育園 □小学校
 □中学校 □高等学校 □専門学校・大学
 □図書館 □病院 □スーパー □コンビニ
 □ガソリンスタンド ☒公園 ☒広場・体育館
☒その他()

エリア内の地区まちづくり推進委員会の名称及び概要

名称：まちづくり推進委員会 INO

設立年月日：平成21年4月28日

構成団体：各自治会，井野地区福祉推進協議会，各活動団体（任意団体），
 井野地区高齢者クラブ，各集落協定，営農組合，伝統芸能団体(2団体)，
 民生児童委員，消防団井野分団 等

地区まちづくり推進委員会におけるまちづくりセンターの位置づけ

- ☒事務局機能 □関係団体との連絡及び調整役 □特になし
☐その他()

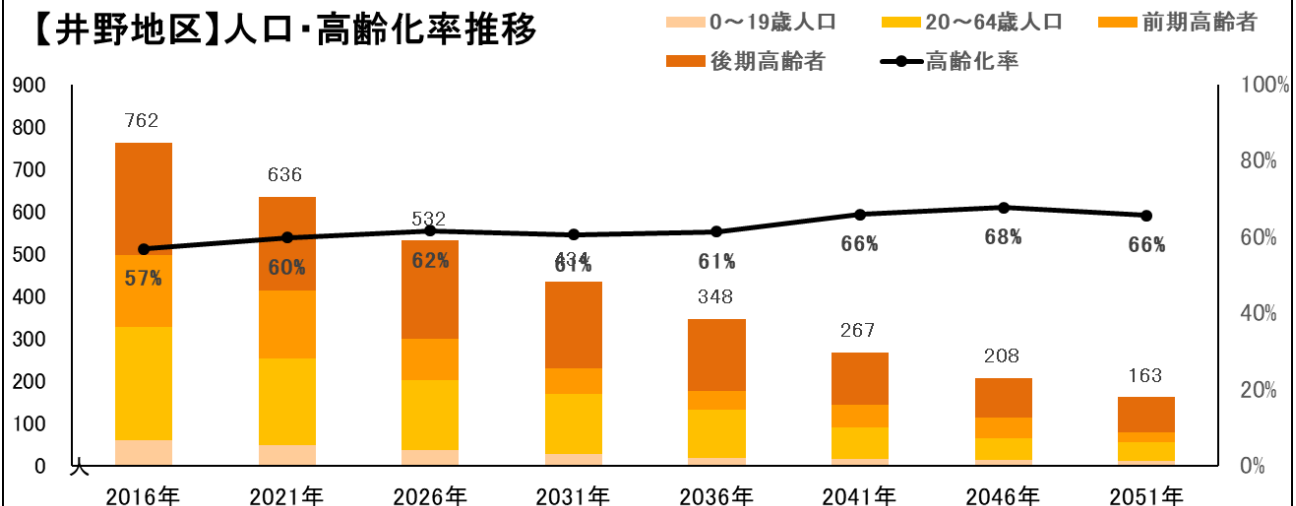
井野地区の強み

- ・地域住民同士の結びつきが強い。
 (団結力，連携，協働事業がやり易い)
- ・地域活性化への熱量が多い。
 (地域課題を解決しようとする意識の高さ)
- ・人が温かい。

井野地区の課題

- ・人口減少および少子高齢化。
- ・若者の地域事業への参画不足。

【井野地区】人口・高齢化率推移



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

井野まちづくりセンターの新たな取組

事業名

井野地区生活支援事業「いのまる広場」

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

○事業の目的

小売店に限られる地区に移動販売車が出向き、安定した食の提供機会を確保すると共に、地区住民の交流の場や見守り体制を整備することで地域ケアシステムの構築を図る。

○見込まれる成果

身近な場所で買い物を楽しむことができ、食の提供機会を安定的に設けることで高齢者の低栄養リスクを防ぎ、バランスの取れた食生活につなげることが出来る。また、交流の場を持つことで生きがいを感じたり孤立を防いだりすることができ、見守りや安否確認を容易に行うことができる。

D

事業の概要

- ①プレ事業を4/27(火)に開催。その後、浜田市社会福祉協議会、まちづくりコーディネーター、クローバー(移動販売車)との協議により、毎月第一火曜日(年始を除く)に「いのまるマーケット」(令和3年11月より「いのまる広場」に改名)を開催する運びとなった。
- ②クローバー(移動販売車)の都合により、12月の開催をもって移動販売車は休止。地元商店の協力を得て、現在買い物支援を行っている。
- ③サロン要素や生涯学習教室の発表の場を設けるなど、工夫しながら継続している。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

		○								
--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

上記評価の理由

新規事業のため試行錯誤しながら運営したが、地域住民への周知不足による参加者不足および固定化が早くも課題となっている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

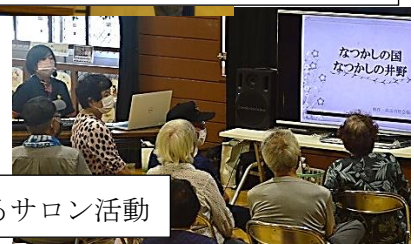
- ①目的に向けての連携・協働団体との綿密な協議
- ②地域住民への周知方法の検討
- ③運営ボランティアの人材育成
- ④井野っ地号の利用促進(買い物支援のための無料送迎等の検討)



看護師資格者による血圧チェック
および健康相談



地元商店出店による買い物支援



回想法によるサロン活動



令和3年度 海洋教育・自然体験推進事業

浜田市内 小学校（16校）

特色ある実践事例集



浜田市教育委員会 学校教育課

<浜田市内小学校16校の実践一覧>

学校	学年	教科等	学習・活動の名称	関係機関・団体等	頁
原井小	4	総合	浜田の魅力を伝えよう	渚の交番 be	2
雲雀丘小	4	総合	見つめ直そう 浜田の海	渚の交番 be	3
松原小	5	総合	浜田の海に親しもう	浜田市三隅B&G 海洋センター	4
石見小	特支	自立活動	花を育てよう		5
美川小	4	総合	「ふるさと美川」を守ろう！	しまね海洋館アクアス 美川まちづくりセンター	6
周布小	4	総合	川・海探検隊	浜田市三隅B&G 海洋センター	7
長浜小	5	総合	海に関する仕事を調べよう	境港湾・空港整備事務所、海上保安庁、浜田税関、浜田港運	8
国府小	4	総合	こくふっこ環境調査隊 ふるさとの海を守ろう	しまね海洋館アクアス、浜田市役所環境課、渚の交番 be	9
三階小	5	総合	浜田市の水産業について調べよう	島根県水産技術センター 渚の交番 be	10
雲城小	5	総合	藻塩づくり体験	浜田の海で生活する会	11
今福小	3・4	総合	海辺の生き物調べをしよう	しまね海洋館アクアス	12
波佐小	全校	体育	スキー教室	金城スキー山岳会	13
旭小	1	生活	海の落とし物を見つけよう	しまね海洋館アクアス	14
弥栄小	5・6	総合	地域の良さを知ろう	渚の交番 be	15
三隅小	4	総合	ふるさと三隅の環境について考えよう	三保まちづくりセンター	16
岡見小	6	総合	海から岡見を見つめよう	岡見まちづくりセンター しまね海洋館アクアス、渡船	17

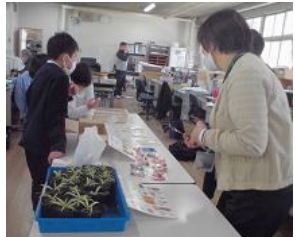
※ 総合：総合的な学習の時間

※ 特支：特別支援学級

学校名		浜田市立原井小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	浜田の魅力を伝えよう
めあて・目標		魚釣り体験や海遊び体験を通して、浜田の海の魅力を発見する。
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
○9月28日（火） おばせの浜 渚の交番beの田畑さんの指導のもと、ライフジャケットの着用の仕方や、ニッパーボードの使い方を学習し、実際に海で遊ぶことで、浜田の海の魅力を知る。 ○10月21日（木）瀬戸ケ島海岸 2人1組のペアになって釣り体験をし、浜田の海にいる魚の種類を知ったり、釣りの楽しさを知ることで海に親しみをもったりする。		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
事前学習として、浜田の海の魅力を予想したり、インターネットや図書資料を使って調べたりすることで、児童の興味関心を高め、意欲をもって体験活動に取り組むことができるようにした。 また、活動の中で、講師の方から、浜田の海にかかわる仕事の内容やその魅力について話をしてもらい、浜田の海の良さを改めて知ったり感じたりすることができるようにした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
今回の学習を通して、知ったことや分かったこと、気付いたこと、考えたことなどをグループでまとめ、保護者や地域の方に伝えたいという思いをもった。そこで、表現の仕方や伝え方等を工夫して、学習発表会で発信した。発表会後の振り返りでは、「今まで自分は浜田の魅力を知っていると思っていたが、今回の体験活動を通して、自分の知らなかった浜田の海の魅力を知ることができた。」「今回知った浜田の魅力を、おうちの人だけではなく、たくさんの人々に伝えていきたい。」という思いや願いをもった。		

学校名		浜田市立雲雀丘小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	見つめ直そう 浜田の海
めあて・目標		浜田の海でできることを調べたり、実際に体験したりすることを通して、浜田の海に対する愛着や大切にしていこうという気持ちを育てる。
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
○10月5日（火） 渚の交番beからすぐの波止場で、二人一組による魚釣り体験を行った。釣った魚の名前を教えていただき、浜田の海にどんな魚がいるのか興味を持ったり、釣りの楽しさを知ったりして海への親しみを持つことができた。 ○10月11日（月） 渚の交番beで浜田の特産品として販売していることなどの話も伺いながら、手間のかかる塩づくりの工程を体感しながら藻塩づくり体験を行った。		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
子どもたちの身近に存在する浜田の海であるが、学習のはじめに海に対する経験やイメージを尋ねたところ、実際に海と関わる経験等が少なく、海に対するイメージも「こわい」「苦手」とする児童が多く見られた。そこで、海の楽しさやよさを子どもたちに感じることができるよう、海にかかわる体験活動を取り入れることで海へのイメージをプラスにできるように考えた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
調べ活動や体験活動を通して、ふるさとの海のよさやすばらしさに気づくことができ、「もっと浜田の海に親しんでみたい」「きれいな海をこれからも守っていきたい」という気持ちを持つことにつながった。学習が2学期からだったので、児童が体験できる活動が狭まってしまった。1学期の取り組みとすれば、夏の時期にできる体験にも取り組むことができ、子どもたちに多様な体験をさせることができたと考える。		

学校名		浜田市立松原小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	浜田の海に親しもう。
めあて・目標		浜田の海で遊ぶ活動を通して、浜田の海の魅力を知り、浜田の海への愛着をもつ
関係機関・団体等		浜田市三隅B&G海洋センター
実施内容（期日、場所等を含む）		
日時：令和3年6月25日（金）（3時間）		
場所：三隅B&G海洋センター 浜田市三隅B&Gの方にライフジャケットを用意してもらい、三隅の海で海遊びをする班とカヌーをする班に分かれて活動をおこなった。浜田の海で遊ぶことで、浜田の海の魅力を知ることや海への愛着をもてることを目的に行った。 また、浜田の海岸を歩いてみることで外国からの漂流ごみがあることやプラスチックゴミが多いことに気づくことができた。		
  		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
導入部分で海に実際に入り、楽しむ活動を取り入れることで、その後の総合的な学習の中で取り組む「海を知る」や「海を守る」活動への導入となるように計画した。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・海で遊んだ経験を通して海に対する愛着や海を守っていききたいという気持ちをもつことができた。 ・海に様々なゴミがあることに気づくことができた。 ・子どもたちにさらに強い海への愛着をもたせるために海で遊ぶ経験（釣りなど）を他にも実施したかったが新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった。		

学校名		浜田市立石見小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
特支	自立活動	花を育てよう
めあて・目標		・花づくりを通して、栽培活動の楽しさを味わう。 ・花の販売活動を通し、積極的に他者と関わろうとする態度を養うとともに、コミュニケーション能力を高める。
関係機関・団体等		
実施内容（期日、場所等を含む）		
・4月：種まき ・5月：苗植え 水やり ・6月：販売練習 ・7月：販売①（校内） 全学級へのプレゼント ・9月：販売練習、宣伝活動 ・10月：販売②（保護者）		
      		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・生活科や理科の学習と関連付け、育ち方や苗の様子を観察した。 ・昨年度までの花や野菜づくり経験を上級生から下級生に伝えたり、育て方のコツについて調べた児童が全体に教えたりする場面を設定することで、児童同士の関わりを増やすとともに、主体的な活動となるよう促した。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・世話をしながら苗の観察をし続けたことで、「花の種類がちがうと生長速度もちがう」「花の種類によって葉の形や模様(葉脈の入り方)がちがう」など、多くの発見をすることができた。 ・プランターで育てたため、毎日朝と放課後に水やりをおこなった。実際に自分たちでお世話をすることを通して、植物を育てる大変さを感じるとともに、小さな命を大切にしようとする気持ちが感じられた。 ・育てた花は、全学級にプレゼントをしたり、販売活動をしたりした。多くの方に喜んでもらうことができ、活動の達成感や充実感につながった。		

学校名		浜田市立美川小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	「ふるさと美川」を守ろう！
めあて・目標		地域の自然と自分達の暮らしとの関わりについて調べることを通して、環境保全について関心を高めることができる。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス、美川まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む）		
3年生では、「美川っ子探検隊」というテーマで、ふるさと美川の良いところ、自慢できるところを探求する学習を行った。それを踏まえて、4年生では、みんなの大切なふるさと美川を守っていくために何ができるのか、環境保全を主体として学習を展開した。周布川に直接ふれたり、川と関わりの深い人と交流したりしながら活動を進めたいと考え、様々な活動を計画し、実施した。地域講師としては、アクアス職員の山口さん、水鳥公園を作って野鳥に餌付けをされている岡本さんなど、様々な方の話を聞き、体験や見学をした。 ・周布川や水辺の生き物について図書資料やインターネットで調べる。 ・サケの放流を行う。（4月21日：周布川河川敷） ・内田川の水質調査を行う。（6月8日：内田川） ・野鳥観察をし美川地区の川と自然と鳥の共存について知る。（11月29日：周布川土手） ・ふるさと美川を守るため（環境保全）に自分達にできることを考える。 ・自分達にできることを考え、実践する。（3月4日：河川敷、土手ごみ拾い）		
 野鳥の観察の様子  水質調査の様子  サケの放流の様子		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・総合的な学習の時間を使って、1年をかけて活動を行ったこと。 ・話を聞くだけでなく、実際に体験することに重点を置いた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
児童の実態として、本や辞典、資料で調べることにとても意欲的な児童が多い。この学習を行ったことで、自分で調べて分かたり課題解決したりすることができ、さらに調べようとする意欲が高まった。また、野鳥については、タブレットを用いて調べ学習も行った。写真や音声があることで鳥のことが良く分かり、より学習に関心がもてた。また、毎日見ている周布川について学習を進めたことで、四季の様々な景色や動植物の様子、地域の行事などについての関心が一層高まった。 児童が主体的に地域と関わっていくために、今後も地域課題を解決する探求的な学習の進め方を検討していく必要がある。また、担任が変わっても前年と同じように地域の方々と関わっていけるよう、校内において地域人材のデータベース化を進めている。それを活用して今後もより一層地域と連携して活動を進めていきたい。		

学校名		浜田市立周布小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	川・海探検隊
めあて・目標		浜田の海や周布川について体験したり調べたりする活動を通して、ふるさとに対する誇りやふるさとを大切にしようとする気持ちを育てる。
関係機関・団体等		浜田市三隅B&G海洋センター
実施内容（期日、場所等を含む）		
○9月24日（金） 三隅の海岸でカヌー体験を行った。カヌーを漕ぎながらマリンスポーツの楽しさを感じつつ、ライフジャケットを付けた時と付けていない時の浮き方を体験し、命を守りながら安全に海に親しむよさについて知ることができた。また、海辺の事故について写真を見ながら考えることができた。		
  		
○11月25日（木） 日脚海岸のゴミ拾いを行った。予想していたよりも多くのゴミが落ちており、ゴミを適切に処理することの大切さが分かった。ふるさとの海を自分達で守っていきたいという思いを高めることができた。		
  		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと） 子ども達の身近にある周布川についてKJ法を使って情報を整理したところ、周布川祭りや生き物についての話が出た。川の利用や川や水をきれいにするための取り組み、地域の人々の川に対する思いなどを調べ、自分達も水を大切にしていふふるさとの川や海を守っていきたいという思いを高めた。実際に日脚海岸にゴミ拾いに行ったことで、ふるさとに貢献できたという意識を持たせた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等 調べ学習や体験学習を通して、周布川や浜田の海の様子と地域の人々の思いを知り、「海が好きになった」「周布川はすごい」「昔のようにきれいな周布川に戻したい」という思いを持つことができた。また、氾濫の歴史や川と共に発展してきた地域について考える中で「昔の人々の努力のおかげで安全に暮らせている」と考えたりゴミ拾いをする事で「もっとふるさとに貢献したい」という意欲を高めることにつながった。計画していた沢登りが地域の方の高齢化に伴い実施できなかったため、周布川について深く追及する活動から離れてしまったが、カヌー体験を通して川と海が繋がっていることをより実感することができた。		

学校名		浜田市立長浜小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	海に関する仕事を調べよう
めあて・目標		くらしを支える港の役割や港で働く方々の思い知り、水産業への興味・関心を高めるとともに、自分たちの生活は海と密接にかかわっていることに気づく。
関係機関・団体等		境港湾・空港整備事務所、海上保安庁、浜田税関、浜田港運
実施内容（期日、場所等を含む）		
◆『港の大研究』港の役割は？（10月1日） 境港湾・空港整備事務所の方に来ていただき、港の役割についての話を聞いた。「港がないとスーパーの商品棚が空っぽになる」ということを知り、とても驚いていた。自分たちの住んでいる浜田にも港があり、中国や韓国と貿易をしていることや、木やバイオマス発電のための燃料などが運ばれていること知った。 ◆海上保安庁はどんな仕事をするのか？（10月27日） 海上保安庁の方に来ていただいて仕事について詳しく話を聞いた。「海の警察官」として、海上での安全を守ったり人命救助をしたりすることはもちろん、「海の安全」を守ることが「私たちの生活を守る」ことにつながるということを知ることができた。 ◆税関は何のためにあるのか？（11月15日） 浜田税関の方に来ていただいた。実際に仕事で使われている探知機などを児童にも触れさせていただいたことで、税関の重要性和「税関があるから自分たちの生活が守られている」ことに気づくことができた。 ◆ガントリークレーンやコンテナは何のためにあるのか？（11月25日） 浜田港運へ見学に行った。海外船からの荷物をガントリークレーンやコンテナで実際に運ぶところを見せていただいた。一つの船から荷物を下ろすのに何人もの人の手がかかっていることやとても時間のかかる作業であるということを知った。また、海風の強い中での仕事だということを感じ、大変な仕事であることに気づいた。		
   		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと） ○児童が興味・関心を示したことや、疑問に思ったことを学習課題としたこと。 ○個人の学びとグループの学びと分けてまとめたこと。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等 ○自分たちの身近にある海、港、それに携わる人々について多くのことを学んだ。実際に話を聞いたり見学したりすることを通して、地域の海や港をより身近に感じるとともに、重要性にも気づくことができた。○海に関わる仕事をする人々との交流を通して、それぞれの思いを知ったり海の大切さを感じたりすることができた。また、自分たちの生活と密接に関わっている海を大切にしようという意識が高まった。		

学校名		浜田市立国府小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	こくふっこ環境調査隊 [ふるさとの海を守ろう]
めあて・目標		地域の川や海の水質調査を通して、水辺の環境保全に興味をもち、環境を守る活動や環境の大切さを発信する取組から、ふるさとの自然を守っていこうとする態度を育てる。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス、浜田市役所環境課。渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
1 課題設定〔活動の中から問題意識をもち課題を設定する〕（4時間） 7月13日、渚の交番beの方に国府海岸に来ていただき、ふるさとの海と楽しく触れ合うことを通して、よさを実感し、大切にしていきたいという心情を高めた。海岸にたくさんのごみが打ち上げられていることに気が付く児童もたくさんいた。ここに問題意識をもち、海の生き物を守るために環境をよくする取組をするという学習課題を設定した。 2 探究的な学習〔問題についての知識を広げていく〕（17時間） 10月6日、アクアスの方に来ていただき、下府川の生き物や水質環境等の調査・探究活動を行った。下府川に生息する生き物の生態を把握したり、環境保全について考えたりすることができた。 また、ふるさとの海の環境をよくするために国府海岸のごみ拾いの計画を立てた。まちづくりセンターを通してビラを配り、ごみ拾いの参加者を募ったところ、10月12日の当日には、地域の方が集まってくださり、たくさんのごみを集めることができた。続いて、その日に、拾い集めたごみはどこからきたものか、環境にどのような影響を与えているかについて、市役所の環境課の方や水辺の環境を守る活動をしている方から教えていただいた。 3 課題解決的な学習〔自分達で考えた解決の方法をやる〕（6時間） 環境を守る取組について、本で調べた方法や環境課の方から教えていただいた方法を実際に家庭で取り組んでみた。すると、実際に取り組んだことや学んだことをまとめて発信したいという気持ちが高まった。 4 学習のまとめと振り返り〔1年間の学習を通して学んだことを振り返る〕（8時間） 1人1台のタブレットを使い、教師が用意したフォーマットに自分が取り組んだことや、そこから分かったこと、気づいたことを文章で入力したり、画像を張り付けたりしてまとめた。これを印刷・冊子にし、保護者や地域の方に発信する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、実現できていない状況である。		
  		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと） 初めに、海での楽しい活動を設定し、よさを実感することで、ふるさとの海の環境を自分達で守りたいという主体的な学習になった。また、地域の方と一緒に活動する時間を設定することで、地域の方々の海への思いを児童が直接感じられる場面が多く見られた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等 活動を進めていくごとに、ふるさとの海への愛着が増し環境を守ろうという実践意欲が高まった。しかし、新型コロナウイルス感染症のため、予定していたことが延期・中止、変更など、計画通りに進めることができなかった。特に、保護者や地域の方に学校に来ていただき、発信する予定であったことができなかった。残された日数で、今年度の取組をまとめ何らかの形で発信していきたい。		

学校名		浜田市立三階小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合	浜田市の水産業について調べよう
単元又は授業等のめあて・目標		・浜田市の海・水産業への興味・関心を高める。 ・水産業について、調べたり、話を聞いたり、見学したりしたことをまとめる。
関係機関・団体等		島根県水産技術センター、渚の交番be
単元又は授業等の概要（期日、場所を含む）		
  島根県水産技術センターの見学（6月24日） 海遊び体験（7月15日 渚の交番be）		
○浜田の海・水産業について調べよう ・本やインターネットを活用して、水産業について調べた。 ・島根県水産技術センターへ行き、センターの方の話を聞いたり、施設内を見学したりした。 ・浜田市の水産業について調べたことをポスター、リーフレット等にまとめた。 ・浜田市の海洋教育プログラム（ビーチクリーン・海遊び）を体験した。		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○専門的な立場の方（島根県水産技術センターの方）からの話を聞く学習を設定したこと。 ○島根県水産技術センターの施設見学を設定したこと。 ○見学に加えて、体験を取り入れたことで、海の「楽しさ」を味わうことができたこと。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○浜田市の水産業について本やインターネットで調べたり、話を聞いたりすることを通して、浜田市の海や水産業への興味・関心が高まった。 ○水産資源の豊かさに気づき、浜田市の海、水産業は浜田の誇りであると考えていた。また、海遊び体験を通して、浜田の海により愛着をもつことができた。 ○学んだことを全校等に発信し、浜田の海や水産業の魅力を伝えられるように授業時数を確保したり、単元計画を立てたりすればよかった。		

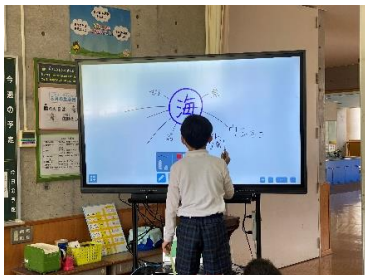
学校名		浜田市立雲城小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	藻塩づくり体験
めあて・目標		浜田の港で海にかかわる仕事について知る活動を通して、ふるさと浜田に対する愛着を深めたり、ふるさとの良さに気づいたりする。
関係機関・団体等		浜田の海で生活する会
実施内容（期日、場所等を含む）		
令和3年10月7日、浜田港近くの海の交番にて5年生児童15名で活動を行った。 金城町の児童は普段から海に行く機会の少ない児童が多いため、今回の活動を通して浜田の海の美しさや豊富な資源について知ることができた。 活動では、初めに原料となる「かじめ」のことや、くみ上げる海水の話、昔の藻塩作りの様子についての説明を聞いた。知らないことばかりで、児童は大変興味をもって聞いていた。 その後、グループに分かれて藻塩づくりを行った。カセットコンロ、片手の雪平鍋といった身近な道具から藻塩が作れることにまず驚いていた。 実際の活動では、鍋に海水とかじめを入れ、ひたすら煮込む中で次第に煮汁の色が変化していく様子を興味深く見たり、途中で味見をして「うまみ」を感じたりする姿がみられた。藻塩のおいしさと手軽に作れる工程に感心する児童が多かった。また、活動の中で、ふるさとに愛情をもって活動をする人々の話や活動にふれることで、児童自身もふるさとのよさに気づき、大切にしたいという気持ちを抱くこともできたようだった。 出来上がった藻塩は、一部を残して自宅に持ち帰り家庭で味わったようだった。 残した一部は、児童が小国で地域の方と作った米で「おにぎり」にして全校児童に配り味わった。小国米と藻塩のおにぎりはたいそうおいしく「ふるさとの味」がしたようであった。他学年が5年生に感想カードを書いて持ち寄るなど、交流にもなった。		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・様々な活動が総合的な学習の時間に連動するように年間計画を立てた。 ・合科的な学習になるように関連づけた活動にした。 （コロナ禍でも対応できるよう、年間計画を練り直した。）		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・総合的な学習の時間で学んだ他の活動と関連付けている様子が見られた。 ・浜田の魅力を感じ、もっと知りたい、調べたいという意欲が持てた。		

学校名		浜田市立今福小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3・4	総合的な学習の時間	海辺の生き物調べをしよう
めあて・目標		畳ヶ浦の海辺にどんな生き物がいるか観察し、調べたことを伝えよう。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス
実施内容（期日、場所等を含む）		
【日時】令和3年6月3日（木）8:45～12:00 【活動場所】石見畳ヶ浦 しまね海洋館アクアスの方から、畳ヶ浦の海辺に生息する生き物について説明を受けた。写真の提示もあり、児童は生き物への理解を深めるとともに、その後の活動への意欲を高めた。 採取活動では、各自、網で生き物をすくい上げてバケツに入れたり、岩に付いている貝を興味深く観察したりした。自分が見つけた生き物を嬉しそうに周囲の友達に見せる姿や、アクアスの方に進んで声をかけて自分が採った生き物の名前を教える姿が見られ、どの子も意欲的に活動に取り組んでいた。採った生き物は写真を撮った後、元の場所へ戻した。 学校では、自分が興味をもった生き物についてより詳しく調べる活動を行った。学校司書と連携し、関連の本を準備し、スムーズに調べ学習を行うことができた。調べたことを新聞にまとめ、友達や保護者に情報発信することもできた。		
   		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・安全面を考慮し、適した時期を考えて活動計画を立てた。 ・関係機関と事前の打合せをし、学習のねらいや活動の内容などの共通理解を図った。 ・活動に関連のある本を教室に置くことで、意欲を高めたり調べ学習に役立てたりした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・いろいろな生き物を自分の手で採取することができ、海にすむ生き物への関心を高めることができた。初めは恐る恐る活動していた児童も、慣れてくると歓声を上げながら生き物をとったり、嬉しそうに友達に見せたりするようになった。 ・児童がよく知っている生き物だけでなく、珍しい生き物も採取することができた。アクアスの方の専門的な話を聞くことで、児童の関心の高まりを感じた。改めて、事前の打ち合わせの重要性を実感した。 ・アクアスの方の協力により、日頃できない貴重な体験ができた。ふるさと浜田のよさや地域の人々の温かさを感じることものできる活動となった。		

学校名		浜田市立波佐小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
全校	体育	スキー教室
めあて・目標		・6年間を通してスキーの技能を習得する。 ・雪の上で楽しく活動し、元気な体をつくる。 ・助け合う気持ち・挑戦する気持ちを育てる。 ・ふるさとの自然の恩恵や地域の方々の支援・協力に感謝する心を育てる。
関係機関・団体等		金城スキー山岳会
実施内容（期日、場所等を含む）		
○期日及び場所 期日：令和4年 1月19日（火） 場所：大佐スキー場 ○グループ分け Aグループ…スキーになれているコース （これまでに身に付けた技能を使ってコースでの滑走を楽しむ） Bグループ…スキーの基礎的な技能を高めるコース （スキーの基礎的な技能を使って滑走を楽しむ）		
 		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
スキー教室実施規定を遵守し、職員行動表に沿って安全第一を考えた。特に、あいさつ、レストランでのマナー、感謝の気持ちをもつことについて指導した。当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、滑走・食事以外はマスクを着用し、食事前やバスの乗降時には手指消毒をこまめに行うなどして予防に努めながら、楽しい一日を過ごした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
当初の予定では、スキー山岳会より3名の方に講師依頼をしていたが、コロナ禍のため高齢者施設勤務の講師さんはお呼びすることができなかった。しかし、グループを2班に再編成し無理のない範囲で活動し、スキー初体験の1年生も午後からは滑走を楽しむことができた。Bグループの2年生は、リフトに乗って頂上から滑ることができ、貴重な経験をすることができた。		

学校名		浜田市立旭小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
1	生活	海の落とし物を見つけよう
めあて・目標		砂浜にある貝殻や漂流物を見つけることで、海に興味をもつことができる。
関係機関・団体等		しまね海洋館 アクアス
実施内容（期日、場所等を含む）		
11月4日（木）、波子海岸にて実施。貝殻や漂着物など、海岸に落ちている物を探す活動を行った。 最初にアクアスの学芸員の方から、どのような物が落ちているかについて説明を受けた。児童は説明を聞き、拾いたい物を考えたり、珍しい物を見つけたいという思いをもったりし、活動への意欲が高まった。 活動中は、何が落ちているかじっくりと砂浜を観察し、見つけた貝殻などの大きさや色などの特徴を捉えながら活動に取り組んだ。 活動後、円になって座り、見つけた物を一人ずつ紹介した。アクアスの学芸員の方が、児童が紹介した物について一つ一つ説明をしてくださったことで、海の生き物などについての興味がより高まった。また、ゴミを見つけた児童がいたことから、環境についても考えることができた。 ゴミがどこから流れてくるかを知ること、海が外国とつながっていることや、自分たちもポイ捨てをしてはいけないこと考えることができた。さらにクルミが落ちていたことから、海と山がつながっていることや、山を大切にすることが海を大切にすることにつながるのだということを知ることができた。		
 		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○海からは離れた地域に住んでいるので、実際に海に行く機会を設け、五感で海を感じられるようにした。 ○アクアスの学芸員の方に講師を依頼し、貝殻などの説明をしてもらうことで、海に対する興味・関心が高まるようにした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○学芸員の方に貝殻や海の生き物の話をしていただき、海や海の生き物への興味・関心が高まった。 ○海岸にゴミが落ちていたことで、ポイ捨てなどをせず、海を大切にしないといけないという気持ちを持つことができた。 ○木の実がどこから流れ着いたかを考えたことで山と海が川でつながっていることを知り、山も大切にしようという思いをもつことができた。		

学校名		浜田市立弥栄小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5・6	総合的な学習の時間	地域の良さを知ろう
めあて・目標		浜田の海での体験を通して、地域の自然の良さを知る。
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
1 期 日 令和3年9月21日（火）9：00～12：00 2 場 所 渚の交番be（浜田市瀬戸ヶ島町） 3 内 容 「海に親しみ、豊かな感受性や興味関心等を培い、体を動かしながら海に進んで関わろうとする態度を養う」「海の自然や資源、それを取りまく人や社会との深い関わりやその歴史について関心をもつ」ことを活動の目標に掲げ、「渚の交番be」の方の指導をうけながら、「釣り体験」を行った。 最初に浜田ライフセービングクラブでの活動にもかかわっておられるスタッフのお話を聞いた。「安全ということに加えてふるさと浜田の海の美しさや、自身が活動を始めた理由なども聞くことができた。続いて、瀬戸ヶ島埋め立て地の清掃活動・釣り体験を行った。 以下、子どもたちの感想である。		
・ぼくは初めて海での釣り体験をしました。・始める前にゴミを拾いました。・あんなにゴミがあるんだなと思いました。・海にゴミのポイ捨て絶対にしてはいけないと改めて思いました。・最初は結構釣れたけれど、後から釣れなくなってきました。・場所を変えたら釣れました。・魚もかしこいなと思いました。・釣った魚は、スタッフの人たちが言われたように持って帰ってから揚げにしました。・また、家族と釣りをしたいなと思いました。・違う釣りかたもやってみたいです。		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
誇りを持って活動しておられるスタッフのお話を始めにお聞きすることは必要であると思った。子どもたちが海の安全や環境を守る意欲をもち、浜田の海に愛着と誇りを持つためにも体験前にガイダンスをしていただく意義を実感した。とても良い体験であった。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
「海に親しみ、豊かな感受性や興味関心等を培い、体を動かしながら海に進んで関わろうとする態度を養う」という目標はおおむね達成できた。今後も、「楽しい」体験を通して、郷土の自然・海洋に対して自分にできることは何かを考える子どもの育成を考えたい。		

学校名		浜田市立三隅小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	ふるさと三隅の環境について考えよう
めあて・目標		自分たちのふるさと三隅の環境について調べたり、環境保全にかかわる人々と体験的な活動をしったりすることを通して、地域の環境やそれに関わる人々の願い、思いにふれ、体験活動などから課題を見出し、解決に必要な情報を収集し、目的に応じて比較・分類・関連付けて考える力や相手意識・目的意識を明確にして表現する力を育てるとともに、人々に関わったり、暮らしやすい環境について考えたりしようとする態度を育てる。
関係機関・団体等		三保まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む）		
1 田ノ浦海岸へ行き、海岸の様子を観察する。（7月）		
		
2 海岸の漂着ごみについて調査する。（7月）		
		
3 海岸の清掃活動をする。（10月）		
		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○子どもたちの気づきが活動につながるように、まず、海岸へは図工の材料探しということで出かけた。そこから、海岸には漂着したごみがたくさんあることに気づかせ、さらに、いろいろな所からごみが漂着していることに気づかせた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○漂着ごみが自分たちの出したものだけでなく、外国から来たものもあることを知り、調査活動への意欲が高まると共に、どうすればごみを減らすことができるのかという課題に対しても、国際的な視野をもって考えることができていた。		
○子どもたちの考えた取組等を、実際に発信する活動が十分に行うことができなかった。保護者や地域のみならず、HP等を活用した発信活動を行っていきたい。		

学校名		浜田市立岡見小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
6	総合的な学習の時間	海から岡見を見つめよう
めあて・目標		三隅（岡見）にある防波堤から岡見の地域を見て歩いたり、現地で魚を釣ったりすることで、自分たちの地域の海の自然の素晴らしさに気づくとともに、自分たちでその宝を守っていこうとする気持ちを育てる。
関係機関・団体等		岡見まちづくりセンター、しまね海洋館アクアス 渡船業者
実施内容（期日、場所等を含む）		
期日：令和3年7月14日（水） ・学校→古湊港→乗船体験→波止探検→魚釣り体験・生き物採取→乗船体験→古湊港→学校 ・乗船体験…岡見の山々や海岸などをいつもと違う視点から見て感じる。 ・波止探検…三隅港北防波堤（約1km）の長さを歩きながら実際に体感。（海上の波止の暑さ、海風の涼しさも実感） ・魚釣り体験・生物採取…釣り竿を使ったサビキ釣り、プランクトンネットを使った生物採取。 ・クリーン作戦（関連） 学校に帰った後、採取した生物（プランクトン）をアクアス職員と一緒に観察しながら海の生態や岡見の海の環境の素晴らしさを知る。		
   		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・単なる魚釣り体験に終わらないように生き物採取を行い、理科での学習と関連付けながら岡見の海について考えさせるようにしたこと。（アクアス職員の専門性を生かす） ・まちづくりセンターの方に岡見の海について話をしていただき、新たな発見や気づきを促すことができたこと。 ・渡船業者と打ち合わせをし、海上から地域を見るコースを設定したこと。また、釣り客と連携して釣れた魚を見せてもらえるようにしたこと。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・初めは全く釣れなかったが、みんなで考えて棚を探ったり、投げる距離を変えたりして釣れるようになった。怖がっていた児童が喜んで活動している姿も見られた。また、家に持って帰ったアジ（2匹）を家の人と一緒にフライにして食べたという声が聞かれた。 ・海の生物（プランクトン）に興味をもち、夏休みの研究に取り組んだ児童がいた。研究をまとめ、お礼としてアクアスへ送ったという嬉しいエピソードもあった。さらに、アクアス職員から賞状のサプライズがあった。		

令和3年度 ふるさと教育推進事業

浜田市内小学校・中学校

ふるさと教育取組事例集

小学校 16 校

中学校 9 校

浜田市教育委員会 学校教育課

(小学校)

学校	学年	教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
原井小	6	総合	海洋都市・浜田の未来をえがこう	外部講師4名、海洋資源	3
雲雀丘小	5・6	総合	見つめ直そう 浜田の海	渚の交番 be	5
松原小	全校	書写	書き初め会	書写に堪能な地域の方	6
石見小	4	総合	川の環境を考えよう	島根県立しまね海洋館アクアス 今井迫川、地域ボランティア	7
美川小	4	総合	「ふるさと美川を守ろう」	美川まちづくりセンター、アクアス、美川浄水場、その他	8
周布小	5	総合	「お米博士の大発見！」	地域の方より借用の水田 地域のボランティア	10
長浜小	2	生活	大きくそだてわたしの野さい	地域の野菜作りが得意なボランティア	11
国府小	5	総合	「国府（ふるさと）の魅力」	Iターンした人、まちづくりセンター 駐在所、千畳苑、三島ファーム	12
三階小	3	総合	みんなに優しいまち	島根あさひ訓練センター	13
雲城小	5	総合	小国田んぼの米作り	おぐにまちづくりセンター てごの会	14
今福小	全校	生活 総合	もち米づくり	今福・美又・久佐まちづくりセンター、地域の方	15
波佐小	全校	生活 総合	新米を食べよう ～田植えからしめ飾りまで～	地域、学校田 米作り（炊飯等）	16
旭小	5	総合	米作り体験	今市まちづくりセンター 米作り	17
弥栄小	1・2	生活	春をみつけよう	まちづくりセンタースタッフ 地域の自然、野外散策	18
三隅小	3・4	総合	三隅の自然を体験しよう(3年) 三隅の環境について考えよう(4年)	井川川（三隅川の支流） アクアス学芸員	19
岡見小	3	総合	おかみについて知ろう～おかみ かるたについて調べよう～	岡見まちづくりセンター、まち づくり実行委員会、王山クラブ	20

※ 総合：総合的な学習の時間

(中学校)

学校	学年	教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
第一中	1	総合	放課後遊び隊	浜田一中校区 地域コーディネーター	21
第二中	1	総合	「みんなが住みたい街 浜田」 を考えよう！	市役所の職員	22
第三中	3	家庭	アジギョウザを作ろう	まちづくりセンター、食生活改 善推進員、地域ボランティア	23
第四中	全校	総合	しめ縄づくり交流会	美川まちづくりセンター、地域 学校協働活動推進委員、学校借 用田	24
浜田東中	1	総合	石見銀山訪問	石見銀山	25
	2	総合	車いすバスケットボール体験交 流	三光スーパーズ	26
	3	総合	職業と将来の生き方	保護者、卒業生、地元事業所 41社	27
金城中	3	総合	伝統文化の継承 和楽器の演奏	雲城まちづくりセンター 甚左衛門太鼓保存会	28
旭中	1	総合	旭を紹介するパンフレットを作 って、紹介しよう！	各地域まちづくりセンター 地元企業の方々、旭分室	29
弥栄中	2	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、や市 まちづくりセンター、弥栄支所	30
三隅中	2	総合	防災学習（地域学校協働活動）	防災士・まちづくりセンター	32

※ 総合：総合的な学習の時間

※ 浜田東中学校からは、学年ごとに報告がありましたので、そのまま掲載しました。

学校名		浜田市立原井小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習の時間	海洋都市・浜田の未来をえがこう	外部講師 4 名、海洋資源
ねらい		ふるさと浜田の海の自然や資源を活用した取組について調べる活動を通して、ふるさと浜田の海を生かした産業に従事する人々の思いや願いに気づき、未来の浜田市について考えようとする。	
1 取組の概要			
本校の近くには浜田市の漁業を支える浜田港があり、水産業に携わっている家庭の児童も多い。 5 年生の昨年度は「浜田市の魅力＝海・水産業」であることを、浜田市の水産業を支える方々と出会いや情報収集などを手がかりにして、自分なりの根拠をもって実感することができた。今年度はその発展の学習となる。 今回は「20 年後の浜田市も、水産業の町であるのか？」という問いかけからスタートした。YES は 28 人、NO は 8 人、分からないと答えたのは 3 人であった。実際にふるさと浜田で水産業や海の仕事に携わる方との出会いを通して、「海洋都市・浜田の未来」について考え、海の自然や資源を活用した取組を提案することとした。			
			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）			
○課題の発見(気付く)			
魚の水揚げが減少していることや、漁師さんの人数・漁業会社が減っていること、水産業に従事する人が減っていることや魚を食べる人が少なくなっていることなど、これまでの学習や、経験などから得た知識などをもとに、浜田市の現状や課題を共有した。 また「浜田市役所水産振興課」や「株式会社シーライフ」「渚の交番be」から外部講師を招き、それぞれの専門分野の視点から、魅力や課題、現状などを語っていただいた。また、学校栄養士の山崎先生からも、魚料理や栄養の面から助言をもらった。			
○課題の設定(気付く)			
国語科の「町の未来をえがこう」の単元で教材文「町の幸福論」に記された、「バックキャスティング」という考え方も参考にグループ活動を進めた。自分たちで発見した課題や各分野における話をもとに、まずは浜田市の 20 年後の未来をえがき、現在を振り返って今やるべきことを探っていくこととした。「やっぱり水産業の町である」と主張するグループや、「海のレジャーを楽しむ町である」と未来を予想するグループなど、同じ思いやイメージをもつ仲間が集まり、浜田市の課題を解決する提案を話し合った。			
○課題の解決(考える)			
・ 中間発表会に向けて 自分たちの主張を伝えるために、「未来の町の具体的なイメージ」と「未来の町を実現させるための取組」「取組を行うための具体的な提案」を説明できるよう、準備を進めた。また、「いつ・どこで・だれが・なにを・どのように・どうするのか」といった内容や数値を示すことで、聞き手に納得してもらおうようにした。 ・ 中間発表 お互いの提案について、良い点やアドバイスを伝え合った。それに加え、海を生かした事業を新たに起こした「渚の交番be」の田畑さんや「シーライフ」の河上さんを再度招き、提案発表に参加してもらい助言をもらった。			



○新たな課題の発見(創り出す)

- ・学習発表会でのプレゼンテーションに向けて

中間発表を振り返り、「誰にとってよさがある活動なのか」を明確にすることや「楽しそうだから自分も参加したい」と思えるような活動を提案することを意識して、発表内容を組み立てるようにした。

- ・学習発表会

自分たちの主張や提案が正しく伝わるよう工夫した、発表原稿やスライド資料をもとにして、聞き手に語りかけた。

【提案1】…海のレジャーの町をめざして

課題は、魚を食べる人が減っていることと、レジャーをする人が少ないこと。それを受けて、「釣り大会」を企画したい。釣った魚を自分たちでさばいて食べてもらうことで、魚を食べる人を増やしたり、浜田の魚のおいしさを知ってもらったりできると考える。

【提案2】…海のレジャーの町をめざして

漁師の1日を体験できるイベントを行うことで、浜田の水産業に関心をもってもらおう。浜田の漁は夜に行われることが多いので、夜にイカ釣り体験をして、朝、港に水揚げされたものを網から外したり選別したりしてもらおう。この活動で、水産業に関する仕事に就く人が増える効果もあると考える。

(学力育成の視点から)

国語科の単元「町の未来をえがこう」で学んだ「バックキャスティング」という方法に倣って自分たちの考えをまとめることで、論理的に事柄を組み立てたり根拠をもって相手に伝えたりするようにした。

調べた資料や地域講師から聞いた話から自分たちの発表に必要な情報を吟味して、相手を納得させるプレゼンテーションを行うようにした。



3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

昨年度の学習において、児童は、「本当に浜田市は水産業が有名な町である」ことを実感していたため、未来の浜田市についても水産業の町であると考えている児童が多かった。しかし、地域講師の方々から、浜田市の海の自然や資源を活用した取組について伺うことで、水産業以外の産業に目を向けるきっかけになった。学習発表会では、児童が描いた「20年後の浜田市の姿」や現在、浜田市の水産業が抱えている課題の解決方法について発表したことで、改めてふるさと浜田の魅力に気付き、ふるさとのために何ができるのかを考えることができた。

(学力育成の視点から)

自分たちの考えを論理立てて話すことが苦手という児童の実態があったが、バックキャスティング法に倣い、自分たちの課題を追究する過程を踏むことで、広い視野を持って考える経験ができたように思う。また、自分たちの意見や提案を、根拠をもとにして自信をもって伝えることもできた。

中間発表でのアドバイスを受け、発表内容を再度編集することで、具体化した事柄を入れて話すことができるようになった。そうすることで、自分たちの主張がより明確に伝わることを実感することができた。その後の学習などにも生かす児童が増えた。

4 課題や今後の展望

本校では、来年度以降も継続して「海洋教育」を行っていきたいと考える。今年度は、4～6年生が「海」や「水産業」に関わる学びを、総合的な学習の時間や社会科、理科などの学習で行った。学年ごとに系統的・段階的に学びを深めていく内容を今後も実施するに当たっては、各学年の年間指導計画や各学年のねらい等を明確にしておく必要がある。学年が上がるにつれ、課題をより自分ごととして捉えたりこれまでの学びを生かした考えや提案等ができたりするよう、体系的な学習計画を組んで全体で共有しておく必要がある。

学校名		浜田市立雲雀丘小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5・6	総合的な学習 の時間	見つめ直そう 浜田の海	渚の交番 be
ねらい		浜田の海でできることを調べたり、実際に体験したりすることを通して、浜田の海に対する愛着や大切にしていこうという気持ちを育てる。	
1 取組の概要			
自分たちの身近にある海について見つめ直す活動を行った。始めに、自分たちの知っている浜田の海を利用した遊びや活動について発表していった。そこから、浜田の海でできることやおすすめスポットを、インターネット等を活用して調べ、「きれい楽しい浜田の海 MAP」としてまとめた。 また、渚の交番 be に協力していただき、魚釣り体験、藻塩づくり体験を行った。マップ作りや体験活動を通して、浜田の海を守っていききたいという気持ちをもったことから、そのためにどんなことができるか考え、SDGs の取り組みについて調べた。 学習して気づいたことや分かったことをまとめ、学習成果発表として保護者や全校に発表した。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
子どもたちの身近にある海であるが、学習のはじめに、海に対する経験やイメージを尋ねたところ、実際に海と関わることがそれほど多くなく、海に対するイメージも「こわい」「苦手」という児童が多く見られた。そこで、海の楽しさやよさが子どもたちに伝わるよう、体験活動を取り入れることでマイナスのイメージを少しでもプラスにイメージしたいと考えた。 (学力育成の視点から) 浜田の海について調べる際、自分たちで観点を絞り、浜田の海のおすすめスポットやそこでできる海を使った活動について調べた。インターネットを活用し情報を収集することで情報活用能力の育成を目指した。			
3 児童・生徒に見られた変容 (どのような力が身に付いたか等)			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
調べ活動や体験活動を通して、ふるさとの海のよさやすばらしさに気づくことができ、「もっと浜田の海に親しんでみたい」「きれいな海をこれからも守っていききたい」という気持ちを持つことにつながった。 (学力育成の視点から) 調べたことを、小グループでマップにまとめ、さらに全体で一つのマップにまとめた。集めた情報を整理・分析し、自分たちのマップにどうやって分かりやすく簡潔にまとめるか考えたことで情報活用能力が身についた。			
4 課題や今後の展望			
単元のスタートが2学期からだったので、実際に児童たちが体験できる活動が狭まってしまった。もっと早い時期から取り組むことで、夏の時期にできる体験にも取り組むことができ、子どもたちに多様な体験をさせることができたと考える。			





学校名		浜田市立松原小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	書写	書き初め会	書写に堪能な地域の方
ねらい		・書写に堪能な地域の方に来ていただき、実際に書き方を指導していただくことで、児童が目標をもち、意欲的に取り組むことができる。 ・新しい年を迎え、新たな気持ちで書初めに取り組むことにより、自分の力を十分に発揮して作品作りをしようとする態度を育てると共に、今年一年頑張って学習しようという意欲をもつことができる。 ・お互いの作品のよさに関心をもって鑑賞しようという態度を育てる。	
1 取組の概要			
・書写に堪能な地域の方が、実際に書いてくださる様子を見る。 ・字を書くときのポイントを教えていただく。 ・児童が書いた字を評価してもらったり、アドバイスをもらったりし、次回に生かしていく。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
書写に堪能な方から直接お話を聞くことで、書写をより身近に感じ、自ら学びたい気持ちを付けたため。			
地域の方に、子どもの様子や学校の様子を知っていただくため。			
(学力育成の視点から)			
児童が自らの課題をもち、目標をもって字に向き合う力を身につけさせたいと思い、来ていただいた。			
3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
自分たちの目の前で、書いていただくことで、書写をより身近に感じ、積極的に学ぼうとする力が身に付いた。			
(学力育成の視点から)			
書写に堪能な方から教えていただいたポイントを意識し、また同時に自らの課題に気をつけて前向きに取り組もうとする力が身に付いた。			
4 課題や今後の展望			
書写に堪能な方に今後も継続的に来ていただけるよう、打ち合わせ等をしていくことが課題となってくる。今後は、書き初め会という行事だけではなく、日々の学習の中で機会を見つけ、指導していただきたいと思う。			





学校名		浜田市立石見小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習 の時間	川の環境を考えよう	島根県立しまね海洋館アクアス 今井迫川、地域ボランティア
ねらい		今井迫川の生き物探しを通して、生き物からわかる川の環境を学び、浜田地区の環境に関心をもつことができる。	

1 取組の概要

島根県立しまね海洋館アクアスの方の指導のもと、今井迫川にいる生き物を採取し、どんな生き物がいるか資料を使って調べた。（採取した生き物は川にリリース。）

2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）

(1) 事前学習として、川にすんでいる生き物の種類によって川のきれいさが分かることを学ぶ学習をおこなった。そのことにより、児童が「浜田市に流れている川は、一体どうなのだろう？」という疑問をもち、それを解決するという課題意識をもって調査することができるようにした。

(2) ワークシートを使って、班ごとに川の様子を観察した。川の透明度や、植物の様子、においや聞こえる音など、様々な観点から川を観察するようにした。

(3) つかまえた生き物を水槽に移して観察し、資料をもとに、どんな生き物がいるかを調べた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

(1) 最初は中々生き物を捕まえることができなかったが、コツをつかむとどんどんつかまえることができた。実際に生き物に触れたり、五感を通して川の環境を感じたりする体験は、児童にとって川の環境を学ぶ上で重要なものとなった。

(2) 活動を通して、今井迫川には、カワニナやコオニヤンマの幼虫、カワゲラといった水生昆虫から、カジカやモクズガニ、ゴリやカワムツ、ハヤなど、たくさんの種類の魚もいることが分かった。活動を通して、地域の環境により関心をもったり、愛着をもったりする機会となった。

4 課題

地域のよさを知り、自分にできる環境活動を考えることを今後も継続していくことで、浜田地区の環境について自ら課題を見つけるなど、関心をもつようにしていきたい。



学校名	浜田市立美川小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な 学習の時間	「ふるさと美川を守ろう」	美川まちづくりセンター・地域の方々、アクアスの職員の方々 美川浄水場、地域の自然 野鳥の観察、サケの放流、水質調査
ねらい		地域の自然と自分達のくらしとの関わりについて調べることを通して、ふるさとへの愛着や誇りをもてるようにする。	
1 取組の概要			
〈1学期〉			
・周布川や水辺の生き物について図書資料やインターネットで調べる。			
・サケの放流を行う。			
・周布川の支流内田川の水質調査を行う。			
・美川浄水場を見学し、美川地区の「水」について知る。			
〈2学期〉			
・野鳥の観察をし、美川地区の川と自然と鳥の共存について知る。			
・ふるさと美川を守るため（環境保全）に自分達にできることを考える。			
〈3学期〉			
・ふるさと美川を守るために自分達にできることを考え、実践する。			
・学習して分かったことや感じたことをまとめる。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
3年生では、「美川っ子探検隊」というテーマで、ふるさと美川の良いところ、自慢できるところを探求する学習を行った。それを踏まえて、4年生では、みんなの大切なふるさと美川を守っていくために何ができるのか、環境保全を主体として学習を展開した。コロナ禍で活動内容や範囲に制限が加わり、予定していた活動ができないことも多かったが、可能な範囲で周布川に直接ふれたり、川と関わりの深い人と交流したりしながら活動を進めたいと考え、様々な活動を計画し、実施した。			
地域講師としては、アクアス職員の山口さん、美川浄水場の松本さん、水鳥公園を作って野鳥に餌付けをされている岡本さんなど、様々な方の話を聞き、体験や見学をした。			
			
美川浄水場見学の様子		サケの放流の様子	

（学力育成の視点から）

最終的には、「ふるさと美川を守るため」に何ができるか、他者と協働して課題の解決に向けて探求する力を育てたいと考えた。ふるさと美川を守るために何ができるか、仲間と話し合い、それを実行に移すために、1、2学期にできるだけ多くの活動や見学を実施した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

児童の実態として、本や辞典、資料で調べることにとても意欲的な児童が多い。この学習を行ったことで、自分で調べて分かったり課題解決したりすることができ、さらに調べようとする意欲が高まった。また、野鳥については、タブレットを用いて調べ学習も行った。写真や音声があることで鳥のことが良く分かり、より学習に関心がもてた。

毎日見ている周布川について学習を進めたことで、四季の様々な景色や動植物の様子、地域の行事などについての関心が一層高まった。水鳥公園は学習後に自主的に観察に行く児童もいた。

水生生物の調査（支流の内田川で実施）、社会科の美川浄水場見学等によって、ふるさとの川の水質が誇れるものであることが分かり、その川の環境をずっと大切にしていこうとする思いが高まった。「きれいな内田川をずっと守っていききたい。」と感想に書いている児童が多くいた。



野鳥の観察の様子



水質調査の様子

（学力育成の視点から）

ふるさと美川を守るために、クラスで話し合いを重ね、ごみ拾いを行うことを決めた。花を植える、木を育てる、ポスターや看板を作る、美川のキャラクターを作るなど様々な意見が出たが、川の学習を行ったときに、ごみが落ちているのが気になったことや地域の人や自分たちが気持ちよく生活したいという気持ちから、ごみ拾いに決定した。ごみ拾いは、地域の人にもよく通る、「本郷橋」、「周布川の土手、河川敷」、「学校周辺」で実施した。実施後は、振り返りをして、ごみ拾いで気づきや振り返りなどをパワーポイントにまとめた。

4 課題や今後の展望

新型コロナウイルス感染症拡大のため、活動内容や範囲に制限が加わり、予定していた活動ができないことも多かった。特に、秋から冬にかけて地域の方々と直接会う機会が少なくなった。今後は、オンラインで交流ができないかなど、活動方法を考えていく必要がある。また、児童が主体的に地域と関わっていくために、今後も地域課題を解決する探求的な学習の進め方を検討していく必要がある。担任が変わっても前年と同じように地域の方々と関わっていけるよう、校内において地域人材のデータベース化を進めている。それを活用して今後もより一層地域と連携して活動を進めていきたい。

学校名		浜田市立周布小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な 学習の時間	「お米博士の大発見！」	地域の方より借用の水田 地域のボランティア 田植え・稲刈り・炊飯活動
ねらい		米づくりの体験や地域の方々とかかわりを通して、ふるさとへの愛着を深めたり、農業に対する自身の考えを広げたりすることができる。	

1 取組の概要

○地域の方から田んぼをお借りし、田植え（5月）、稲刈り（9月）を実施する。

○家庭科の学習にて、収穫したお米を使って炊飯活動を行う。

○お世話になった方に感謝の気持ちを伝える会を計画する。

・米作り体験をきっかけとし、追求してきた米作りに関する内容を地域の方に発表する。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

体験活動をスタートする前に、地域で米づくりに従事している方の話を聞く活動を設定することで、ふるさとの米作りに対する関心を高めることができるようにした。

（学力育成の視点から）

食料の大切さや生産者の苦勞を学び、今後の生活や学習に生かそうとする思いを育むために、田植えや稲刈りという生産の過程に携わる活動を設定した。

児童の学ぶ意欲を高めたり、農業（米づくり）に対する理解を深めたりするために、体験活動と各教科のつながりを意識して授業を計画した。（主に社会科、総合的な学習の時間）

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

体験活動中だけでなく、田んぼの管理面でもお世話になったということで、振り返りや感謝の手紙には、多くの児童が学んだことだけでなく、地域の方への感謝の言葉を綴っていた。

（学力育成の視点から）

田植えや稲刈り後には、米づくりが想像以上に大変だったことを多くの児童が振り返りに書いており、生産者の苦勞や食材の大切さについての理解を深めていた。体験後に、調べたいテーマが明確になる児童も多く、実りある時間になったことが分かった。

4 課題や今後の展望

今年度の取り組みをもとに、地域の教育資源である（ひと・もの・こと）をもっと効果的に活用する方法を考え、よりよい児童の学びにつなげるようにしていく必要がある。



2021/05/06



2021/09/13





学校名		浜田市立長浜小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活科	大きくそだてわたしの野さい	地域の野菜作りが得意な ボランティア
ねらい		身近な植物の栽培に関心をもち、世話の仕方を自分で調べたり、人に聞いたりしながら、大切に世話をする中で、それらに生命があることや成長していることなどに気付くとともに、植物に愛着をもち、継続的に育てることができる。	
1 取組の概要			
児童が育てたい夏野菜を決め、学校の畑で育てた。 その際、苗の植え方や種の蒔き方、育て方、世話の仕方、収穫の仕方などを地域の野菜作りが得意なボランティアに教えてもらった。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
自分たちが住む地域には、自分たちが知らないことを知っている人がいることに気付き、野菜の育て方について教えてもらった感謝の気持ちをもつこと。 (学力育成の視点から) 野菜の世話をする中で、それらに生命があることや成長していることなどに気付くとともに、継続的に育てること。			
3 児童・生徒に見られた変容			
(どのような力が身に付いたか等)			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
ボランティアの方へ進んで質問したり、意欲的に感謝の気持ちを伝える手紙を書いたりした。 (学力育成の視点から) 継続的に野菜の世話を頑張った。			
4 課題や今後の展望			
長浜まちづくりセンターとの連携が十分にできた。来年度に向けて、振り返りをすることができたため、来年度は今年度の反省を生かして、子どもたちにとって、ボランティアにとって、より良い活動となると考えられる。			



学校名		浜田市立国府小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習	「国府（ふるさと）の魅力」	Iターンした人、まちづくりセンター 駐在所、千畳苑、三島ファーム
ねらい		見つけたふるさと（国府・浜田）の魅力を伝えたり、課題を解決したりするために、自分たちでできることを考え、発信する。	
1 取組の概要			
(1) 「20年後浜田に住んでいたい？」の問いかけから始まった学習			
(2) 校区にIターンで移住してこられた方々のお話を聞き、質問する。			
(3) 「ふるさとの魅力を守り、ひろめる」プロジェクト学習			
きれいな海や川を守る		どうやって汚れるのか、どこが汚れるのか調査する。	
きれいなまちにしたい		まちづくりセンターに来た人にアンケートをする。	
仕事（農業）を盛んにする		お店で地元の野菜がどれだけ売られているか調査する。	
犯罪や事故のないまち		駐在所に行き、どこで事故が起きやすいか聞き取りをする。	
人が集まるまち		千畳苑に来る人はどこから来て、どこへ行く人か調査する。	
笑顔あふれるまち		幟を作り、町内であいさつ運動をする。	
みどりがたくさん		植物（花）を育て、まちづくりセンターに飾ってもらう。	
自然に親しむ		国府のおすすめスポットを調べ、ポスターを作る。	
(4) 学習成果発表会で調査結果や提案を発表（コロナ禍で中止）			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、 どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
・ Iターンで移住してきた方との出会い、ふるさとの魅力を再発見するきっかけとする。			
(学力育成の視点から)			
・ 校区内の施設や地域の人々の協力を得て、主体的に取材や調査ができるようにする。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)			
・ Iターンをした人との出会いを通して、「ふるさとの魅力や課題を見つけていこう」と学習のめあてや課題づくりが自分たちの手でできるようになった。			
(学力育成の視点から)			
・ 課題解決のために、何をしたらよいか、どうすればそれができるか、必要なことは何か、など試行錯誤を繰り返しながら、協力して探究的な学習を進めていった。（見通す力・協働する力）			
4 課題			
子どもが自分たちの発想を生かして調査をしたり、実践をしたりする時、その多くが校外の学習となる。校外学習をサポートする人手が足りない。まちづくりセンターのボランティアの協力も得たが、タイムリーに来ていただくことは難しかった。			
今年度は、成果発表の機会がなかったが、表現・発信が外部への呼びかけだけでなく、自分自身の成長や行動の変容を自覚するようなまとめの学習過程を取り入れることが必要である。			

学校名		浜田市立三階小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合	みんなに優しいまち	島根あさひ訓練センター
ねらい		視覚障がいや盲導犬の訓練について調べたり体験学習を行ったりすることで、福祉に関する理解を深めるとともに、自分にできることを考え、実際の生活に活用できる力をつける。	

1 取組の概要

ユニバーサルデザインやバリアフリー、パラリンピックについて調べることを通して、生活の中の様々な場面で福祉にふれていることを知る。
アイマスク体験を通して、介助者と被介助者の両方の気持ちについて考える。
島根あさひ訓練センターの方を講師に、視覚障がいや盲導犬の訓練について説明を聞く。
学習したことをもとに、福祉について分かったことや、これから自分たちがどのように福祉に関わっていききたいかについてまとめる。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

社会科の学習の中で、浜田市旭自治区には島根あさひ訓練センターがあることを知らせ、ホームページやパンフレットを活用して、施設について調べ学習を行った。

(学力育成の視点から) 課題解決力・実行力

地域にある島根あさひ訓練センターの協力を得て、体験的な活動を取り入れたり、視覚障がい者や盲導犬の訓練について具体的に学んだりする場を設定した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

コロナの影響で、実際に島根あさひ訓練センターに行つての学習はできなかった。しかし、リモート学習を行ったことで、施設や施設の方、盲導犬についてより身近な存在となり、地域にはすばらしい施設があり、はたらきがあることを実感することができた。

(学力育成の視点から) 課題解決力・実行力

学習する前のアンケートでは、子ども達にとって「福祉」とは自分の生活と少し遠いところにあるように思っていたようであるが、学習を通してとても身近なものであるとともに、自分の生活にも大きく関わっていることに気付いた。そして、自分の生活をより豊かにしていくため、そして誰もが暮らしやすい浜田市を実現するためにできることを考えたいという思いをもつことができた。

4 課題や今後の展望

・地域にある総合福祉センターとの連携。

・「ボッチャ」体験。

・コロナ禍の中での「ひと・もの・こと」への出会いの場の工夫。





学校名		浜田市立雲城小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習 の時間	小国田んぼの米作り	おぐにまちづくりセンター てごの会
ねらい		金城の良さや、そこに住む人々のふるさとに対する思いにふれ、自分達に何ができるのかを考える。	
1 取組の概要 金城町小国地域はおいしいお米が収穫できる地域として知られている。また、学校の統合により旧小国小学校区の児童は雲城小学校に通学をしている。学校がなくなった地域の方々が、子どもたちとの活動を楽しみにしておられること、小国で田植えや稲刈りなどの体験を地域の方々と一緒にすることで地域の方の思いを知ることができること。さらに、小国のお米がおいしい秘密をさぐることで「ふるさとの良さ」を実感できると考えている。また、ふるさとの宝として、小国のお米の良さをPRしたり、活かそうとしたりする活動を通して、地域貢献の意識を高めることにもつながると考え、本活動を設定している。子ども達にもその思いを伝え、金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、自分達に何ができるかを学んでいく学習を年間通して実施した。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、故郷に対する人々の愛情を感じることで、自分達に何ができるかを学ぶために活用した。 (学力育成の視点から) 「米」という身近な題材を取り上げることで「調べてみたい」「もっと知りたい」という、主体的に学習に取り組む意欲を高めた。また、調べ学習の際には、一人一台端末を活用することで、体験活動を通しての気づきや疑問を個の興味・関心に応じて調べたり、全体にプレゼンテーションしたりすることができた。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 地域の自慢としてお米を大切に育てておられる地域の方の思いを感じ、ふるさとのよさとして自分の言葉や表現方法でPRをすることができた。また、小国地域でとれたお米のよさや、お世話になった地域の方に対する感謝の気持ちを学習発表会の発表やお米の販売の場で保護者や教職員に伝えることができた。 (学力育成の視点から) 社会科との合科的な学習により、課題発見力や情報収集・活用能力、プレゼンテーションによる表現力、体験活動や話し合いによるコミュニケーション能力が身についた。			
4 課題や今後の展望 コロナ禍という状況で難しい点もあるが、年間計画に基づいた継続的な活動を行っていく。			







学校名		浜田市立今福小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	生活 総合	もち米づくり	今福・美又・久佐まちづくりセンタ ー、地域の方
ねらい		田植えからもちつき会までの活動を通して、季節の移り変わりを感じたり、地域の自然や人に親しみをもち、そのよさに気づいたり、進んで関わろうとしたりする。	
1 取組の概要			
(1) もち米づくりの作業（田植え・稲刈り・脱穀）を行う。 (2) 稲の生長を観察する。 (3) 地域の方と一緒にもち米づくりの活動を行う中で、作業の仕方や道具の使い方などを教えてもらう。 (4) 収穫と卒業を祝い、地域の方と一緒にもちつきをして会食をする中で、これまでお世話になった地域の方との親睦を深め、感謝の気持ちを伝える。※今年度は中止。 			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 地域の方々との米作りを通して、ふるさとの自然や地域の方とふれあうことの楽しさを味わうことができるようにしたいと考えた。そのために、まちセンと地域講師と事前に綿密な打ち合わせを行い、この活動で子どもたちに身につけさせたい力やめざす子ども像について共有することに努めた。 米作りや地域の方々との交流にめあてを持って取り組めるようにするために、活動後にお礼の手紙を書き、3つのまちセンに届けることを伝えた上で活動に取り組んだ。 (学力育成の視点から) 表現力を高めるために、振り返りの時間として、地域の方々の前で自分の思いや感じたことを伝える時間を設けた。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) もち米をつくる活動や調べた情報を整理し共有する活動を通して、稲の生長や季節の変化、自然のすばらしさなど、どの学年もそれぞれに新たな気づきがあった。 地域の方と一緒に活動を行う中で、活動する楽しさを実感することができ、改めて人とのかかわり合うことのよさや大切さに気づく機会になった。 (学力育成の視点から) 地域の方が取り組んでおられる米づくりやそれにまつわる行事について興味をもち、各自課題をもって調べ活動（体験も含む）を行うことができた。			
4 課題や今後の展望			
コロナ禍における活動の制限があり、ねらいが達成しにくかった。来年度も見通しが持ちにくい状況はあるが、地域の方との活動が継続できるように工夫していきたい。			



学校名	浜田市立波佐小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	生活科、特別活動、総合的な学習の時間	新米を食べよう ～田植えからしめ飾りまで～	地域、学校田 米作り（炊飯等）
ねらい		自然の恵みを感じると共に、地域の方々に支えられて活動ができているという感謝の気持ちや波佐のよさを認識し、地域を愛し誇りをもてる子どもを育てる。	
1 取組の概要			
田植えから稲刈り、精米・炊飯活動、しめ飾り、とんど祭りまで一連の流れを体験することで自然の恩恵と地域の特色、地域の方々の温かい心を知ることができた。田植えや稲刈り、新米を食べる会やしめ飾りでは、波佐小学校の伝統を受け継ぎ上学年が下学年にやり方を教えている。また、お世話になった地域の方や保護者へ新米を贈り、喜んでいただくことで、来年度への活動の意欲づけとしている。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）			
・ひと → 地域の方々、波佐保育園、波佐まちづくりセンター			



学校名		浜田市立旭小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習 の時間	米作り体験	今市まちづくりセンター 米作り
ねらい		・米作りの体験をしたり、話を聞いたりすることを通して米のつくり方についての理解を深めて、調べてみたい自分の課題を見つける。 ・農作業を通して協力する心や生命を育てる難しさや喜び、勤労の尊さを実感することができる。 ・地域の方と同じ作業をし、交流することでふるさとを愛する気持ちを持つ。	

1 取組の概要

4月：育苗センター見学、代かき
5月：田植え
7月：生育調査
10月：稲刈りを体験したり話を聞いたりする
上記のことを通して、米に関する課題を見つけて調べた。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

学校生活ではなかなか体験することができない、農作業を通して協力する心や生命を育てる難しさや喜び、勤労の尊さを実感することができるようにした。

地域の方と同じ作業をし、交流することでふるさとを愛する気持ちを持てるように、まちづくりセンターと連携をして、JAの方や田んぼの地権者の方とふれあうことができるようにした。

（学力育成の視点から）

米作りの体験をしたり、話を聞いたりすることを通して米のつくり方についての理解を深め、調べてみたい自分の課題を見つけ、調べることができるようにした。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域の方と協力して稲刈りや田植えなどの作業をすることで、交流することの楽しさや米作りをしてもらえる方の努力にふれ、改めて地域のよさを発信していこうとする意欲を持った。

地域で米作りをしている方から、米作りに関する知識や専門的な話を聞くことを通して、米作りのことについてより深く知ることができた。

（学力育成の視点から）

米作りの体験を通して1人1人が課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に調べることができている。

4 課題や今後の展望

児童1人1人への目的意識のもたせ方に課題が見られた。

1つ1つの活動のねらいをはっきりさせ、事前指導で目的意識を持たせたい。

児童が調べたことをまとめ、学習成果発表会で発信することになっている。



学校名		浜田市立弥栄小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1～2年	生活科	春をみつけよう	まちづくりセンタースタッフ、 地域の自然、野外散策
ねらい		学校周辺の春の植物や生き物を見つけることを通して、季節の変化に 気付くこと。学習活動を通して、地域の良さに気付いたり、身近な地域 の方との関わりを深めたりすること。	
1 取組の概要			
①はじめの会（昇降口前） 「学習のめあて等確認」 ②春を見つけよう（学校周辺） 「野外散策」 ③春を食べよう（多目的室） 「まちづくりセンタースタッフによる野 外草木を使っの簡単な調理および会食」 ④おわりの会（多目的室） 「感想発表・おわりのあいさつ」 ⑤ふりかえり用紙記入（教室） 「学級でのふりかえり、ふりかえり用紙 の記入」			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用 したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）			
地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土 の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己 の生き方を考える基盤を養うための教育活動に取り組んだ。 （学力育成の視点から） 学校周辺の春の植物をまちづくりセンタースタッフの方に説明して いただいたり、春の植物の天ぷらを料理していただいたりしたことで、子 どもたちが地域に対する愛情や誇りを育む貴重な機会となった。天ぷらにして食べることができる 植物を知ったり、鳥の声などを聞きながら身近な動物について新しいことに気づいたりして、身近な 動植物対する一層の興味関心をもつ有意義な学習となった。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）			
（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 弥栄のひと・もの・ことに進んで関わり、そのよさに気づく体験をまちづくりセンターの方と共有 することで、地域の人に対する親しみや感謝の気持ちをもった。また、地域の自然について、もっと 知りたいという意欲をもった。 （学力育成の視点から） この活動を通して、季節の変化や地域の良さに気付くことができた。2年生児童はこのような感想 を書いた。「ぼくは、はる見つけで、赤いみを見つけました。つぎにふきを見つけました。 ふきは、いっぱいありました。ぼくは、ふきを3本もとりました。」「知らない花がいっぱい分かっ たので、うれしかったです。たべられるさくらとかをいっぱいてんぷらにしておいしかったです。1 年生の時は、コロナでできなかったけれど、2年生の生かつかで、こんなことをするんだとおもいま した。」			
4 課題や今後の展望			
弥栄中学校校区の本校では、「信頼し合い、助け合い、思いやりの心をもった『弥栄』を愛する子」 および「主体的に関わり、学んだことを自己表現できる子」を理想の子ども像として実践を重ねてい る。子どもにとって有意義で価値ある本事例のような実践をこれからも継続することを課題と考え ている。			

学校名		浜田市立三隅小学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3・4	総合的な学習 の時間	単元名「川の生き物探し」 三隅の自然を体験しよう(3年) 三隅の環境について考えよう(4年)	井川川（三隅川の支流） アクアス学芸員
ねらい		地域の自然（川）に出かけ、様々な生き物を見つけ、自然の様子を知ることを通して、地域の良さに気づくことができる。	

1 取組の概要

4月下旬：まちづくりセンター、アクアス、学校の3者で打合せと現地の確認

5月31日：井川川の生き物探し　～図鑑やインターネットでの調べ学習

6月8日：井川川の生き物探し　～環境について考え、川からつながる海岸清掃活動

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

当初は三隅川での活動を考えていたが、アクアス学芸員さんのアドバイスで、水量や水流など安全面の配慮と、できるだけ自然のままの川での活動を重視して井川川を選んだ。三隅の名所「井川の一本」の目の前で川遊びを満喫することができた。

（学力育成の視点から）

アクアスの方から、生き物の捕まえ方を教えてもらったり、捕獲した生き物について詳しく解説してもらったりする時間を設けた。地域や保護者の方も初めて知ることがあったようで、一緒に興味深く聞いておられた。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域の方が草刈りや更衣室の準備、当日の見守りなど積極的に協力していただき、児童が親しみを感じたり、感謝の気持ちをもったりした。「春に桜が咲いたらまた行ってみたい」という声がたくさん聞かれた。

（学力育成の視点から）

図鑑で知っている生き物を生で見たり、川の水の冷たさや美しさを体験したりする中で、24種類の生き物を捕ることができ、あちこちから歓声が上がった。アクアスの方からイシドジョウやウナギなど珍しい生き物もいることを教えてもらい、その後の調べ学習への意欲が高まった。





4 課題や今後の展望

今年度、新しい取組として3・4年生で「川の生き物探し」を行った。来年度以降も「海洋教育」として継続していきたい。また、一度きりの活動にならないよう、稲刈りや桜の花見など、井川地区の方との交流活動を考えていきたい。

当日はB&G 海洋センターから児童用・大人用のライフジャケットを50着借りた。安全第一で活動を行うためにも地域・保護者ボランティアの協力をお願いしたい。また、保護者も子どもと一緒に地域を知ってもらいよききっかけになるので、積極的に参加を呼びかけていきたい。



学校名	浜田市立岡見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な 学習の時間	おかみについて知ろう～おかみか るたについて調べよう～	岡見まちづくりセンター、岡見まち づくり実行委員会、王山クラブ
ねらい		おかみかるたについて、作成の経緯や思いを知り、地いきの人が、大切 にしていることを考え、ふるさとを大切にする心情を育む。	
1 取組の概要 「岡見のよさをしょうかいしよう」という学習の中で児童から出た「おかみかるた」について調べていった。実行委員長さんの話を聞き、完成までの経緯を聞いたり、苦労したことなどを質問したりしながら作った方の思いを聞いた。さらに実際の制作にかかわった方に来ていただき、「おかみかるた」に選ばれた岡見の名所や自慢について詳しく話を聞き、まとめた。新聞形式にまとめ、「おかみかるた」新聞を作成した。  2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 調べる上で、人とのつながりを大切にしながら進めていった。ゲストティーチャーとして来ていただいた方々は、今年度取り組んだ大豆づくりのときにもお世話になった方が多く、児童もよく知っている方々だった。なるべくたくさんコミュニケーションがとれるように地域の方に出会う機会を作り、活動を進めていった。また実際に「おかみかるた」を地域の方とすることで楽しみながら地域の方と活動をすることができ、話を聞くとき、質問するときなどにも楽しく進められるようにした。人とのつながりが今後の成長過程においてもふるさとを愛する心情の育成にも重要であると考え取り組んだ。 (学力育成の視点から) 地域の方とのコミュニケーションを円滑にするために、自分の思いを分かりやすく伝えたり、大事なことを落とさずに聞いたりする力を育成できるよう、とくに国語科との関連を意識して取り組んだ。インタビューの仕方、メモの取り方などの学習では、地域の方との場面を想起させながら取り組み、実践の場で意識できるようにした。  3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 地域の方と接する回数が増えるほどに、受け身だったコミュニケーションが徐々に能動的に変わっていった。人とのつながりを意識でき、積極的に質問したり、会話を広げたりする姿が見られるようになった。また自分たちの町にも知らないことがたくさんあり、もっと調べてみたいという思いをもつ児童もいた。 (学力育成の視点から) 話すことが苦手な児童も多かったが、質問したことに丁寧に答えてもらう経験を積むことで、意欲も高まった。またメモをしっかりととりながらあとで見返しまとめようとする姿見られるようになった。学んだことを実践に生かす、実践から学ぶという姿が見られた。 4 課題や今後の展望 今年度は、コロナ禍での活動で制限が多く、とくにまとめの学習段階では発信するという形が難しかった。新聞形式にまとめるという形をとったが、ICT 機器を使つての HP の活用なども今後取り組んでいけると発信の形も広がっていくように感じた。			



学校名		浜田市立第一中学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習	放課後遊び隊	浜田一中校区 地域コーディネーター
ねらい		小学生との交流を通して、地域のジュニアリーダー育成を図る。	

1 取組の概要

各クラスの中でいくつかのグループに分かれて、地域のジュニアリーダーとしての課題を設定し、小学校低学年を対象に様々な遊びを準備し、校区内の小学校へ訪問して各活動を行った。また、グループごとの振り返りと各学級での意見交換を行った。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

各グループが計画した遊びの内容に対して、校区の地域コーディネーターから小学校低学年に対する理解や配慮についてアドバイスをいただき、説明の仕方など細かい部分まで修正し、活動当日にむけて準備することができた。



(学力育成の視点から)

小学校低学年に対して、それぞれの遊びのルールを説明するにあたって、各グループで説明に必要な原稿やイラストを作成し、説明の練習を行った。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

小学生との遊びを通して交流することで、異年齢での交流でしか身につけることのできない、相手に対する理解や配慮を学ぶことができた。



(学力育成の視点から)

小学校低学年の児童が理解しやすい説明原稿やイラストを作成することに、情報を整理し説明を工夫する力を向上させることができた。

4 課題や今後の展望

本校は学年4クラス編成で推移しており、1クラスずつ日程を変えて交流事業を行っているため、日程の調整が年々難しい状況になっている。



学校名		浜田市立第二中学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合	「みんなが住みたい街 浜田」を考えよう！	市役所の職員
ねらい		浜田の魅力について自分たちで視点を持って調べ学習を進め、街づくりについての講話を聴く活動を行うなかで、浜田の魅力と街づくりに携わる方の思いに気づき、地域のために自分たちにできることについて提案できるようになる。	
1 取組の概要			
(1) 浜田市の魅力と課題を考え、グループで考えを交流する。 (2) 魅力と課題として挙げた意見を分類し、その中から興味・関心のある内容を取り上げ、グループごとに調べる計画を立てる。 (3) 自分が知りたいテーマについて、図書館やインターネットなどを利用して調べる。 (4) 市役所の職員の方やそのテーマに携わっておられる方のお話を聞き、浜田の魅力を高め課題を克服するために、現在浜田市が行っている取り組みを知る。また、テーマに関することやお話を聞いて、インタビューを行う。 (5) お話を聞いたり調べたりしたことをもとに、浜田の魅力を向上させるために今の自分たちにできることは何か考える。 (6) 調べたりしたことや考えたりしたことをグループごとに模造紙にまとめ、プレゼンテーションを行う。 (7) 単元全体を振り返って、振り返りシートを記入する。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 事前に「自然環境」「歴史文化」「観光」「食べ物」「人」「街」「産業」の視点で現状と課題について意見を交流しながらゲストティーチャーへの質問項目を作成し、講話をもとに浜田の魅力と課題について考えられるようにする。 (学力育成の視点から) 浜田の魅力について調べたり考えたりしたことをレポートにまとめ、相手に伝わるように表現することを目指す。※予定			
3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)			
(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) 自分たちが知りたいテーマについて意欲的に調べ学習を行っていた。 (学力育成の視点から) 調べたり考えたりしたことについて、情報を取捨選択しながらレポート形式でまとめることができる。※予定			
4 課題や今後の展望			
調べたり考えたりしたことについて、校内外を通じ、生徒目線で発信していけるような活動を組み込むことで、より意欲的にふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲を高められると考えている。			



学校名	浜田市立第三中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3 年	家庭科	アジギョウザを作ろう	・まちづくりセンター(周布、長浜、大麻) ・食生活改善推進員(長浜) ・地域ボランティアの方々
ねらい		・地域素材のアジの風味を生かした餃子を作り、地域素材の魅力を再発見する。 ・地域の方との交流を深め、コミュニケーション能力を養う。	

1 取組の概要

アジを三枚におろして、餃子を作る。

- ・まちづくりセンターから地域の方に呼びかけていただき、講師を派遣していただく。
- ・グループの中に地域講師の方に入ってもらい、少人数の指導を実施する。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・浜田の特産アジの魅力を知り、水産浜田の幸を味わう。
- ・地域の方との交流の中で、地域に愛着を持つ。

(学力育成の視点から)

- ・地域にある食材の知識
- ・地域の方の話を聞いたり、質問したりするコミュニケーション能力
- ・主体的に「食」について学ぼうとする力



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

魚が苦手な生徒も、アジを上手にさばいたり、講師の方に質問したりするなど、意欲的な取り組みが多く見られた。また、地域の方への敬意を感じる発言もあり、故郷に住む人々との良いコミュニケーションが随所に見られ、効果的な取組であった。

(学力育成の視点から)

全員にアジが配られ、全員がアジを三枚におろすことができた。魚が苦手な生徒もおいしく食べることができ、地域食材への関心と、魚をさばく技術を習得することができた。

地域の方に質問し、多くの生徒が会話をしながら餃子作りを楽しむことができた。生徒が書いた礼状にも感謝の気持ちがこもっており、良い取り組みになったと思う。初めての方にもすぐに打ち解ける生徒たちの良さが生かされた授業であった。



4 課題や今後の展望

コロナ禍で、実習がやりにくくなることが予想される。感染症に配慮した実践が求められるようになる。



学校名		浜田市立第四中学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全	総合的な学習	しめ縄づくり交流会	美川まちづくりセンター主事 地域学校協働活動推進委員 学校借用田の稲わら
ねらい		ふるさとの産業や伝統文化を知り、関心を持たせるだけでなく、主体的、協働的に取り組む生徒を育成する。	

1 取組の概要

学校借用田を活用した稲作活動（5月田植え、継続的な観察と記録、9月稲刈り、11月文化祭での米販売）を実施したまとめとして、幼稚園生、小学生と合同でしめ縄づくり（12月）を行う。（総合的な学習の時間）

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域の主要な産業である農業について関心をもつとともに、地域のボランティア指導者、地域の幼稚園、小学校との交流をすることで、「ひと」を通じた地域への愛着を育む。

（学力育成の視点から）

幼児から高齢者まで、幅広い年齢層との交流を通じて、相手の状況に応じ、時と場を考えたコミュニケーション能力を身に付け、伝え合う力を高める。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域の産業や伝統文化について関心をもつとともに、地域の多くの方が参加する活動を中学生が中心となって実施することで、自己有用感を高め、地域への愛着を育成することができた。

（学力育成の視点から）

自分が集団のリーダーとなって進行しなくてはならないという主体的な意欲をもって活動に取り組み、伝え合う力を高めることができた。



4 課題や今後の展望

地域の指導ボランティアの高齢化による減少に加え、生徒数の減少も重なって活動の維持が難しくなっている。中学生が地域への貢献を感じ、地域の伝統ともなっている行事でもあるので、あり方を工夫して継続できるようにしたい。



学校名	浜田市立浜田東中学校 ①		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な 学習の時間	石見銀山訪問	石見銀山
ねらい		世界遺産「石見銀山」について大森の町並みを見学することにより、ふるさと島根県への理解を深め、「郷土学習」の発展の場とする。	

1 取組の概要

- 事前学習として ガイダンスを行い、学習の見通しを立たせ、各係の分担を行う。
- 各班で見学先の龍源寺間歩、大森町の町並みについて、パンフレットやインターネットで情報の収集をするなど事前学習を行う。
- 当日の見学では学習係が説明をしながら、見学を行う。
- 見学後は各班で新聞を作成し、発表会をおこない理解を深める。



2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）

- 各見学先が単なる紹介ではなく、銀山の人々の生活とどのような役割があったのかを含めながら事前学習を行った。特にパンフレットや配布されたタブレットを使用し、深みのある事前学習を行った。
- 当日の見学先のスタッフに前もって、説明のお願いをした。又、街並みや銀山に詳しい教員がポイントに立ち、必要に応じて案内や説明を行った。
- 事後学習で班新聞を作成し、発表会（プレゼンテーション）では一人一発表を行った。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- 世界遺産「石見銀山」の歴史と人々とのかかわりや、生活様式の理解が深まった。
- 班で係を決めて活動することで、自分の仕事に責任をもって活動した。
- 班新聞の作成・発表で協力性・発信力（プレゼンテーション）を高めた。
- 石見銀山だけでなく、浜田市や他の地域についてさらに調べ、理解を深めたいと考える生徒が多数いた。



4 課題

- 見学先での時間は限られているので、検証を確かなものにするために、事前学習をどの程度行うか。
- 現地でスムーズなグループワークを行うためにも、見学先の係のかたの説明時間・内容などの目安をあらかじめ打ち合わせをしておく必要もあった。（張り切って説明されたためかなりの時間延長が見受けられた。）



学校名		浜田市立浜田東中学校 ②	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な 学習の時間	障がい者福祉 車いすバスケットボール体験交流	三光スーパース バスケットボールチーム
ねらい		車いすバスケットボールチームと交流・体験をすることでバリアフリーの社会について理解する態度を育成する。	

1 取組の概要

益田市三光スーパースの方を講師として、一般用車いすと競技用車いすの違いを教わった。車いすバスケットボールの魅力の話をしていただき、実際に車いすの操作や試合を行うなどの体験交流をした。

2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）

事前に高齢者福祉や障がい者福祉について学習し、一般の車いす体験活動を行った。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

福祉講話や福祉体験活動を通して、介助する側・される側の気持ちを考え、思いやりの心をもつことができた。また、車いすバスケットボールの体験交流を通して地域で障がい者の雇用を積極的に行っている事業所があることを知るとともにパラスポーツの精神を学ぶことができた。

4 課題

特記事項なし













学校名		浜田市立浜田東中学校 ③	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習	職業と将来の生き方	3年保護者、本校卒業生 地元事業所 41社
ねらい		地元の事業所での職場体験をとおして、ふるさとについての理解を深め、ふるさとで働くことの意義を知り、郷土愛と豊かな心を育てる。	
1 取組の概要			
20代の本校卒業生のインタビューの様子をDVDで見たあと、保護者3名の方に参加いただき、パネルディスカッション形式で「働くこと」についての考えを深めた。職場体験に行く企業と事前の打ち合わせをした後、2日間、地元企業に職場体験に行った。次の日に職場体験の内容と感想をレポートにまとめ、実物投影機を使って学年で発表会を行った。			
			
2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）			
・ふるさとで働くことの実態を知るために、地元で働く人の話を聞いたり、質問したりする機会を設けた。 ・コロナ禍であったので、卒業生へのインタビューはDVDに収め、生徒と参観保護者で視聴した。 ・職場体験レポート使って、学年全体で発表会をもち、各々の体験を共有した。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
1年次には、職業調べをし、自分が関心のある職業を認識し、調べ方を学ぶことで深く知る意欲をもつことができた。また、身近な人へのインタビューを通し、職業や働くことについての考えを理解した。2年次には、進路学習を進める中で、今の学びが将来につながることや自己実現につながることを次第に理解するようになっていった。そして、3年次では、職場体験に関する取組を通じて、働くことの生きがいや厳しさを知り、働くうえでコミュニケーション力や自己理解力が必要だということに気づくことができた。また、地元で働く人々がどのような考えや思いをもって職業を選択し、実際に働いているのかということを知ったことは、職業選択に向けて自己理解を深め、自らの進路選択のために努力しようという意欲を生み出したと考えられる。			
4 課題			
今年度は、実施が懸念されるなか、地元の企業の協力によって2日間の職場体験を実施できた。しかし今後も、コロナ感染拡大の影響で、様々な活動が制限されることが考えられる。このような状況であるからこそ、さらに、つきたい力を明確化して、その力をつけるため授業（活動）をつくっていかねばならない。また、生徒達の主体性を育むためには、生徒たちが体験し、学んだことを表現する場を効果的に設ける工夫が必要であると考えられる。			
			

学校名	浜田市立金城中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 音楽	・ 伝統文化の継承 ・ 和楽器の演奏	・ 雲城まちづくりセンター ・ 甚左衛門太鼓保存会 ・ 甚左衛門ウォーク・
ねらい		郷土の伝統音楽の継承、その表現活動を通して、生徒が郷土の伝統音楽のよさを味わい、郷土への愛着をもたせる。	

1 取組の概要

中学生が地域を元気にする実践のひとつとして、郷土芸能「甚左衛門太鼓」保存会の活動に協力して、太鼓を習得し、継承していこうとする取り組み。

総合的な学習の時間と音楽の時間を使って、太鼓の練習をして、学習発表会と地域行事（岡本甚左衛門開拓 200 周年記念事業）で演奏を披露した。この活動は10年以上続いている。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・ ふるさとの伝統音楽のよさにふれることで生徒のふるさとへの愛着と誇りをもたせる。
- ・ 保存会の方々との交流を通して、生徒の地域貢献意欲を高める。

（学力育成の視点から）

- ・ 異世代交流と音楽表現を通して、コミュニケーション力を高める。
- ・ 保存会のメンバーの指導により、太鼓の演奏技術を高める。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・ 学校での練習時間以外にも、自主的に地域の方々との練習会に参加する生徒が15名ほどあり、生徒の地域貢献への意欲が高まった。
- ・ 地域の方々の中学生に寄せる期待と感謝の意をくみ取り、地域活性化の担い手としての自覚をもった。

（学力育成の視点から）

- ・ 和楽器の演奏技術と音楽表現力が高まった。
- ・ 他者と協働して創造する力が高まった。
- ・ 積極的に地域活動に協力するようになった。

4 課題や今後の展望

- ・ 地域側と事業前の計画・事業後の振り返りをする。
- ・ 目標達成のために効果的な学習計画の工夫、改善策作成をしてPDCAサイクルで連携事業の質を高めていく。



学校名		浜田市立旭中学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習の時間	旭を紹介するパンフレットを作って、紹介しよう！	各地域まちづくりセンター 地元企業の方々 旭分室
ねらい		ふるさとを再発見し、その魅力をパンフレットにまとめて紹介することで、ふるさとの魅力や課題に気づき、ふるさとをよくする方法を考える。	

1 取組の概要

・町内各まちづくりセンターの方々に旭の魅力や課題、地域の発展のために活動しておられる方々を紹介してもらうために中学校に来ていただいた。

・生徒たちは、各まちづくりセンターの方々から話を聞いたり、質問したりして、旭についての理解を深め、その内容をグループで模造紙にまとめ、校内に掲示した。

・各グループでまとめた内容の中から、もっと知りたいと感じたことを自分の探究活動のテーマとして、さらにグループに分かれた。

・各テーマで別れたグループで、地域の発展のために活動しておられる人から話を聞いたり、自分たちがもっと紹介したいもの、ことに実際に触れてみるために、地域に出かけたりした。

・自分たちで調べて、まとめたことを情報発信するために、旭の魅力を紹介するパンフレットを作成した。

・パンフレットの内容(抜粋)は、旭の魅力を感知することができるコースを自分たちで考えた。例) 温泉、おみやげ、食事、名所などに回ることができるようなコースを作成した。

・作成したパンフレットを旭支所で旭支所の方々に紹介し、新聞にも取りあげられた。



2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）

・まちづくりセンターの方々、地元で地域の発展のために活動しておられる方々から旭の魅力についてお話をしていただいたこと。⇒地域のネットワークの活用

・小学校の総合的な学習の時間の内容を確認したうえで、地域のよさの再発見につながるように授業計画を考えたこと。

・生徒たちと地域の方々との対話や体験活動を授業の中に盛り込んだこと。

・生徒たちのアイデアを活動の中に取り入れたこと。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

パンフレットを見てくださった方々に「地域の発展にこのパンフレットがきっかけとなるほど素晴らしい出来栄です」と評価してもらえたことが活動に対する達成感につながった。また、地域にあるもののよさや魅力だけではなく、関わる方々の努力や思いにも気づくきっかけとなった生徒が多くいた。

4 課題

生徒たちがアイデアを出して作成したパンフレットを今後どのように活用していくかが課題である。



学校名		浜田市立弥栄中学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2年	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、や市 杵束まちづくりセンター 安城まちづくりセンター、弥栄支所
ねらい		地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養う。 ・地域との交流を通して、故郷に愛着を持ち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えをもち、発信する力を育てる。	

1 取組の概要

1年時は、「弥栄の未来を考える～持続可能なまちづくりに向けて～」できること、「弥栄の魅力発見」「情報発信」をゴールとした取組から、2つの「まちづくりセンター」の幅広いネットワークを活用し、多くの「ひと・もの・こと」と出会い、個別の興味関心に応じた探究活動に取り組み、具体的に自分としての意見を持ちまとめ、成果として発信することができた。

この経験を受け継ぎ、2年時では「修学旅行で弥栄の魅力を発信しよう」というテーマで取り組んだ。今年度も、2つのまちづくりセンターにお世話になり、さらに地域の魅力を深掘りすることができた。地域の方にも授業に参加していただき、有効な発信プランの改善策を見つけるために意見交換をすることができた。

地域の「や市」に出店しリハーサルを予定していたが、新型コロナの影響で取り止めとなり場所を自校体育館に変更して取り組み、感染対策を考慮して、全校生徒、2年生保護者、教職員をお客さん役として協力して貰い、出店・リハーサルをおこなった。

旅行先では松江テルサで、「石見神楽の紹介」と「特産品（キビソタオル、米、農産加工品）の販売活動」に取り組んだ。緊張しながらも、弥栄の魅力をしっかりと発信することができた。



キビソタオルについてインタビューをしています。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

他地域で弥栄の魅力を発信するのは容易ではない。弥栄と他地域の文化や特徴を比較していく中で、どんな魅力をどのような形で発信すればよいのか試行錯誤することとなった。そこで、地域の「ひと・もの・こと」と深く関わり、人々の温かい思いを理解していく中で、故郷の魅力を再認識し、故郷への愛着や誇りもつことができた。



地域の方々と一緒に弥栄の特産品や農産加工品について考えています。

（学力育成の視点から）

固定化した少人数の中では、互いに影響し合うことも少なく、「誰とでもコミュニケーションがとれる」「協力して課題を解決し、より良いものを目指すことができる」「見通しを持ちながら準備を進めることができる」など、「思考・判断・表現する力」や互いに高め合うことに必要な「きいて伝える力」が育ちにくいと考えた。そこで、1年時の学習を土台に、他地域への「弥栄の魅力発信」のレベルアップした活動を通して、地域の方々と深く意見交換を繰り返し進めていく中で、これらの力を身につけさせたいと考えた。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

地域やまちづくりセンターの方々が授業にも参加してくださり、話を聞くなど積極的な意見交換をする中で、生徒は故郷の魅力を再発見するとともに、人々がつながりを持ち続けることの大切さに気付くことができた。また、地域の特産品や伝統文化を活用し他地域へ発信するまでの過程は、生徒たちの故郷に対する思いを強固なものにすることができた。



体育館で販売活動のリハーサル。お客は、全校生徒、2年保護者、教職員で

（学力育成の視点から）

石見神楽や販売活動について調べたことをもとに、展示や説明の仕方をいろいろ考え、地域の方々と意見交換をしたことは、とても効果的であった。以前に比べ、誰とでもコミュニケーションができるようになった。協力して課題を解決したり、より良いものを目指したりできるようになってきた。修学旅行先での「弥栄の魅力発信」は準備がとても大変だったが、活動後に頂いたお客様からのメッセージは、生徒たちには自己肯定感が高まるものだった。

4 課題や今後の展望

生徒5人で3つの取組は多かった。2人で相談しながらの取組はできるが、1人は生徒間の関わりが生まれにくく、見通しを持ちながらの準備がなかなか難しかった。「きいて伝える力」「インタビュー力」など、個別になると自信が持てない様子だった。対大人だけでなく、生徒同士の影響の及ぼし方も考慮しておく必要があった。

次年度は、さらに地域に開かれた教育課程の実現に向けて、実践・振り返り・工夫を重ね、生徒に望む3つの力の「チャレンジ精神、思考力、きいて伝える力」を高めていきたい。

学校名	浜田市立三隅中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な 学習の時間	防災学習（地域学校協働活動）	防災士・まちづくりセンター
ねらい		災害を知り、防災を考え、行動できる中学生になろう ・自分が生活する地域の方とともに防災について考え、地域のマイタイムラインを作成する。	
1 取組の概要			
・ふるさとの災害（水害：昭和58年）や防災について、防災士のお話を聞く。 ・まちづくりセンターに出かけ、地域の方とともにマイタイムライン（避難行動計画）を作成する。 ・スモーク体験や避難所体験、段ボールベッドの組み立て体験等を通して、マイ防災バッグを作成する。 ・地域連動の避難訓練時に、消防署と連携して起震車体験を行う。 ・防災について学習したことを振り返り、新聞にまとめる。			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力をつけるために、どのような意図をもって活用したか。			
（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） ふるさとの災害を自分の身近なこととして捉え、もしも被災したらどのような行動をとればよいか、地域の一員として防災について考える力を身に付ける。そのために防災士の方から被災時の役割や行動等を聞いたり、避難所体験等から事前準備の必要性や自分にできることを考えたりする活動を取り入れた。			
（学力育成の視点から） 状況に応じて必要な情報を集め、活用する力をつけるために、ハザードマップや警戒レベルなどの資料を活用してマイタイムラインを作成した。自分1人で考えるのではなく、他者と協働しながら完成させることを意図して、地域の方々に見守っていただきながら、班活動で取り組ませた。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 防災士の方からお話を聞き、ふるさとの災害時の被害状況を知ったり、災害時と現在のふるさとの姿を比較したりするなど、災害を身近なこととしてとらえる力がついた。また、はじめは防災学習に対する意欲の高まりがあまり見られなかったが、マイタイムラインの作成やさまざまな防災体験を通して、「良い体験になった」「家族とマイタイムラインの話をしたい」と話す生徒の姿が見られるようになった。			
（学力育成の視点から） グループに分かれて、各地区のまちづくりセンターに出かけた際は、防災ハザードマップや警戒レベルを活用することで、見方や活用の仕方を知ることができた。自分の家から避難所までの距離はどのくらいか、洪水リスクがあるか、防災バッグに何を準備するか等、災害時の危険を予測する力がついた。			
			
4 課題や今後の展望			
防災学習をとおして、ふるさと（居住地区・家庭）への貢献意欲の高まりは見られたが、ふるさとへの愛着や誇りに関する意識の高まりはあまり感じられなかった。小学校時と比べて地域の方々と触れ合う機会が減り、自身を「地域の一員」として捉えにくくなっていることも課題として挙げられる。フィールドワークも多く、生徒の関心をひくことはできたので、防災に関する地域の人の思いや考えに触れる時間を多くつくり、ふるさとに対して自分の考えを深められるような活動に展開していきたい。			